



平成24年度

年報 第27号

福島県立博物館

年報発刊に 寄せて



いま、社会は大きな変容の季節を迎えています。博物館もまた、地域や社会のなかでの役割をさまざまに問われています。福島県立博物館においては、その問いかけは思いがけず深刻な意味合いを帯びているかもしれません。

開館からやがて三十周年を迎えようとしています。懸案のリニューアルは先送りされたままで、まるでメドが立っていません。福島県博の常設展示は、ほぼ開館の時のままであり、その間積み重ねられてきた調査や研究の成果が十分には生かされていません。残念ながら、魅力は時とともに薄れています。

そして、東日本大震災はより深刻な形で、博物館の現場に影を落としています。文化財レスキューなどで試行錯誤を重ねてきました。現場では、それぞれに力を尽くしています。しかし、そもそもこうした大きな災害のもとで、文化は何をなし得るのか。それが突きつけられました。

震災後の、この福島の地に生きるためのアイデンティティを創造してゆくために、わたしたちは何ができるのか。それを博物館という現場から問いかけてみたいのです。そこに、福島県立博物館のリニューアルというテーマも絡んでくるでしょう。そのとき、本県が自然史系の博物館を持たないことにたいして、きちんとした対応が求められることでしょう。自然資源と文化資源とが手を携えて、新たな福島のアイデンティティ創りに向けて働かねばなりません。博物館とは何か、という問いを抱いて。

福島県立博物館長 赤坂 憲雄

トピックス

企画展「恐竜時代のふくしま」で恐竜の全身骨格を展示

夏の企画展「恐竜時代のふくしま」では、福島県から発見されている中生代の化石やそれを産する地層を紹介し、当時の生物相および古地理と古環境の復元を試みた。同時に、国立科学博物館などによる協力のもと、本県から発見された恐竜と関連した恐竜の全身骨格（3体）を展示した。恐竜の全身骨格を展示したのは福島県立博物館として初めての試みであった。展示した恐竜は、竜脚類のアマルガサウルス（アルゼンチン 白亜紀前期）、同じく竜脚類のマラウイサウルス（マラウイ共和国 白亜紀前期）そして鳥脚類のマイアサウラ（アメリカ 白亜紀後期）である。特にマイアサウラは実物化石で組み立てためずらしいものであった。これらの恐竜が人気を呼び、会期中13,000人を超える人々が観覧した。



アマルガサウルス



マラウイサウルス



マイアサウラ



展示状況



展示解説会

福島県立博物館の使命

平成19年7月公表 平成25年4月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、平成18年に開館20周年を迎えました。博物館は、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動をしてきました。近年、社会情勢の変化により、博物館の存在意義の見直しと博物館ニーズへの積極的対応が要請されています。このため、社会に対する責務を明確にするとともに、博物館に対してみなさんのご理解を深めていただくため、新しい時代の博物館として目指すべき目標を、「使命」として平成19年に公表しました。さらに、平成23年3月に起こった東日本大震災からの復興を博物館として積極的に支援するため、平成25年4月に「震災からの復興支援」を活動の指針に新たに追加しました。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見 博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創りだす手助けをします。

2. 出会いふれあい 博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽に入れて人と人々が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主役 博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人々が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるように努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

11. 危機管理

災害の発生に備え、避難・誘導経路や手順を確認するための訓練を毎年実施します。また、博物館資料の保全のため、展示室および収蔵庫の環境を適切に保ちます。

【震災からの復興支援】

12. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努めます。

13. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図ります。

14. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図ります。

福島県立博物館 中期目標

目標年度：平成25年度

福島県立博物館では、「使命」に基づいて策定した11項目（平成25年度からは14項目）の「活動の指針」それぞれに「重点目標」を定め、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な実施計画（中期目標）を定めました。

よりたくさんの方々には博物館を利用していただくため、概ね年間9万人の利用者数を見込み、平成22年度には開館以来の入館者数400万人を突破、25年度には430万人を超えることを目指し努力します。

このたび、平成24年度の中期目標の達成状況を「24年度評価指標」に基づいて評価しました。その結果を公表します。達成度の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善します。さらに平成25年度の目標を「25年度評価指標」として設定しました。25年度にはその指標を達成できるように努めます。利用者のみならずには中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

	平成20年度(実績)	平成21年度(実績)	平成22年度(実績)	平成23年度(実績)	平成24年度(実績)	平成25年度(目標)
入館者数	83,275	93,596	95,556	82,414	83,401	90,000
累計入館者数	3,861,281	3,954,877	4,050,433	4,132,847	4,216,248	4,306,248

※「入館者数」は、企画展開催回数で大きく左右されるため、基準年（平成20年度）同様年間2回の開催を前提として算定している。

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	25年度目標	24年度評価指標	24年度実績	達成度	25年度評価指標
専門機能	1. 地域の文化遺産の収集と継承	博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、具体的な資料整理の年次計画に基づき、整理・登録を進める。	5年間で収蔵資料約1万件的整理登録達成	各分野の整理計画に基づき実施。考古：300件 民俗：400件 歴史：500件 美術：30件 自然：400件 計1630件の整理・登録	考古：65件 民俗：63件 歴史：1,059件 美術：0件 自然：412件 合計1,599件の登録（達成度98%）	ほぼ達成	平成24年度末までに、5年間の目標である収蔵資料1万件的登録は達成された。このため、平成25年度は整理・登録の数値目標は特に設定しないが、各分野では今後とも、年次計画に沿って未整理資料の整理・登録を継続的に行う。
			作業効率を上げるために、機器類の定期的更新を行う。さらに資料データの入力・検索・管理をより効率化するとともに、コンピュータのOSに対応させるため、収蔵資料管理システムを一新する。	年次計画に沿った収蔵資料管理システムの一新	新収蔵資料管理システムの方式を決定し、本庁と協議し25年度実現を目指す	平成25年度予算で資料管理システムの更新費用が認められ、ASP・クラウド方式の新システムに移行することが決定した。	達成	年度末までに新システムを導入し、既存データの移行を完了して、平成26年度当初より、新システムの運用を可能とする。
	二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究および外部からの図書利用に資するため、年次計画に沿って図書の整理・登録および既存データの修正を進める。また、増加する図書の収蔵スペースを確保する。	図書の既存データ約9000件の修正完了	既存図書データ2000件入力	既存図書のデータ1,553件入力（達成度78%）	達成できず	既存図書のデータ1,500件入力。なお、5年間の目標である図書の既存データ約9,000件の修正は、平成23年度末までの12,070件の修正入力を以て達成済みである。	
	博物館資料情報の公開	収蔵資料情報（データベース）の公開はIT化事業の最終目標のひとつ。公開の方法や仕様について検討を進め、収蔵資料管理システムの一新後、公開に向けた作業を進める。また、整理が終了したコレクション等資料情報の公開を随時実施する。	年次計画に沿ったコレクション等資料情報の公開	博物館友の会の協力のもと、『福島県立博物館資料百選』の図録刊行	博物館友の会の協力のもと、平成24年11月に『福島県立博物館資料百選』の図録を刊行した。	達成	資料管理システムの更新に伴い、収蔵資料をインターネット上で外部公開することとなる。このため、本年度は、各分野1,000件、合計5,000件の公開資料を決定し、それらの登録内容の不備を修正する。	
資料の安全な保存	地球環境保全のため、有害ガスを排出する全館蒸着を廃止している。それに代わる方法として、資料を害虫から防ぎ安全に保存するためのIPM（総合的害虫管理）を継続実施する。	年2回の文化財害虫調査を元にしたIPMの継続実施	IPM（総合的害虫管理）の実施（2回）	IPM（総合的害虫管理）の実施（2回）	達成	IPM（総合的害虫管理）の実施（2回）		

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	25年度目標	24年度評価指標	24年度実績	達成度	25年度評価指標	
専門機能	2. 最新の研究による資料価値の発見	連携した研究活動の推進	研究の質の向上、さらに研究ネットワークを築くため、大学や文化施設あるいは民間の研究団体との共同研究を進める。	共同研究の継続実施（各年度1回以上）	共同研究の継続実施（各年度1回以上） 文部科学省科学研究費を申請できる研究機関としての認定を目指し、査読制度のある学術雑誌等に4件以上の論文掲載	展示資料調査研究「恐竜時代のふくしまに関する研究」で相馬中村層群研究会との共同研究実施 「新設展示ケースから発生する有害ガス濃度の経年変化に関する研究」で光明理化学工業株式会社との共同研究実施 査読制度のある学術雑誌等に論文掲載2件	一部達成できず	共同研究の継続実施（各年度1回以上） 文部科学省科学研究費を申請できる研究機関としての認定を目指し、査読制度のある学術雑誌等に4件以上の論文掲載	
	3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	リニューアルの推進	バックヤードを含めたリニューアルは、館の最重要課題のひとつ。将来の実現に向けて、リニューアルのコンセプト作りを開始し、可能なものからリニューアルを進める。	リニューアルの推進	リニューアルプロジェクトチームによるリニューアルに向けた議論と情報収集	23年度に実施した他館視察の成果報告会と、東北大学総合学術博物館のX線CT装置導入・活用の事例報告会を開催した。また、実習生によるポイント展の準備・開催についても、展示室改善の一環としてサポートした。	達成	リニューアルに向けた議論と情報収集を継続して進める。合わせて、東日本大震災に関わる被災文化財や災害記録の収集方針の検討、リニューアルへの反映についても議論を行う。	
		魅力ある常設展の展開	常設展のリピーター増加をめざし、常設展の小規模展示替え（テーマ展・ポイント展）を毎年実施する。	テーマ展・ポイント展の継続開催	テーマ展10回、ポイント展17回、計27回の開催	テーマ展9回、ポイント展20回、計29回の開催	達成	テーマ展10回、ポイント展17回、計27回の開催	
		オリジナル企画を中心とした企画展等の開催	館オリジナル企画を中心に、学芸員の研究成果、収蔵資料を活用した企画展や特集展を、集客を考慮しバランスよく実施する。	企画展・特集展を各年度4回のペースで開催	企画展3回・特集展1回、計4回開催	企画展3回、特集展1回、計4回開催	達成	企画展・特集展を4回開催	
		きめ細かい解説システムの実施	利用者の様々な質問に対応でき、人的コミュニケーションを大切に展示解説を維持・発展させる。	展示解説員による解説を中心に、「やさしい展示解説」（毎週土日）等の継続実施	展示解説員による土日の「やさしい展示解説」「通し解説」「部屋送り解説」の継続実施	「やさしい展示解説」169回、通し解説22回、部屋送り解説244回を実施	達成	展示解説員による解説を中心に、「やさしい展示解説」（毎週土・日）等の継続実施	
		継続性のある講座の開催	講座の体系化と、ストーリー性をもたせたシリーズ化を進め、利用者の継続参加を促進する。企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	講座・講演会を各年度100回のペースで開催	講座・講演会の開催（100回）	講座・講演会等の行事を106回開催	達成	講座・講演会の開催（100回）	
交流機能	4. 楽しめて出合いのある空間の創出	エントランスホールの多目的利用	エントランスホールや屋外という開かれた空間を使用し、博物館の展示・資料などに関連をもたせた無料のイベントを開催する。市民団体による企画・運営も検討する。	四季のイベントを中心としたエントランス周りでのイベントの継続実施（各年度4回）	東日本大震災による被災者を支援するためのメッセージを込めた「ふくしま応援ミュージアムイベント」の開催（8回）	「ふくしま応援ミュージアムイベント」を10回開催。その他被災者支援のためのさまざまなイベント・事業を実施あるいはサポートした。	達成	東日本大震災による被災者を支援するためのメッセージを込めた「ふくしま応援ミュージアムイベント」の開催（5回）	
		利用者の快適性と利便性の促進	当館の常設の売店では、館発行の図書・絵葉書のみを販売しており、利用者の多様なニーズに対応していない。20年度秋から企画展開催時を中心に試行しているミュージアムショップの運営とオリジナルグッズの開発を軌道に乗せる。	企画展等に合わせたミュージアムショップの運営とグッズの開発	ミュージアムショップの運営について再検討	友の会による検討会を3回実施したが、ミュージアムショップ再開のめどはたっていない。	達成できず	ミュージアムショップの運営のあり方については今後も継続して検討していく。	
		体験型の行事・講座の開催	来館者が参加できる体験型講座を増やす。また、それをイベント等と連結するよう試みる。	体験型の講座・プログラムの実施（各年度50回）	体験型講座・学習等の実施（50回）	体験型講座：11回 体験型イベント：13回 ハンズオンコーナー：1回 団体体験：31回 計56回実施	達成	体験型講座・学習の実施（50回）	
	5. 博物館事業への住民参加	ボランティアの受入	資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進する。	自然資料整理ボランティア（通年）、古文書整理ボランティア（月2回）を中心としたボランティアの受け入れと活動支援	事業に合わせたボランティアの継続的受け入れ	ボランティア 自然資料整理：2名 古文書整理：12名 漆の芸術祭（カキコ隊）：19名	達成	事業に合わせたボランティアの継続的受け入れ	
		6. 博物館情報の発信と公開	効果的な広報の展開	マスコミをはじめ、外部の各種メディアへの情報提供を継続するとともに、博物館からの情報発信媒体の内容と体裁の見直しを図る。とりわけホームページによる広報に力を入れる。	ホームページアクセス件数各年度40万件	ホームページアクセス件数35万件	ホームページアクセス件数467,080件（福島県立博物館：340,800件・会津・漆の芸術祭：126,280件）	達成	ホームページアクセス件数40万件
			7. 地域ネットワークの拠点	市町村との連携促進	市町村の文化施設との共同企画展の実施や、博物館資料を提供し展示協力を行う。移動展用のパッケージ化した展示を用意し、要望があれば22年度から実施する。	パッケージ移動展の普及等による移動展の継続実施	移動展の開催（1回以上）	移動展2回開催	達成
8. 新しい観光ニーズへの対応	観光事業団体との連携	各種団体との連携促進	NPOなど地域の文化団体などからの展示や講座の開催依頼には積極的に対応し、また、共同企画を立ち上げるなど事業の連携を進める。	後援行事の受入を継続実施（各年度10件以上）	後援行事の開催（10件以上） 会津・漆の芸術祭を継続開催し、展示・イベント、各団体との連携、ボランティア・学生等の受け入れを実施	「復興応援パートナー事業」を新たに立ち上げ、事業の幅を拡大。後援行事を12回開催。会津・漆の芸術祭を継続開催し、展示・イベント、各種団体との連携、ボランティア、学生等の受け入れを実施。	達成	後援行事の実施（10件以上） 会津若松市・喜多方市が主催する漆の芸術祭後継事業に協力する。	
		観光事業団体との連携	観光事業団体との連携を強め、会津地域への一層の集客を図ると共に、新しい観光ニーズに対応した企画を検討する。	観光事業団体との連携活動（PR・催事等）の実施（各年度1件以上）	漆の芸術祭で、会津若松市や県の観光協会と連携して事業を実施 観光団体と連携して新島八重の企画展の広報強化 磐梯山ジオパークが世界ジオパークを目指して観光事業団体と連携して活動を推進	達成	観光団体と連携して、新島八重の企画展の広報強化。観光事業団体と連携し、磐梯山ジオパークの世界ジオパークをめざして活動を推進		

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	25年度目標	24年度評価指標	24年度実績	達成度	25年度評価指標
運	9. 使命の明示と事業の点検	使命・目標の策定	使命に基づき、平成25年度を目標年度とした中期目標を作成し、それと連動した評価システムを作る。毎年評価・点検を行い、それをもとに計画に修正を加える。	中期目標に基づいた評価・点検の実施と計画の修正(各年度1回)	中期目標に基づいた平成23年度事業の評価・点検の実施と平成24年度計画の策定	平成23年度事業の評価・点検の実施と平成24年度計画の策定	達成	中期目標に基づいた平成24年度事業の評価・点検の実施と平成25年度計画の策定
			事業の結果を点検・評価し、それを年報やホームページで公表する。	事業の評価と改善点を毎年公表	中期目標の平成23年度達成状況および24年度評価指標を公表	中期目標の平成23年度達成状況および24年度評価指標を公表	達成	中期目標の平成24年度達成状況および25年度評価指標を公表
		利用者ニーズの把握と対応	入館者数など博物館利用に関する統計をとり、これらの分析を行う。	入館者統計の分析に基づいた事業の改善を毎年実施	県外からの観光客と県内児童に向けたPRの強化	入館者数統計はとってはいるが、その分析結果にもとづいた広報は不十分であった。	達成せず	さまざまな機会および媒体を利用して館のPRを行うとともに、効果的な広報のあり方について検討する。
			運営・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートの基本的様式と項目を、それぞれの目的に沿って定め実施する。	アンケートによる利用者満足度8割以上の達成維持	アンケートによる利用者満足度8割以上の達成	満足度(アンケートを実施したものの9件)86%批判的意見に対して物理的に不可能なもの以外は対応	達成	アンケートによる利用者満足度8割以上の達成批判的意見に対する適切な処理
営	10. 人材の育成と機能的な組織	学芸員の専門性の重視	学会等研修会へ積極的に参加し、学芸員としての専門的能力を向上させる。	学芸員による学会等研修会への参加(各年度5件以上)	学芸員による学会等研修会への参加(6件以上)	学会への参加(考古分野1回 自然分野1回 美術分野1回 民俗分野1回 保存科学2回)	達成	学芸員による学会等研修会への参加(6件以上)
機	11. 危機管理	来館者の生命の危機への対応	地震・火災に対する避難・誘導経路や手順を確認するため、訓練を実施する。	地震・火災避難訓練の年1回実施	地震・火災の避難訓練実施(1回)	避難訓練実施(10月24日)	達成	地震・火災の避難訓練実施 地震・火災時における観客の適切な誘導
		資料の危機への対応	企画展示室や収蔵庫における安定した温湿度条件の確保(特に冬場)のための改善策を図る。	収蔵庫・展示室の温湿度計測の月1回の継続実施	収蔵庫・展示室における温湿度の計測(月1回)	収蔵庫・展示室における温湿度の計測を毎月1回、計12回実施	達成	収蔵庫・展示室における温湿度の計測(月1回)
		県内文化財の保全	本県の文化財の研究・収蔵施設の拠点として、県内の文化財(自然史資料も含む)の保全のために努力する。	県内の文化財についての調査研究を継続する。その上で、災害時における被災状況の把握と保全のための対策を、行政および文化施設等と協力して実施	東日本大震災による被災資料の調査と、被災資料の救出・整理・保管作業の実施	福島県被災文化財等救援本部の一員として、被災資料の救出・整理・保管作業に携わった。	達成	活動の指針12「ふくしまの宝の発掘と保全」へ移行
		個人情報保護	県のセキュリティ対策に基づき、個人情報情報は分散しないように一元的に管理し、必要であれば適切に廃棄する。また、コンピュータへのウイルス対策を常時実施する。	県のセキュリティ監査の継続実施(年1回)とチェックのクリア	総務課: 県のセキュリティ監査によるチェックのクリア 学芸課: FKSのセキュリティガイドの順守	総務課職員については県のセキュリティ監査によるチェックをクリア 学芸課職員についてはFKS(福島県教育センター)のネットワークのセキュリティガイドを順守。個人情報流出等のセキュリティ上の問題は発生しなかった。	達成	総務課: 県のセキュリティ監査によるチェックのクリア 学芸課: FKSのセキュリティガイドの順守
震災からの復興支援(追加項目)	12. ふくしまの宝の発掘と保全	被災文化財等の救出と保全	市町村や文化施設・大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、当該地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。	行政や文化施設等と連携して、被災文化財の救出と保全。これらに関する調査研究を継続する。	-	-	-	行政や文化施設等と連携して、被災文化財の救出と保全。これらに関する調査研究を継続する。
	13. ふくしまの宝の公開と活用	救出文化財等に関する情報公開	救出および新たに収集した文化財等やそれらに関する研究成果を、さまざまな形で県民に発信する。	救出した文化財等に関する調査研究の成果を展示という形で公開する。	-	-	-	救出した文化財等に関する調査研究の成果を、展示という形で公開する。
	14. ふくしまの再生と活性化	文化資源を活用した各種事業の開催および支援	文化施設や地域の文化団体、市民グループ等と連携し、地域の復興と再生、活性化に向けたさまざまな文化活動を実施するとともに、各種団体が企画する文化事業への支援も行う。	館内外において、復興支援を目的とした各種事業を開催する。	-	-	-	館内外において、復興支援を目的とした各種事業を開催する。

● 総 評

中期目標の平成24年度評価指標については大部分、達成あるいはほぼ達成であった。

平成24年度における収蔵資料の整理・登録件数についてはほぼ達成されたが、分野により件数に大きな差がある。ただし、資料登録数については、分野によって登録前の整理に時間を要する場合があります。達成度評価には注意が必要である。5年間の目標である収蔵資料1万件の登録は達成されたが、今後とも、年次計画に沿って未整理資料の整理・登録を継続的に行っていく。

平成24年度入館者数は、前年度と比較すると若干増加したものの、目標の90,000人には達しなかった。これは、県外からの小中学生の修学旅行生の数などはややもちなおしてはいるものの、東日本大震災および原発事故の影響が根強く残っていることに起因していると考えられる。魅力的な展示やイベントを開催するとともに、効果的な広報を行っていくことが重要となろう。

友の会によるミュージアムショップ運営については、人員の確保、収益性の問題などから継続が困難な状況。友の会だけではなく、将来のリニューアルを見据えたミュージアムショップのあり方を館内でも検討していくことが必要である。

平成25年度も、東日本大震災からの復興のため、博物館として貢献できる事を積極的に実施したい。特に、被災資料のレスキューや被災者支援のためのイベント等の文化事業を継続して実施したい。

目次

I	沿革	1
II	事業の概要	3
1.	資料収集事業	3
(1)	収集展示委員会	3
(2)	受贈・受託	3
(3)	購入	4
2.	保存管理事業	4
(1)	資料の収蔵	4
(2)	登録・整理	5
(3)	貸出	6
(4)	保存	7
3.	展示事業	7
(1)	常設展示	7
(2)	企画展示	11
(3)	特集展	16
(4)	移動展	18
(5)	指定文化財の公開	21
(6)	展示解説	21
(7)	体験学習室	22
(8)	博物館新情報収集・展示室改善プロジェクト	23
4.	調査研究事業	24
(1)	展示資料調査研究	24
(2)	その他の調査研究事業	26
(3)	職員の研究活動	26
5.	教育普及事業	29
(1)	講座・講演会	29
(2)	学校・文化施設との連携	38
(3)	生涯学習・研究支援	42
(4)	博物館友の会活動への支援	43
6.	広報公聴活動および出版事業	45
(1)	広報活動	45
(2)	公聴活動	48
(3)	出版事業	49
7.	東日本大震災からの復興支援	49
(1)	文化財レスキュー	49
(2)	市町村埋蔵文化財技術協力	51
(3)	ふくしま応援ミュージアムイベント	51
(4)	館長サタデープロジェクト	56
(5)	復興応援パートナー事業	62
(6)	会津・漆の芸術祭	64
(7)	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト	67
8.	連携事業	73
(1)	磐梯山ジオパーク推進事業	73
(2)	ふくしまサイエンスぶらっとフォーム	75
(3)	福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyo	76
III	管理運営	78
1.	組織・職員	78
2.	予算	79
3.	委員会の開催	80
(1)	運営協議会	80
IV	利用状況	81
1.	入館者統計	81
(1)	平成24年度入館者統計	81
(2)	入館者の推移	82
(3)	企画展入館者統計	84
2.	出版物販売	86
V	法規	88
	福島県立博物館条例	88
	福島県立博物館運営協議会条例	89
	福島県立博物館条例施行規則	89
	福島県立博物館組織規則	92
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	93
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	93
	福島県立博物館資料所在調査要領	93
	福島県立博物館資料調査員設置要綱	94
	福島県立博物館友の会規約	94
VI	施設の概要	96
1.	建築概要	96
2.	設備	96
3.	平面図・各室一覧	97
4.	施設の修理・改築	100
VII	利用案内	101

I 沿 革

《開館にいたるまで》

- 昭和52年 5月13日 文化を考える県民会議の設置
6～8月 文化に関する県民意識調査の実施
- 昭和53年 1月24日 文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日 第1回文化振興会議開催
- 昭和54年 2月2日 文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日 文化施設等整備基金条例制定
4月1日 福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
12月24日 福島県美術品等取得基金条例制定
- 昭和55年 4月1日 福島県教育庁文化課内に文化施設整備室を設置
- 昭和56年 1月26日 県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月3日 県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
- 昭和57年 2月18日 県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
- 昭和58年 7月30日 建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所）
展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
- 昭和59年 6月8日 建設工事契約（㈱清水建設仙台支店・㈱会津土建・㈱秋山建設による共同企業体）
7月7日 県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
7月10日 展示工事委託契約（㈱トータルメディア開発研究所・㈱乃村工藝社・㈱丹青社による共同企業体）
7月13日 展示工事着工（～61.9.10）
- 昭和61年 3月25日 県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1 施行）
3月31日 県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月1日 県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
10月1日 展示解説員19名採用
10月18日 県立博物館開館
-

《開館してから》

- 昭和61年11月28日 登録博物館の指定（第10号）
- 昭和63年 8月21日 入館者50万人達成
- 平成元年 3月10日 友の会設立
- 平成2年10月7日 入館者100万人達成
- 平成4年 3月31日 日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
- 平成5年 4月1日 展示解説員22名となる
- 平成7年 5月5日 入館者200万人達成
- 平成8年10月5日 開館10周年記念式典を催す
- 平成12年10月15日 入館者300万人達成

- 平成13年 1 月25日 博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
- 平成14年 3 月25日 博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
- 平成15年 3 月24日 博物館条例第 4 条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
- 3 月28日 高橋富雄館長 「金曜講座」第393回目開催
- 3 月31日 高橋富雄館長退任
- 4 月 1 日 赤坂憲雄が県立博物館長に就任
前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
- 平成16年 4 月 8 日 赤坂憲雄館長・学芸員 「木曜の広場」第 1 回開催
- 平成17年 5 月 6 日 入館者350万人達成
- 平成18年 9 月29日 博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
- 平成19年 7 月 福島県立博物館の使命を策定し公表
- 平成19年 7 月21日 当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から」を開催
- 平成20年 7 月19日 磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
- 平成22年 6 月26日 県内の 5 つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶーふくしまの森林文化ー」を開催
- 平成23年 3 月11日 宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度 5 強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため 4 月10日まで休館

II 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等について
の審議のため、12人を委嘱している。

収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	委員長
岡田 清一	東北福祉大学教授	委員
有賀 祥隆	元東北大学大学院文学研究科教授	委員
入間田宣夫	東北芸術工科大学東北文化研究センター教授	委員
原田 一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	委員
斎藤 常正	元東北大学理学部教授	委員
平川 南	国立歴史民俗博物館館長	委員
村川 友彦	元福島県歴史資料館課長	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授	委員
柳田 俊雄	東北大学総合学術博物館館長	委員
渡邊 一雄	福島県考古学会顧問	委員

イ. 会議

平成25年 3月22日

議題

- ①平成24年度事業の実施状況について
- ②平成25年度事業計画について
- ③平成25年度の企画展等について
- ④その他

福島県立博物館の使命、および中期目
標について
文化財レスキューについて

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受贈

種痘済證	4件	個人
白虎隊自刃図	1件	個人
白虎隊實蹟	1件	個人
観光の福島縣（福島県観光協会発行）	ほか	
	3件	個人
国旗納器	1件	個人

(イ) 受託

保科正之書状	1件	個人
古文書入りたんすほか	30件	個人
紙本著色両界種子曼荼羅	1件	個人
若松城下図屏風ほか	2件	個人

鱧口ほか	3件	個人
霊元天皇宸翰和歌懐紙ほか	2件	個人
脇差	1件	個人
諸家書貼交軸ほか	5件	個人
短刀ほか	2件	個人
敏姫下賜着物ほか	3件	個人
松平容保・照姫和歌ほか	2件	個人
佐原家系図及び修験関係文書	1件	個人

イ. 美術資料

(ア) 受贈

介護老人保健施設ヨッシーランド壁紙	1件	個人
-------------------	----	----

(イ) 受託

五十三次名所図会	1件	個人
石井柏亭「初島図」ほか	1件	個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受贈

子供用竹スキー	3件	個人
鞆、玉鋼	2件	個人
スライドほか	10件	個人
結納かざり	1件	個人
氷冷蔵庫	1件	個人
踏み俵	1件	個人
座繰り	1件	個人
帯用具ほか	2件	個人
改良ムシカマド	1件	個人
棹秤（箱付）	1件	個人
彼岸獅子の笛	1件	個人
蓄音機ほか	3件	個人

(イ) 受託

16mmフィルム（昭和9年さくら祭り）	1件	富岡町長
会津農書付録 四ほか	3件	個人
石峰の作品ほか	2件	個人

エ. 考古資料

(ア) 受贈

考古資料（土器）ほか	100件	個人
------------	------	----

(イ) 受託

四穂田古墳出土短甲ほか	7件	中島村教育委員会教育長
考古資料（土器）ほか	35件	大熊町教育委員会教育長

オ. 自然資料

(ア) 受 贈

化石標本および現生貝類標本28件 個人
 化石標本 43件 個人
 現生陸貝標本ほか 11件 個人

(3) 購 入

ア. 考古資料

郡山市荒小路遺跡出土土偶レプリカ 1件

イ. 歴史資料

錦絵「京都戦争之図会津中條容保」 1件

ウ. 美術資料

加藤遠澤筆「諸葛孔明図」 1件

エ. 自然資料

ノコギリエイ化石 1件
 ヴェロキラプトル全身骨格産状（複製） 1件
 白亜紀アンモナイト化石ほか 31件

オ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野23冊、歴史分野12冊、美術分野
 8冊、民俗分野24冊、自然分野25冊、保
 存分野30冊、その他61冊 計183冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物購入リスト

(H25. 3. 31現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考 古
2	宗教研究	民 俗
3	ナショナルジオグラフィック	共 通
4	第四紀研究	自 然
5	ヒストリア	歴 史
6	考古学雑誌	考 古
7	日本民俗学	民 俗
8	信濃	共 通
9	ミュゼ	共 通
10	史林	共 通
11	史学雑誌	歴 史
12	歴史評論	歴 史
13	地方史研究	歴 史
14	日本史研究	歴 史
15	日本歴史	歴 史
16	歴史学研究	歴 史
17	仏教芸術	美 術
18	美術手帳	美 術
19	芸術新潮	美 術
20	国華	美 術
21	古代文化	考 古
22	文化財発掘出土情報	考 古
23	考古学ジャーナル	考 古
24	季刊考古学	考 古
25	日経サイエンス	自 然
26	科学	自 然
27	化学	保存科学
28	海洋	自 然
29	地球	自 然
30	月刊文化財	共 通
31	たくさんのふしぎ	共 通
32	ニュートン	共 通
33	Journal of the Foraminiferal Research	自 然

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数

の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数(平成25年3月31日現在)

分野	件 数	備 考
考 古	20,278	土器・石器・金属器ほか
民 俗	13,127	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴 史	21,019	書籍・文書資料ほか
美 術	6,176	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自 然	48,374	化石・岩石・鉱物ほか
合 計	108,974	

収蔵指定文化財一覧（寄託資料を含む）

(平成25年3月31日現在)

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	資料名	点数	単位	備考
1	21	国	重要文化財	絵 画	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	1	国	重要文化財	絵 画	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	8	国	重要文化財	工 芸 品	銅鉢	2	口	指定4口中 の2口寄託
4	11	国	重要文化財	工 芸 品	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	4	国	重要文化財	工 芸 品	白銅三鈷杵	1	点	寄託

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	資料名	点数	単位	備考
6	7	国	重要文化財	工芸品	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	14	国	重要文化財	考古資料	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	12	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
9	26	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
10	27	福島県	重要文化財	絵画	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
11	16	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
12	29	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
13	30	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
14	9	福島県	重要文化財	彫刻	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
15	5	福島県	重要文化財	彫刻	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
16	6	福島県	重要文化財	彫刻	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
17	24	福島県	重要文化財	工芸品	銅鉢	1	口	寄託
18	19	福島県	重要文化財	工芸品	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
19	17	福島県	重要文化財	工芸品	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
20	10	福島県	重要文化財	書跡	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
21	13	福島県	重要文化財	書跡	相馬家系図	1	巻	寄託
22	33	福島県	重要文化財	典籍	家世実紀	277	冊	館蔵
23	31	福島県	重要文化財	古文書	築田家文書	一括		寄託
24	37	福島県	重要文化財	歴史資料	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
25	2	福島県	重要文化財	考古資料	福島信夫山出土品	一括		館蔵
26	18	福島県	重要文化財	考古資料	金銅製双鱼袋金具	2	枚	館蔵
27	20	福島県	重要文化財	考古資料	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
28	28	福島県	重要文化財	考古資料	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
29	34	福島県	重要文化財	考古資料	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
30	3	福島県	重要文化財	考古資料	田村山古墳出土品	一括		寄託
31	32	福島県	重要文化財	考古資料	森北1号墳出土品	一括		寄託
32	36	福島県	重要文化財	考古資料	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
33	23	福島県	重要文化財	歴史資料	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
34	25	福島県	重要文化財	歴史資料	陸奥内会津城絵図	1	鋪	館蔵
35	15	福島県	重要有形民俗文化財	有形民俗文化財	上行合人形	368	点	寄託
36	22	福島県	天然記念物	化石	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵
37	35	福島県	重要文化財	考古資料	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
38	38	福島県	重要文化財	考古資料	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (平成25年3月31日現在)

考古分野：22,896冊 民俗分野：4,408冊
 歴史分野：9,509冊 美術分野：3,609冊
 自然分野：15,641冊 保存分野：1,553冊
 その他：52,769冊 合計：110,385冊

(イ) 収蔵映像資料数 (平成25年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,370点

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成14年度に現在の資料管理システムを導入し、それに伴い館内ネットワークを構築し、サーバクライアント方式で資料の

登録・管理を実施している。その後、老朽化により故障がちとなった一部機器類を平成19年度末に更新している。

平成24年度は、博物館資料の登録・管理をはじめ、データのバックアップ、システムのアップデートなどのメンテナンスなどを継続して実施した。

イ. 資料の登録

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。

登録資料数

(平成25年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (平成24年度)	登録資料 (累計)
考古資料類	65	11,066
民俗資料類	63	13,548
歴史資料類	1,059	36,567
美術工芸品類	1	6,215
自然標本類	412	23,371
合計	1,600	90,767

ウ. ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

(ア) 自然資料整理

猪俣桂次 平成24年4月～12月まで週4

日通年 標本への注記(受入番号書き込み)

桑原 功 企画展「恐竜時代のふくしま」展示設営および撤収作業協力 述べ10日

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者12名が延べ89日参加し、松崎達夫家文書の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。終了したのは496点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小熊和子、笠間せい子、川原太郎、菊池フミ子、小関栄助、佐藤敏子、佐藤紀子、鈴木清二、馬場純、星弘明の諸氏。

(3) 貸出

ア. 博物館資料

貸出資料

資料名	貸出先	期間	展覧会名
三島町荒屋敷遺跡出土品	福島県文化財センター白河館	平成24年4月1日～5月23日	福島の重要文化財Ⅹ 三島町荒屋敷遺跡
新生代植物化石 温帯-冷温帯植物群と暖帯-亜熱帯性植物群 14点	ふくしま海洋科学館	平成24年4月1日～平成25年3月31日	同館常設展
泉崎村原山1号墳出土力士埴輪複製品	日本テレビ放送網株式会社	平成24年5月11日～5月13日	「世界一受けたい授業」収録のため
南相馬市ソリ畑遺跡出土石器ほか(竹島コレクション)	仙台市富沢遺跡保存館	平成24年7月1日～9月30日	富沢遺跡発掘30年史
硬玉大珠(我慢平遺跡)・硬玉原石	福島市資料展示室	平成24年9月28日～12月27日	縄文時代の物流～物の移動から見える縄文社会～
伊達政宗書状(浅野弾正少弼宛)(レプリカ) 蔵方之掟(レプリカ) 塵芥集(レプリカ) 伊達政宗騎馬像(レプリカ) 梁川城本丸・庭園跡復元模型写真	高島町郷土資料館	平成24年9月20日～12月14日	秋季ミニ企画展/県立考古資料館コラボ展「歴史のきずな～陸奥と出羽を結ぶ“高島”～その1」
郡山市正直9号墳出土石製模造品(手斧)	大安場史跡公園ガイダンス施設	平成24年10月10日～12月20日	よみがえった正直古墳の主
南相馬市京塚沢瓦窯跡出土 花葉文軒丸瓦 同 単弁蓮華文軒丸瓦 南相馬市植松廃寺跡出土 三蕊弁蓮華文軒丸瓦 会津若松市村北瓦窯跡出土 複弁蓮華文軒丸瓦 相馬市黒木田遺跡出土 単弁蓮華文軒丸瓦 福島市腰浜廃寺跡出土 素弁蓮華文軒丸瓦 同 三重弧文軒平瓦 富岡町小浜代遺跡出土 単弁蓮華文軒丸瓦 同 三重弧文軒平瓦 泉崎村関和久上町遺跡出土 単弁蓮華文軒丸瓦	高浜市やきものの里かわら美術館	平成25年1月17日～3月29日	みちのくの瓦

資料名	貸出先	期間	展覧会名
南相馬市小高区塚原層産化石18点	南相馬市博物館	平成25年1月23日～ 3月29日	ふるさと小高
三島町小和瀬遺跡出土土偶複製品	東北電力グリーンプラ ザ・アクアホール	平成25年2月4日～ 2月10日	歳時記の郷 奥会津展
岩田善平撮影写真	東京都写真美術館・北海 道立函館美術館・鶴岡 アートフォーラム・郡山 市立美術館	平成25年2月15日～ 12月27日	夜明けまえ 知られざる日 本写真開拓史 北海道・東 北編
図書（巻一・四・六）	奥会津博物館	平成25年3月7日～ 7月5日	南山御蔵入領の戊辰戦争
泰西王侯騎馬図屏風（複製：サ ントリー美術館本） 泰西王侯騎馬図屏風（複製：神 戸市立博物館本） 富田よりおせやへの消息 2通 会津曆（嘉永5年・元治2年）	同志社大学今出川キャン パスハリス理化学館2階 Neesima Room	平成25年3月14日～ 7月10日	会津と八重一八重を育てた 故郷

イ. 写真資料

162件

歴史：269点 考古：37点 美術：38点

民俗：17点 自然：7点

施設外観等：16点 計：384点

(4) 保 存

ア. 防虫作業等

(ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展
示室、収蔵庫（一時収蔵庫、第1～第6
収蔵庫）、エントランスホール、体験学
習室、講堂、事務室、会議室、研究室、

図書室、空調機械室など主要なスペース
について昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮
遊菌、空中浮遊塵埃数、気相（アルカリ
ガス定性、ホルムアルデヒド、酢酸、ア
ンモニアの気中濃度）及び温度、湿度、
照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を
確認するため、7月3日～7月20日、10月30
日～11月30日の2回にわたり実施した。

(イ) 燻蒸庫による燻蒸

第1回（6月5日）～第4回（3月13日）
まで、新収蔵資料および企画展出品資料
などを中心に約515件の燻蒸を実施した。

3. 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、
原始から現代までの福島県の歴史を通観し、
人々の暮らしを時系列に沿って展示している。
原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間
の6つのテーマで構成される。部門展示は、テ
ーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・
考古・歴史美術の展示に分かれる。このうち「歴
史美術」は実質的には美術分野が中心で展示す
る小規模展示室として機能している。

従来、部門展示の歴史美術では年間7～8回
のテーマを設けた中規模展示を開催しているが、他
の常設展示では小規模な展示替えを不定期に実
施していたのみであり、来館者に常設展示の固定

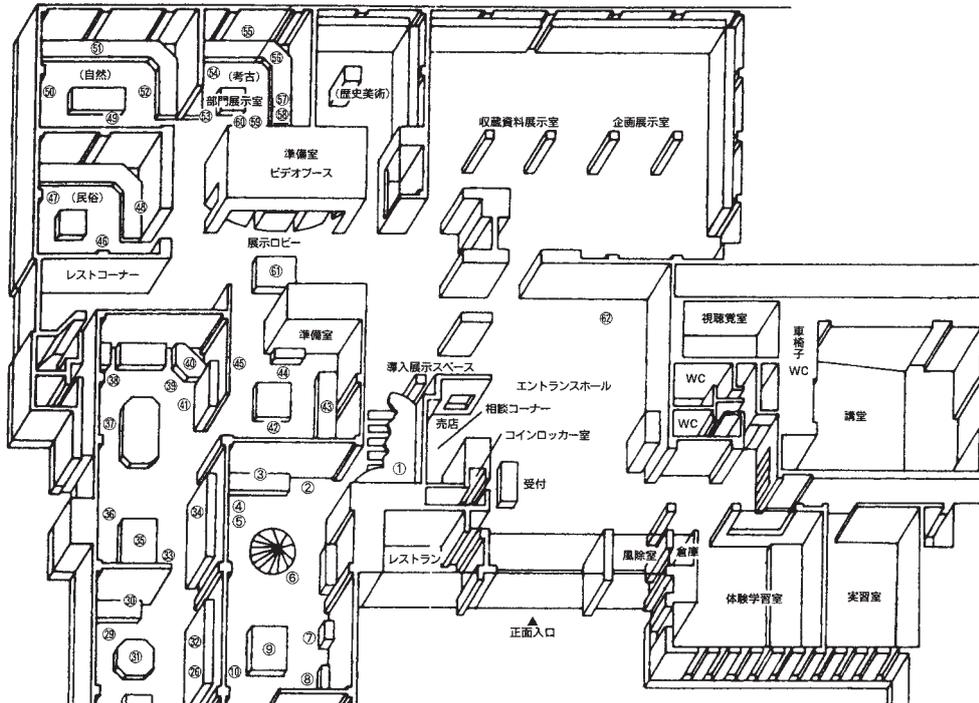
化と捉えられてしまう懸念があった。

そこで平成21年度からは、期間を区切って展示
替えを行う、「テーマ展」と「ポイント展」を新
たな範疇として常設展示に加えることとし、今年
度も継続して実施した。「テーマ展」は特定のテ
ーマ・ストーリー設定に基づく中規模の展示であり、
「ポイント展」は1点ものの資料や数点の特色ある
資料に着目して紹介する小規模展示である。ど
ちらの展示も学芸員が日頃行っている資料収集と
専門的な研究の成果を反映させて資料の持つ価
値を再評価しようとする試みである。

テーマ展・ポイント展として常設展示の中
で独立的に扱うことにより、展示替えをしやすく
する効果が生まれた。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



《総合展示》

- ① 清戸迫横穴壁画
- 原始
- ② 福島最古の人間
- ③ 水河時代の生活
- ④ 最終氷期後半の環境
- ⑤ 環境の変化と生業
- ⑥ 縄文のムラ
- ⑦ 縄文人
- ⑧ 信仰と墓地
- ⑨ 稲作の開始
- ⑩ 再葬の墓
- 古代
- ⑪ 会津大塚山古墳
- ⑫ 原山1号墳の主
- ⑬ 群集する古墳
- ⑭ ムラのくらし
- ⑮ 陸奥国の成立
- ⑯ 公民の生活
- ⑰ 在地の仏教
- 中世
- ⑱ 阿津賀志山の合戦
- ⑲ 神仏習合の世界
- ⑳ 好嶋庄の村むら
- ㉑ 南党と北党
- ㉒ 国人一揆
- ㉓ 戦国の群雄

- 近世
- ㉔ 奥羽仕置と諸藩の成立
- ㉕ 学問と文化
- ㉖ 庶民の信仰
- ㉗ 会津農書の世界
- ㉘ 町のにぎわい
- ㉙ 山国の神と人
- ㉚ 産業の発達
- ㉛ 海のなりわい
- ㉜ ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- ㉝ 戊辰戦争
- ㉞ 自由民権運動
- ㉟ 福島県の成立
- ㊱ 安積開拓事業
- ㊲ 庶民の生活
- ㊳ 日本の花形産業
- ㊴ 15年戦争下の生活
- ㊵ 戦後の社会
- ㊶ 変わりゆく社会
- 自然と人間
- ㊷ 福島の盆地と平野
- ㊸ 福島の鉱山
- ㊹ 福島の火山と湖
- ㊺ 福島の河川

《部門展示》

- 民俗(ふくしまの子供の世界)
- ㊻ 七歳まではカミのうち
- ㊼ 遊びをせんとや生まれけむ
- ㊽ 小さき者の声
- 自然(県土の形成)
- ㊾ 基盤形成の時代
- ㊿ 海の時代
- ㊽ 山脈形成の時代
- ㊿ 段丘形成の時代
- 考古(容器と利器の変遷)
- ㊽ 旧石器時代
- ㊿ 縄文時代
- ㊽ 弥生時代
- ㊿ 古墳時代
- ㊽ 奈良・平安時代
- ㊿ 中世
- ㊽ 近世
- ㊿ 近・現代
- 歴史美術(福島的美術)
- ロビー・エントランスホール
- ㊽ 白水阿弥陀堂模型
- ㊿ 二本松提燈祭竹田町太鼓台

イ. テーマ展

常設展エリア内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。本年度が4年目である。全9回実施。「ふくしまの考古資料2【会津美里町】遺跡探訪」展は会津美里町教育委員会との共催事業である。

- ①「ふるさとの考古資料2【会津美里町】遺跡探訪」(部門：考古展示室)

平成23年6月4日(土)～平成24年5月13日(日)

- ②「旧家の美術」(部門：歴史美術展示室)

平成24年3月3日(土)～4月15日(日)

- ③「ふくしまの画人たち 佐竹永海」(部門：歴史美術展示室)

平成24年4月28日(土)～6月3日(日)

- ④「ふるさとの考古資料3 館蔵『9人のコレクション』展」(部門：考古展示室)

平成24年6月5日(火)～平成25年5月12日(日)

- ⑤「会津絵」(部門：歴史美術展示室)

平成24年6月9日(土)～7月16日(月・祝)

- ⑥「けんぱくの宝2012」(部門：歴史美術展示室)

平成24年7月21日(土)～8月26日(日)

- ⑦「吉祥」(部門：歴史美術展示室)

平成24年12月22日(土)～平成25年1月27日(日)

- ⑧「常磐炭田の歴史」(総合：自然と人間展示室)

平成25年1月22日(火)～3月31日(日)

- ⑨「東神指の彼岸獅子」(部門：歴史美術展示室)

平成25年3月6日(水)～5月6日(月・祝)



「ふるさとの考古資料3 館蔵『9人のコレクション』展」
展示状況



「常磐炭田の歴史」展示状況



「東神指の彼岸獅子」展示状況



「ふくしまの画人たち 佐竹永海」展示解説会

ウ. ポイント展

常設展エリア内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。本年度が4年目である。全20回実施。今年度は博物館実習生の制作による「そうだ、会津を知ろう！～絵葉書セレクション～」をポイント展として実施した。また「奈良国立博物館所蔵『二本松市木幡山経塚群出土の遺物』」は文化庁「考古資料相互活用促進事業」の一環として開催が実現した。

- ①「小さな雛祭り」(部門：民俗展示室)
平成24年2月23日(木)～4月3日(火)
- ②「近世に書かれた中世の城絵図」(総合：中世展示室)
平成24年4月21日(土)～6月15日(金)
- ③「会津城修補絵図」(総合：近世展示室)
平成24年4月21日(土)～6月15日(金)
- ④「山姥のかもじ」(部門：民俗展示室)
平成24年4月25日(水)～6月6日(水)
- ⑤「風船爆弾の気球」(総合：近・現代展示室)
平成24年7月14日(土)～8月31日(金)
- ⑥「郡山市熱海遺跡の縄文土器」(総合：原始展示室)
平成24年7月24日(火)～平成25年3月3日(日)
- ⑦「神官が記した幕末」(総合：近・現代展示室)
平成24年7月28日(土)～9月28日(金)
- ⑧「弔い」(部門：民俗展示室)
平成24年8月22日(水)～9月26日(水)
- ⑨「そうだ、会津を知ろう！～絵葉書セレクション～」(エントランスホール)
平成24年8月26日(日)～9月23日(日)
- ⑩「相双地方の旧石器」(総合：原始展示室)
平成24年9月11日(火)～平成25年3月3日(日)
- ⑪「新島八重と襄」(総合：近・現代展示室)
平成24年9月14日(金)～11月4日(日)
- ⑫「縄文うるしの世界」(部門：歴史美術展示室)
平成24年10月6日(土)～11月30日(金)
- ⑬「会津年中行事屏風」(部門：民俗展示室)
平成24年10月11日(木)～11月21日(水)
- ⑭「新発見！弥生時代の木の道具」(総合：原始展示室)
平成24年10月16日(火)～平成25年3月3日(日)
- ⑮「ふくしまの教育資料」(総合：近・現代展示室)
平成24年10月20日(土)～11月25日(日)
- ⑯「ウニ化石の世界」(部門：自然展示室)

- 平成24年10月27日(土)～12月24日(月・祝)
- ⑰「古墳時代の象嵌技術」(総合：古代展示室)
平成24年11月13日(火)～平成25年3月3日(日)
- ⑱「こたつがけ」(部門：民俗展示室)
平成24年12月5日(水)～平成25年1月23日(水)
- ⑲「奈良国立博物館所蔵『二本松市木幡山経塚群出土の遺物』」(総合：古代展示室)
平成24年12月19日(水)～平成25年3月3日(日)
- ⑳「小さな雛祭り」(部門：民俗展示室)
平成25年2月20日(水)～4月3日(水)



「神官が記した幕末」展示状況



「新島八重と襄」展示状況



「古墳時代の象嵌技術」講演会&報告会



「こたつがけ」展示状況

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。

ア. 春の企画展

「小さなもの集まれ！ー雑道具から古民家模型までー」

(ア) 会 期 平成24年2月18日(土)～5月13日(日) 開館日数：74日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 5,708人(38日間)※平成24年度分のみ(全体では74日間で9,092人)

(エ) 担当学芸員 民俗分野：榎 陽介・内山大介・二瓶浩伸・佐々木長生

(オ) 趣 旨

雑道具のミニチュアコレクションと全国の古民家模型の作品を中心とした展覧会で、23年度からの継続で開催した。

(カ) 関連行事(24年度開催分のみ)

① ギャラリー・トーク「雑道具川内コレクションについて」

講師：川内由美子氏

日時：4月8日(日)13時30分

会場：福島県立博物館講堂・企画展示室

② 展示解説会 4月15日(日)

(キ) 成果と課題

低予算で開催した展覧会であった。中心となった二つのコレクションにいくつか付け加えるという構成であった。なんとか不入りな冬の期間を乗り切り、そこそこの入館者数があったのは、ひとえに資料自体の力のおかげであった。主要なコレクションは所蔵・制作者側からの出品の打診があったというように、よい巡り合わせがあり、展示図録も低価格ということもありよく売れた。



「小さなもの集まれ！」展示解説会

イ. 夏の企画展

「恐竜時代のふくしまー化石が語るふくしまの古環境ー」

(ア) 会 期 平成24年7月14日(土)～9月17日(月・祝) 開館日数：58日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 13,816人

(エ) 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎

(オ) 趣 旨

福島県に分布する中生代のジュラ紀～白亜紀の地層は、本県の大地の基盤をなす重要な位置を占めている。近年、本県太平洋岸に分布する相馬およびいわき地域の中生代の地層から、恐竜をはじめと

する脊椎動物・アンモナイト・昆虫・裸子植物など、新種を含めた重要な化石の発見が相次いでいる。展示では、これらの化石やそれを産する地層を紹介し、当時の生物相および古地理と古環境の復元を、東アジア全体の形成史を背景としながら示した。

また、本県太平洋岸の貴重な化石を広く紹介し、被災した標本のレスキュー活動にふれ、また後述するように企画展のダイジェスト版を相馬地域で移動展として公開する事などにより、東日本大震災から復興する地域の支援にも役立てることを意図した。

(カ) 展示構成

1. 恐竜時代の生きものたち

- ①中生代の地球
- ②中生代の生きものたち
- ③中生代の陸上の支配者 恐竜

2. ふくしまの恐竜時代

- ①相馬中村層群
- ②双葉層群

3. 東日本大震災による被災と標本のレスキュー

- ①東日本大震災による福島県太平洋岸の被災状況
- ②福島県の文化施設の被災状況
- ③標本のレスキュー活動
- ④今後のレスキュー活動と課題

(キ) 展示資料総数

約450点

(ク) 主な展示資料

アマルガサウルス（竜脚類恐竜）全身骨格
マラウイサウルス（竜脚類恐竜）全身骨格
マイアサウラ（鳥脚類恐竜）全身骨格
世界の中生代化石（脊椎動物・アンモナイト化石など）
相馬中村層群産化石（恐竜足跡・裸子植物・アンモナイト・貝類化石など）
双葉層群産化石（巨大アンモナイト・クビナガリュウ・恐竜化石など）
レスキューされた化石標本

(ケ) 関連行事

- ①記念シンポジウム「ジュラシックふくしま -1億5000万年前のふくしまの

古環境-」

講師：公益財団法人深田地質研究所会長
佐藤 正氏
財団法人自然史科学研究所 主任研究員 大花民子氏
ミュージアムパーク茨城県自然博物館資料課長 滝本秀夫氏
いわき自然史研究会顧問
高橋紀信氏
福島県立博物館専門学芸員
竹谷陽二郎

日時：7月28日(土)13時30分～16時30分

会場：福島県立博物館講堂

②記念講演会「フタバズクリュウ物語」

講師：東京学芸大学准教授

佐藤たまき氏

日時：8月25日(土)13時30分～14時45分

会場：福島県立博物館講堂

③アクアマリンふくしまによる移動水族館「アクアラバンがやってくる」

日時：8月25日(土)10時30分～16時30分

会場：福島県立博物館エントランス前
広場

④Summer Challenge 読書&サイエンス2012

日時：8月7日(火)11時～15時

会場：福島県立博物館エントランス
ホールほか

主催：福島県教育委員会

内容：

1. 福島県立図書館

移動図書館「あづま号」

科学関連の本の読み聞かせ

恐竜の折紙体験

2. ふくしまサイエンスぷらっと

フォーム 岡田 努氏

サイエンスショー

3. 福島県立博物館

体験メニュー「化石にさわってみよう」

企画展展示解説会

⑤展示解説会

講師：当館学芸員 竹谷陽二郎

日時：7月22日(日)13時30分～14時30分

8月7日(火)15時～16時

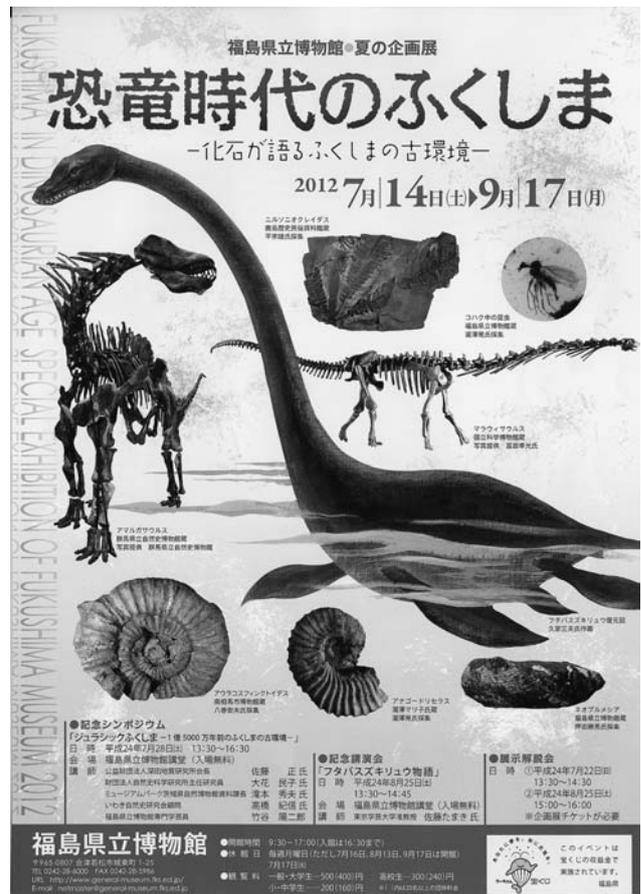
8月25日(土)15時～16時

(コ) 成果と課題

- ・夏休み期間中でもあり、恐竜を目当てに親子連れの入館者が多数訪れ、この6年間の企画展の入場者数では最高を記録した。
- ・展示した恐竜の化石は人気があったが、恐竜展と思って肉食恐竜を中心に多数の恐竜の展示を期待した観客には物足りなかったようだ。
- ・福島県の化石をもとにして生物相と環境の変遷をメインテーマとしたが、恐竜が注目され、展示の意図が十分に伝わらなかった。
- ・福島の化石を中心とした展示は評価された。ただアンモナイトや植物化石などを相当数展示したが、一般の観客は飽きたようだ。選別してメリハリのある展示とするべきだった。
- ・さわれるコーナーや顕微鏡での観察など体験型の展示が喜ばれた。
- ・自然史標本のレスキューについての企画が評価された。
- ・強制動線では混んだ時、人の流れが滞る。強制動線にしないでどこからでも恐竜の全身骨格に行きつけるようにしたが、その分順路が分かりにくかったようだ。
- ・解説文が専門的で分かりづらいという批判があった。事前に文章を一般人や子どもに見せて意見を訊くなどの工夫が必要だった。
- ・ミュージアムショップを望む声が多かった。

(サ) その他

本企画展は宝くじの収益金で実施した。



「恐竜時代のふくしま」リーフレット



記念シンポジウム「ジュラシックふくしま」



記念講演会「フタバスズキリュウ物語」



移動水族館「アクアラバンがやってくる」



「Summer Challenge 読書＆サイエンス2012」

ウ. 秋の企画展

「会津の寺宝」

(ア) 会 期 平成24年10月6日(土)～11月

25日(日) 開館日数：44日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館・会津仏教会

(エ) 入館者数 7,968人

(オ) 担当学芸員 歴史分野：高橋 充

(カ) 趣 旨

会津の地には、古代から多くの寺社が
 建立され、人びとの信仰を集めてきた。
 この企画展では、人びとの祈りが込めら
 れ、時代を越えて大切に守られてきた仏
 像・仏画・工芸品など宝物の数々を展示
 し、寺院・仏教のうつりかわりや時代によ
 って変化する多様な信仰世界を紹介した。
 本展は、会津仏教会創立100周年記念事
 業の一環として開催し、同会の寺院の
 所蔵品に特別出品を加えて展示公開した。

(キ) 展示構成

プロローグ 会津仏教の源流

第1章 会津仏教の展開－仏像と仏画－

第2章 さまざまな信仰の遺品

第3章 領主の信仰

(ク) 展示資料総数

仏像、仏画、奉納品関係（肖像画、工芸、
 文書）など77点

(ケ) おもな展示資料

〈国宝〉一字蓮台法華経開結共 龍興寺

〈重文〉金銅製双龍双鳥文磬 金剛寺

〈重文〉厨子入木造蘆名盛氏坐像 宗英
 寺

〈重文〉白銅三鈷杵 恵日寺・当館寄託

〈重文〉紙本著色蒲生氏郷像 西光寺・
 当館寄託

〈重文〉絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎
 図 当館

〈重文〉椿彫木彩漆笈 当館

(コ) 関連行事

①記念講演会「会津の仏像と仏画 鑑賞
 の極意」

講師：東京家政大学教授 若林 繁氏

「会津の仏像について」

東北大学名誉教授 有賀祥隆氏

「会津の仏画について」

日時：10月7日(日)13時30分～16時

会場：福島県立博物館講堂

②展示解説会

講師：当館学芸員 ※11月25日は会津
 仏教会会員とともに

日時：10月6日(土) 10月8日(月・祝)

11月25日(日) 各回とも13時30分～14時
 30分

会場：福島県立博物館企画展示室

③上記以外に、会津仏教会の企画によっ
 て会期中に以下のような行事が実施さ
 れた。

「プレイベント 大般若経転読の実演」

10月5日

「写経で～す」10月12日・19日・26日・

11月2日・9日・16日

「坐禅体験とDVD解説」10月13日

「記念講演会 再びの『仏道』」10月21日

「読経の実演」10月26日

「ひとり人形芝居」(ミュージアムイベ
 ント)10月28日

「腕輪念珠づくり」10月30日・11月1日・
 11日・17日・18日

「琵琶の弾き語り」11月1日

「来て！見て！聴いて！すてき仏教」

11月7日

「坐禅体験と実演」11月11日

「法衣ファッションショー」（ミュージアムイベント）11月17日

「クロージングセレモニー 常照護
みまもられて」11月25日

（サ）成果と課題

平成7年「ふくしま1000年時のかたち」、平成8年「福島山岳信仰」以来、当館ではしばらく振りに実施した仏教美術・信仰関係の企画展。地域としては会津に限定されたが、この地域の代表的な資料を展示公開することができて、会津の仏教文化の豊かさを再認識してもらう機会になった。

〈アンケートの意見より〉

「仏都会津といわれ、会津にはすばらしい仏像が残されていますが、住職のいないお寺が多くなり、お寺を訪ねても仏像を拝見することができません。このような機会に市民が拝見できるようにしていただけたらうれしく思います」（市内女 53歳 10月7日来館）

「とてもすばしかったです。まだまだ会津に秘された仏像が多くあることでしょう。ぜひ日の目をみる日が来るのを楽しみにしています」（市内男 36歳 10月10日来館）

「ごくろうさまでした。会津の寺宝が一堂に会し、見ごたえがありました」（千葉県男 60歳 11月25日来館）

アンケートでは、会津での第二弾、中通りや浜通りなど地域を変えて開催してほしいという声もいただいた。

関連行事は、会津仏教会会員に積極的に企画・参加していただき、展示の内容を補い、またより充実させるものとなった。行事を実施した日は、平日でも館内がにぎやかになり、また、これを契機にはじめて来館した方も多かった。

課題としては、以下のような点があげられる。

○展示の方法について、下記のような意見（苦情）が多数あった。

・室内の照明が暗い → 展示資料に影響が出ない範囲でスポットライト

の数を増やした

・展示資料が暗くてよく見えない（とくに仏画など） → 照度を基準ぎりぎりまで上げたが、鮮明にみえる明るさまでにはできなかった。

・キャプション説明文の文字が小さすぎて読めない → 説明文の文字を大きくし、すべて入れ替えた。

・国宝の展示場所がわかりにくい → 案内表示を増やし、バリアによって導線をつくった。

開幕後に、修正可能な点については、→以下のように修正して対応した。その結果、開幕当初に比べて会期後半には苦情の件数は減った。他の博物館・美術館では、紫外線や熱量の少ないLEDライトへの切り替えが始まっており、なぜ当館ではできていないのか、という趣旨の意見もあった。

○展示資料について、もっと詳しく知りたい、解説がほしい、という意見が多かった。実施した展示解説会や団体向け解説は、おおむね好評だったが、回数は少なかった。さらに詳しい内容の解説パネルや音声ガイドを希望する声もあった。

○開幕前後に、何が展示してあるのか知りたいという問い合わせが多かったため、展示替え予定を含めた資料一覧をホームページに掲載。展示室でも配布した。

○広報の工夫が足りなかった。

○単なる名品展、指定文化財展とはちがう切り口で、もう少しメッセージを出せるような内容になるとよかった。

○関連行事準備の連絡・調整が不十分なところもあった。



「会津の寺宝」リーフレット



「腕輪念珠づくり」



「会津の寺宝」展示解説会



記念講演会「会津の仏像と仏画鑑賞の極意」



「大般若経転読」の実演

(3) 特集展

新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会。企画展示室の一角にある収蔵資料展示室を使用する機会が多い。ただし企画展のように特別の料金はとらず常設展料金で観覧できる。予算化せず常設展費予算でやりくりする。

ア. 朝日稲荷神社の絵馬～救出された須賀川の文化財～

(ア) 会 期 平成24年5月24日(木)～6月17日(日)

(イ) 会 場 福島県立博物館収蔵資料展示室

(ウ) 入館者数 4,250人(会期中の常設展入館者数)

(エ) 担当学芸員 民俗分野：内山大介

(オ) 趣 旨

東日本大震災で被災し、倒壊寸前で

あった須賀川市の朝日稲荷神社から絵馬108点が救出された。当館に搬送して整理・調査、資料保全の完了した絵馬（寄託資料）を展示し、合わせて文化財レスキュー活動を紹介するのが展覧会のねらいである。約40点の絵馬に、写真パネルや近世の御札、神号額等の神社関連資料も合わせ、4つのコーナーで構成した。「1、朝日稲荷神社と文化財レスキュー」では文化財レスキューと神社の歴史を紹介した。「2、作品としての絵馬」では絵師の筆による絵馬や和歌・俳句の額など、絵画や文芸作品として絵馬を見せた。「3、豊作・豊漁・繁盛への願い」では豊漁豊作祈願の絵馬や蔵元の奉納額、養蚕絵馬などを紹介し、最後の「4、暮らしと信仰」では、キツネに関する絵馬、宝剣額、鳥居額等、比較的多くみられた稲荷神社に特徴のある絵馬を並べた。

(カ) 主な展示資料

朝日稲荷神社御札・版木、牛玉法印、神号額「稲蔵魂」、参詣図絵馬、会田青嶂筆「劉備・関羽・張飛図」、徳田研山筆「神馬図」、柯漉筆「神功皇后図」、大野松岳筆・道山壮山書「句額」、「神馬押絵額」、「繭額」、「白狐図」、「繭鳥居額」、「銭鳥居額」、「応召軍人名額」

(キ) 成果と課題

平成23年度に行った文化財レスキューとその後の整理作業から発案した展示であったため、十分な準備期間をとったり広報活動を行うことができなかった。しかし、被災文化財に関する当館として初めてのまとまった展示として、また文化財レスキュー活動の一般への周知という側面も含めて意義あるものであったと思われる。またこの展示から、須賀川の歴史の調査・普及活動を行う団体「須賀川知る古会」主催の講演会や、須賀川市東公民館での絵馬展の開催へと展開し、地域とのつながりを形成する契機にもなったという点でも意味のある展覧会であった。



「朝日稲荷神社の絵馬」ポスター



「朝日稲荷神社の絵馬」展示状況 1



「朝日稲荷神社の絵馬」展示状況 2

(4) 移動展

県立博物館の企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多いために移動展を実施して

いる。利用を促進するために移動展のパッケージプラン（別表）を用意し、その中から選んでいただくということも試みてきた。

移動展パッケージプラン一覧

No.	分野	規模	タイトル	期間	資料点数	概要
1	考古	A	福島県立博物館所蔵 県指定考古資料展	1～2ヶ月	30～40点	県指定品である優品の紹介
2	考古	B	三貫地貝塚展	1～6ヶ月	約40点	新地町にある縄文時代貝塚の特集
3	考古	B～C	さわってみよう、縄文人・古代人のどうぐ・うつわ・かざり	1～6ヶ月	約41点	ハンズオン+実物資料 原始・古代を実感
4	自然	A	謎の海獣 パレオパラドキシア	協議	約60点	梁川町発掘の1600万年前の化石
5	自然	B～C	見る・さわる 世界の化石	協議	約670点から選択	ハンズオン 生物の歴史と化石の楽しさを提供
6	美術	A	けんぱくの宝	協議	約15点	一級的美術工芸品
7	美術	B	近くで見よう ハンズオン対応資料展	協議	約20点	ハンズオン ふれて学ぶ美術品
8	民俗	B～C	東北の仕事着	1～2ヶ月	約1200点から選択	コレクション資料 体験講座も可
9	民俗	A～B	郷土玩具	1～2ヶ月	約1900点から選択	コレクション資料 県内各地の郷土玩具
10	民俗	B～C	ふくしまの火伏せ	1～2ヶ月	3セット	安達（中）・三島（会）・鹿島（浜）の火伏せとは
11	民俗	B～C	東日本のわら人形	1～2ヶ月	約20点	関東以北、村を守る想いとは
12	歴史	B	お金の歴史	2ヶ月程度	約250点	お金の歴史をわかりやすく
13	分野横断	A	県立博物館移動展 はま・なか・あいづの名品	1～2ヶ月	約280点	けんぱくの所蔵する各地の名品が大集合
14	分野横断	A	博物館がやってきた！！ 一県立博物館収蔵庫のヒ・ミ・ツ	1～2ヶ月	約280点	普段は入れないけんぱく収蔵庫のヒミツとは
15	分野横断	A	未来へ伝える 県立博物館の宝展	1～2ヶ月	約50点	考古・美術の一級資料をご紹介します
16	分野横断	A	さわって感じる 化石・古代・美しさ展	1～2ヶ月	約730点から選択	大ハンズオン展、ふれて感じる展覧会です

※規模欄の記号は以下を表します。なお、この表示はおおよその目安であり、出品資料の詳細は担当学芸員と相談のうえ決定します。

A：広いフロア・多くの展示設備を必要とし、美術品専用運搬車での輸送が必要な大規模プラン。展示室内か入口に監視員要

B：美専車不要の資料、未指定品で構成する中規模プラン。一定のフロア、展示設備が要。展示室内か入口に監視員要

C：美専車不要の資料、未指定品で構成する小規模プラン。展示室入口に監視員か資料保全の図れる展示ケース等が必要

内容の詳細は、当館ホームページ <http://www.general-museum.fks.ed.jp/> をご覧ください。

移動展 出品可能個別資料一覧

No.	分野	資料名	数量(最大)	指定	美専	露出展示	その他条件
1	民俗	渡部つとむコレクション	約1200点	無	不要	相談	寄託資料：仕事着・子供祝着など 寄託資料
2	民俗	大竹コレクション	約1500点	無	不要	相談	こけし、郷土玩具など
3	民俗	東日本のわら人形	約20体	無	※要	可	企画展「境の神・風の神」で製作したもの。美専ではなくとも業者による輸送が必要
4	民俗	会津の雪の装い	約10点	無	不要	可	ハンズオン：カンジキ各種、菅笠、ゲンベエ、雪踏み俵、蓑など
5	民俗	オカマサマ	1セット	無	不要	可	企画展「豊かなる世界」で製作したもの。旧安達町：屋根裏に下げていたセット。男性、女性、牛蒡、鯉節、干し柿、鶴、亀など
6	民俗	火伏せ	1セット	無	不要	可	企画展「豊かなる世界」で製作したもの。三島町名入地区：男性、女性 製作時の写真
7	民俗	火伏せ	1セット	無	不要	可	南相馬市鹿島区：蛇、牛蒡、魚
8	民俗	皮箕	2	無	不要	可	サワグルミ製 三島町他
9	民俗	オリッカ	3	無	不要	可	サワグルミ制 会津美里町
10	民俗	苧引き鉄	3	無	不要	可	
11	民俗	苧引き用舟	3	無	不要	可	くり抜き
12	民俗	麻糸	1袋	無	不要	可	
13	民俗	糸車	2	無	不要	可	麻糸よりかけ用
14	民俗	地機	1	無	不要	可	糸がかけてある
15	民俗	鱈鉢	3	無	不要	可	本郷焼
16	民俗	切立	3	無	不要	相談	本郷焼 一部寄託資料も
17	考古	三貫地貝塚出土縄文土器（複製）	10	無	不要	可	ハンズオン
18	考古	平安時代土器（複製）	10	無	不要	可	ハンズオン
19	考古	首飾り（複製）	1	無	不要	可	ハンズオン
20	考古	古墳時代鏡（複製）	1	無	不要	可	ハンズオン
21	考古	大窪横穴須恵器類	10	無	不要	可	
22	考古	勿来金冠塚古墳出土冑	1式	無	不要	不可	
23	考古	勿来金冠塚古墳冑（複製）	1	無	不要	可	ハンズオン
24	歴史	いわき地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
25	歴史	相双地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
26	歴史	県南地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
27	歴史	県中地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
28	歴史	県北地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
29	歴史	南会津地区に関する古文書等歴史資料	20	無	不要	不可	1ヶ月程度
30	歴史	北会津地区に関する古文書等歴史資料	20	無	不要	不可	1ヶ月程度

指定：文化財指定 美専：美術品専用運搬車

**ア. 福島県立博物館移動展「ジュラシック相馬
ー化石が語る恐竜時代の相馬地域ー」**

主催：福島県立博物館 南相馬市博物館

協力：相馬中村層群研究会

(ア) 会 期 平成24年10月13日(土)～12月
24日(月・祝)

(イ) 会 場 南相馬市博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 1,350人

(エ) 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎

(オ) 趣 旨

地球の長い歴史の中で、中生代は地球上で恐竜が大活躍していた時代である。中生代では、植物ではシダ植物や裸子植物が、動物ではアンモナイトのほか、恐竜・翼竜・魚竜・首長竜などのハ虫類が繁栄した。相馬地域からも近年、地元の相馬中村層群研究会や南相馬市博物館などの努力により、新種を含めた世界的に貴重な化石の発見が相次いでおり、この地域の自然のもつすばらしさが改めて注目されている。県立博物館の移動展として、南相馬市博物館との共催で、これらの標本を地元の南相馬市博物館で展示した。展示では、化石と化石を産する地層をもとに、恐竜時代の相馬地域の生きものの姿や当時の環境を復元した。

この移動展は、県立博物館で夏休みの期間開催された企画展「恐竜時代のふくしま」のダイジェスト版である。東日本大震災の被災地の人々に、太古の相馬地域の姿に想いを馳せ、楽しんでもらえる展示になるよう企画した。

(カ) 展示資料

相馬中村層群産化石を中心に約260点

(キ) 関連行事

①体験学習「化石のレプリカを作ろう！」

日時：11月10日(土)10時～12時

講師：相馬中村層群研究会

②講座・展示解説会「ジュラシック相馬」

日時：11月17日(土)13時30分～15時

講師：当館学芸員 竹谷陽二郎

(ク) その他

本移動展は主に宝くじの収益金で実施した。



「ジュラシック相馬」展示状況

イ. 福島県立博物館スポット展「ふくしまの恐竜たち」

主催：福島県立博物館 アクアマリンふくしま いわき市石炭・化石館

(ア) 会 期 平成24年10月20日(土)～12月9日(日)

(イ) 会 場 アクアマリンふくしま 常設展示「あぶくま東縁の地質生物」の展示スペース

(ウ) 入館者数 56,269人(会期中のアクアマリンふくしまの入館者数)

(エ) 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎

(オ) 趣 旨

地球の長い歴史の中で、中生代は地球上で恐竜が大活躍していた時代である。福島県のいわき・双葉地域に分布する白亜紀双葉層群からも、近年地元の化石研究会やいわき市教育委員会の努力により、恐竜の化石が発見され、本県にも恐竜が生息していたことが明らかになっている。これらの標本を地元のいわき市にあるアクアマリンふくしまで公開した。

この展示事業は、福島県の文化施設六館連携の一環である。また、県立博物館で開催された企画展「恐竜時代のふくしま」のミニダイジェスト版でもある。東日本大震災の被災地の人々に、太古のいわき地域の姿に想いを馳せ、楽しんでもらえる展示になるよう企画した。

(カ) 展示資料

双葉層群産恐竜部分化石 11点

(キ) その他

本移動展は宝くじの収益金で実施した。



「ふくしまの恐竜たち」展示状況

(5) 指定文化財の公開

本館の展示で以下の指定文化財の公開を行った。

ア. 国指定

- 〈国宝〉一字蓮台法華経開結共 龍興寺
(秋の企画展「会津の寺宝」)
- 〈重文〉金銅製双龍双鳥文磬 金剛寺 (秋の企画展「会津の寺宝」)
- 〈重文〉厨子入木造蘆名盛氏坐像 宗英寺
(秋の企画展「会津の寺宝」)
- 〈重文〉磐城檜葉天神原遺跡出土品(壺1点 甕1点) 檜葉町 (常設展総合展示「原始」)

イ. 県指定

- 十一面観音立像懸仏 八槻都々別神社
(常設展総合展示「中世」)
- 木造十一面観音立像 明光寺 (秋の企画展「会津の寺宝」)
- 絹本著色光明本尊 光照寺 (秋の企画展「会津の寺宝」)
- 大般若経・経櫃 附経箱 自在院 (秋の企画展「会津の寺宝」)
- 銅造五大虚空蔵菩薩坐像 飯豊山神社
(秋の企画展「会津の寺宝」)
- 木造扁額「融通寺」 融通寺 (秋の企画展「会津の寺宝」)

(6) 展示解説

ア. 展示解説員

平成24年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算がついていた。夏と秋の企画

展では、それぞれの展示予算で監視員を1名委託した。ただ、展覧会開催時には企画展示室の入口のもぎりに人数を割かれるなどするため、展示室内の監視員として前年度は臨時職員の展示解説員が1名いた。しかし、24年度はそれがなくなり、実質1名の減となった。そのためなんとか解説員と補助としての学芸員により乗り切るしかなかった。たとえば、秋の企画展の場合、132コマもの学芸員による展示室での当番が発生した。これらは主として展示解説員の昼食休憩時の対応のためであった。このような展示解説員の減員により、それまで実施されていたような解説員が主となる講座などの開催を中止せざるをえないようになった。また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割とされてきたが、どうしても最低限の監視業務をどうやって行うかということが中心となってしまった。しかし、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応などは、展示や館内の業務をよく知っている解説員ならではのもので、減員の中でもどうにか対応している。

(ア) やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前11時、午後2時の2回開催することになっている。1回の所要時間は約30分。年度当初は新人解説員の研修などが入るため、やさしい展示解説は5月19日からはじめた。

実施状況

開催日数：87日 実施日数：46日
 開催回数：169回 実施回数：47回
 総参加人数：209人
 1日当たりの平均人数：2.40人
 1回当たりの平均人数：1.24人

(イ) 通し解説

非定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：22回

(ウ) 部屋送り解説

非定期的常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：244回

(エ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために年々困難となっており、平成24年度は実施されなかった。ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

イ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示監視に立つポストが増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できないので、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。24年度は年間で270回を数えた。とくに展示室内の監視員が予算化できなかった春の企画展（前年度の2月から継続開催）では回数を抑制するため、解説員に人員の配置を工夫してもらった。もちろん、学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多いと思えた。また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が24団体に対して24回の展示解説を実施した。

ウ. 展示解説のための印刷物

- ①福島県立博物館常設展示解説図録
常設展の解説図録。昭和61年初版発行。106p.
- ②福島県立博物館ガイドブック
常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28p.
- ③Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book
英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14p.

(7) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。



体験学習室

ア. 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。前年度の合計518回に比べてやや増加したが、22年度の891回には及ばなかった。

- ①衣装着付け件数 706件
- ②着付けた衣装 春：番具足、打掛
夏：水干（子供用）、直垂 秋：町人旅姿、壺装束 冬：半襟、白拍子

衣装の着付けはかなり本格的なものであるため、そのため解説員の研修時間も多くなるし、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映して満足する来館者が多く見られる。

(イ) 衣装展示

春：大鎧、稚児鎧 夏：大工、編綴
秋：推古朝男子朝服、天武朝女官朝服
冬：大鎧、政宗鎧

イ. 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。
製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り／12月：クリスマスツリー
／1月：団子さし／3月：手作り雛人形

ウ. おもちゃ

畳の上で幼児に昔のおもちゃで遊ばせる
お母さんや家族連れが多くみられる。壁の
引き出しに用意されているおもちゃの利用
も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、
解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：286件

エ. ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法
を体験できるコーナー

- ①平成24年4月～平成24年10月「会津漆器
の技法と製作工程」（美術分野）
- ②平成24年10月～平成25年3月「会津漆の
芸術祭2012参加作品『こどものうるし』」



ハンズオンコーナー「漆器の製作工程」



ハンズオンコーナー『こどものうるし』



ハンズオンコーナー「漆器の技法見本」

(8) 博物館新情報収集・展示室改善プロジェクト

将来の博物館リニューアルを見据えて、新設あるいはリニューアルした博物館の視察、新しい展示手法に関する情報収集を行っている。

平成23年度末に実施した、九州歴史資料館・兵庫県立考古博物館・秋田県立博物館・盛岡歴史文化館の視察結果についての職員向け報告会を4月と5月に1回ずつ開催した。7月には「マイクロフォーカスX線CT撮影」についてと題し、考古と保存分野で実施したX線CT撮影の成果と博物館における展示および情報発信への有用性について報告会を実施した。博物館実習では「新しい展示の立案について」の単元を担当し、実習生による展示制作を指導した。

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。

ア. 考古資料の材質・製作技法に関する研究

(ア) 趣 旨

出土した状態の考古資料は、そのままでは当時の姿を理解することが難しい。また、製作技術の分析にはその材質や技術的な特徴を把握することが必要である。本研究では展示資料を復元するためのバックデータ収集、および資料から導き出される歴史的意義について明らかにすることを目的とする。

(イ) 調査概要

①古墳時代象嵌資料の調査

平成24年度は昨年度から引き続き、福島市高森古墳群（梅本古墳）出土の鉄製刀装具の調査研究を行った。本資料には精緻な象嵌文様が施されているが、資料が複数破片に分割されているため、保存分野と共同で復元（修理）および保存処理を進めている。

6月には象嵌文様を検討するため、東北大学総合学術博物館において梅本古墳象嵌柄頭本体と須賀川市跡見塚古墳出土象嵌鏝のX線CT撮影を実施した。ここで得られたデータから象嵌の表裏文様を確認し、破片資料のX線画像を照合させ、象嵌文様の位置と構成を把握することができた。またX線画像を検討する中で、象嵌に用いられた銀線が特殊な構造であることが予想されたため、11月に奈良文化財研究所において蛍光X線分析および電子顕微鏡での撮影を行い、銀線の構造についての知見を得た。

②大熊町棚和子古墳出土品の調査

今年度大熊町より寄託を受けた大熊町内遺跡出土品のうち棚和子古墳出土の須恵器の接合および復元作業を実施した。本資料は1982年に発掘調査された方墳からの出土品で、3点の須恵器大甕のほか四耳壺などからなる。東日

本大震災により資料の保管場所が被災し、破損した個体の再接合を実施した。

(ウ) 成果の公表

象嵌資料の調査は途中であるが、中間の成果公表として、11月7日に報道発表、11月13日～3月3日のポイント展「古墳時代の象嵌技術」における展示公開、11月24日にポイント展関連行事「古墳時代の象嵌技術」講演会&報告会を開催した。

イ. 展示室における効果的な歴史理解に資する歴史資料の研究

(ア) 趣 旨

(内容)

この調査研究は、県内外の観覧者が、展示室において効果的に福島県の歴史に関する理解を深めることができるように、各時代のさまざまな様相を象徴的に示すことができる実物資料について、歴史事象を多角的にとらえることができるような周辺資料も含めて、調査研究することを目的とする。その成果は、当館の常設展示の展示替えにおける歴史関係展示資料の候補や複製資料を製作する候補を選定する際に活用する。

(対象)

- ①古代資料：本県に関わる出土文字資料
地名（郡郷名）や人名・寺社名・歌語が記載されている典籍
- ②中世資料：国家の変動と本県の武士の動向がわかる歴史資料
（蘆名氏関係資料・伊達氏関係資料・蒲生氏関係資料）
- ③近世資料：幕藩制下における支配形態と民衆の動向がわかる歴史資料
（県内諸大名関係資料・幕府代官関係資料）
- ④近・現代資料：国家の動向と本県の役割がわかる歴史資料
（戊辰戦争関係資料・自由民権関係資料）

(イ) 調査概要

- ①古代 福島県関係の地名、人名、社寺名が見られる古代史資料（典籍、古辞書など）の所在調査および写真複製作成候補の選定。とくに慧日時関係資料の調査。

- ②中世 福島県ゆかりの武将関係資料および絵図類の所在調査、特に新規の県外所在資料の情報収集および所在確認と調査。
- ③近世 福島県ゆかりの大名関係資料や地方関係資料の新規所在確認と調査。古文書資料の製作道具など成立に関わる資料の所在調査。戊辰戦争に至る幕末資料の所在調査。
- ④近代 世界的、全国的に著名になった福島県出身者の動向を示す資料情報の収集と資料調査。明治維新期の県内の行政文書など政治史関係資料や県内の教育史資料の所在調査。西南戦争から第二次世界大戦にかかる県内の戦争関係資料の所在調査。
- ⑤現代 戦後復興期の資料所在調査。日本の高度経済成長期の資料所在調査。
- ⑥その他 資料所在情報調査にあたっては、各時代の担当者が主体性をもってあたるが、資料調査にあたっては、調査先の資料所蔵状況に応じて、相互に協力して調査を推進する。

(ウ) 成果の公表

調査研究の成果は、以下のポイント展の展示の中で公表した。

「近世に書かれた中世の城絵図」

平成24年4月21日(土)～6月15日(金)

「会津城修補絵図」

平成24年4月21日(土)～6月15日(金)

「風船爆弾の気球」

平成24年7月14日(土)～8月31日(金)

「神官が記した幕末」

平成24年7月28日(土)～9月28日(金)

「ふくしまの教育資料」

平成24年10月20日(土)～11月25日(日)

ウ. 福島県における衣生活文化の研究

(ア) 趣 旨

福島県内の衣類とその周辺で展開してきた習俗を記録、整理し明らかにしようとする研究である。素材となる繊維や織り方などに、衣類を仕立てたり利用するということまでも加えて広い範囲からの視点を目指した。

(イ) 調査概要

平成24年に寄贈された女兒の衣装は正月七日の七草行事に使われたもので、会

津若松周辺では七歳の祝いとされている。この行事は以前実施した昭和40年代までの映像収集で集まった8ミリフィルムのなかにも数点収録されており、行事用のハレの衣類の使用場面として注目されるだろう。また、日本製の卓上ミシン(足踏みではなく手回し)が収蔵資料に加わったが、現在の目から見たら玩具のような製品が実際に生活の中で利用されていたことも確認できた。このように、衣類というキーワードを起点として範囲をひろげて生活の各場面の確認などができた。

エ. 福島県域の大名文化に関する研究

(ア) 趣 旨

戦国時代末から江戸時代にかけて、福島県域には多くの領主、大名の支配地が存在した。本研究では、関連諸大名を取り巻く文化の様相を、大名自身の作品、彼らが養成した学者、画家、工人らの資料、学問に関わる資料を通して明らかにする。さらに、調査活動を通して発見される周辺諸資料にも配慮する。

(イ) 調査概要

平成23年度に受託した相馬藩主相馬家ゆかりの資料の調査整理作業を行った。当該資料は南相馬市小高区の寺院が所蔵するもので、東京電力福島第一原子力発電所事故以来、居住不可能となったため、資料の安全管理のために受託したものである。相馬家当主及び夫人ゆかりの調度品が多数現存し、福島県内でも類例のなり大名調度となっている。かねてより悉皆調査を企画していたが、図らずも受託となったため、数年間計画で調査整理を進める予定である。今後は類例調査や報告書の刊行を実施したい。

オ. 恐竜時代のふくしまに関する研究

(ア) 趣 旨

本県に分布する中生代のジュラ紀～白亜紀の地層は、本県の大地の基盤をなす重要な位置を占めている。特に最近、本県浜通りに分布する相馬およびいわき地域の中生代の地層から、恐竜をはじめとする脊椎動物、植物化石など、重要な化石の発見が相次ぎ、これらをもとに、地史や古環境を再考することが必要となってきた。本研究では、本県中生代の

岩石・化石資料を収集し、調査を進め、東アジア全体の形成史を背景としながら、当時の生物相および古環境がどのようなものであったかを明らかにする。調査にあたっては、大学等の研究機関はもちろんのこと、地域の研究団体との共同研究・情報交換を積極的に進める。なお、本調査は今年度が最終年度であった。

(イ) 調査概要

(1) 露頭現状調査（平成24年10月13日～14日）

東日本大震災による影響を調べるため、相馬中村層群の相馬市～南相馬市の主要露頭の13ヶ所の現状調査および放射線量を測定した。

常磐道工事の影響で消失した露頭と新しく誕生した露頭があった。また、震災の影響で人が調査のため山に入る機会が減少しており、草が繁茂しアクセスが困難になったり露出状況が悪くなった露頭が多くあった。環境放射線量は南方および西側の丘陵地に行くほど高い。ただ一般の地質調査を実施する上で特に危険な数値ではない。

(2) 新露頭調査（平成24年11月18日）

常磐道工事により新しく誕生した相馬市地内の2ヶ所の露頭の層序・岩相の調査を、相馬中村層群研究会の会員と共に行い、記載および写真撮影を行った。

(ウ) 成果公表

これまでの本調査の成果を、夏の企画展「恐竜時代のふくしま」で公表した。また、福島県立博物館紀要に次の論文名で掲載した。

竹谷陽二郎 (2013) 相馬中村層群小山田層産の最下部白亜系放散虫化石群集。福島県立博物館紀要, no. 27, p. 1-24.

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・分量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、

購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成24年度は、「大澤基宏家文書」「山本重義家文書」「福嶋義子家文書」「中央病院寄託資料」の新規登録および松崎達夫家文書の整理作業を実施した。また書類の収蔵スペースを確保するため、空きスペースを詰めるなど第一収蔵庫内の収蔵棚の整理を行った。マイクロ撮影は、新たに「松下雅邦家文書」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 印刷物(単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

阿部綾子, 2012.10, 保科正之～春海の才を見抜いた会津の名君～. 歴史読本, 2012年10月号(通巻880), p.66-69, 新人物往来社.

阿部綾子, 2013. 3, 第四編近世の塩川第六章塩川地域の交通／第七章一揆前夜の塩川と寛延の一揆. 塩川町史第一巻通史Ⅰ, p.744-782, 喜多方市.

阿部綾子, 2013. 3, 第九章村のくらし. 相馬市史第六巻資料編Ⅲ近世2, p.1073-1158, 相馬市.

阿部綾子, 2013. 3, 佐々木峯子家文書～乳母の残した資料でたどる敏姫の一生～. 福島県立博物館紀要, 第27号, p. 45-68, 福島県立博物館.

内山大介, 2012. 4, 昭和戦前期の師範学校郷土室と博物館活動―地域博物館前史としての基礎的考察―. 博物館学雑誌, 第37巻第2号, p. 1-21, 全日本博物館学会.

内山大介, 2012.11, 文化財レスキューと博物館展示―「朝日稲荷神社の絵馬」展の開催から―. 民具マンスリー, 第45巻第8号, p. 13-21, 神奈川大学日本常民文化研究所.

荻原ちとせ・内山大介ほか, 2013. 3, ブックレット 千住の民俗. 80p., 足立区立郷土博物館.

佐々木長生, 2013. 3, 『老嫗茶話』にみる

近世会津の民俗風景. 福島県立博物館紀要, 第27号, p. 69-96, 福島県立博物館.

佐藤洋一, 2013. 3, エッセー・ノンフィクション部門選外評. 県文学集, 第60集, p. 374-375, 県文学集発行委員会.

佐藤洋一, 2013. 3, 会津時代の八重. NHK大河ドラマ特別展八重の桜, p. 6-10, NHK, NHKプロモーション.

高橋 充・佐藤洋一・阿部綾子・古山智行・川延安直・小林めぐみ・若林 繁, 2012. 10, 福島県立博物館企画展展示図録「会津の寺宝」. 127 p., 福島県立博物館.

高橋 充, 2012.10, 熊野信仰と東北. 別冊太陽みちのくの仏像, p. 136-137, 平凡社.

高橋 充, 2012. 9, 史料探訪 恵日寺旧蔵「十二天図」. 鴨東通信87, p. 10-12, 思文閣出版.

高橋 充, 2012.12, 東日本大震災後の福島県の博物館・資料館. 歴史学と博物館8, p. 15-16, 歴史学と博物館のあり方を考える会.

高橋 充, 2013. 3, 千少庵人と茶の湯 少庵と蒲生氏郷. 淡交25年4月号, p. 26-31, 淡交社.

時枝 務・高橋 充, 2013. 3, 信夫山頂遺跡出土品の研究(3). 福島県立博物館紀要, 第27号, p. 25-44, 福島県立博物館.

高橋 充, 2013. 3, 会津支配の展開と三浦一族／板碑を造立した人びと／中世前期の村. 塩川町史第1巻通史Ⅰ, p. 238-256, 喜多方市.

高橋 充, 2013. 3, 蘆名氏をめぐる戦乱と塩川／塩川町域の領主たち／信仰の諸相. 塩川町史第1巻通史Ⅰ, p. 299-329, 喜多方市.

竹谷陽二郎, 2013. 3, 福島県における自然史標本レスキュー. 化石, 第93号, p. 83-95, 日本古生物学会.

竹谷陽二郎・相田 優・船尾武彦, 2012.7, 福島県立博物館企画展展示図録「恐竜時代のふくしま ー化石が語るふくしまの古環境ー」. 64 p., 福島県立博物館.

竹谷陽二郎, 2013. 3, 相馬中村層群小山田層から産出した最下部白亜系放散虫化石群集. 福島県立博物館紀要, 第27号, p. 1-24, 福島県立博物館.

(イ) 学会発表

内山大介, 2012. 6, コレクションとしての絵馬資料群ー被災資料の救出から展示までー. 福島県民俗学会 平成24年度研究発表会.

内山大介, 2013. 2, 奉納絵馬の救出と地域の活動ー須賀川市朝日稲荷神社の事例ー. 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター設置2周年シンポジウムvol. 6 ふくしま再生と歴史・文化遺産. 米倉乙世・貴田啓子・和田 浩・荒木臣紀・鈴木晴彦・土屋裕子・神庭信幸・杉崎佐保恵・李 壇・稲葉政満, 2012. 6-7, 博物館における中性紙製保存箱の活用及び使用する中性接着剤の揮発性実験結果. 文化財保存修復学会第34回大会 in 東京.

山崎正彦・松田隆嗣, 2012.6-7, 展示ケース内で発生する有害ガスの濃度測定における問題点について. 文化財保存修復学会第34回大会 in 東京.

イ. 他団体による委嘱等

阿部綾子：青森県史編纂委員 青森県
阿部綾子：伊南村史編纂委員 南会津町教育委員会
阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会
内山大介：足立区文化遺産調査 調査員 足立区立郷土博物館
内山大介：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構（国立歴史民俗博物館）連携研究「大規模災害と広域博物館連携に関する総合的研究」連携研究員
内山大介：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会
榎 陽介：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会
榎 陽介：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会
榎 陽介：サポートセンター員 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
川延安直：喜多方市美術品収集委員 喜多方市教育委員会
川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館
川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委員 いわき市教育委員会

川延安直：須賀川市文化財保護審議委員会
委員 須賀川市教育委員会

川延安直：白河市文化財保護審議委員会委員
白河市教育委員会

小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師
会津漆器協同組合

佐々木長生：相馬市史編さん調査執筆員
相馬市教育委員会

佐々木長生：小高町史編纂委員 南相馬市
教育委員会

佐々木長生：民具名称の研究 神奈川大学
国際常民文化機構

佐治 靖：環境と開発に関する調査 平安
座自治会

佐治 靖：郡山市文化財保護審議委員会委員
郡山市教育委員会

佐治 靖：檜枝岐民俗誌編纂事業委員 檜
枝岐村教育委員会

佐治 靖：大規模複合災害における自治体・
コミュニティの減災機能に関する社会学
的研究 日本学術振興会

佐治 靖：民俗信仰のダイナミズムと再文
脈化 日本学術振興会

佐治 靖：農の哲学プロジェクト 日本学
術振興会

佐治 靖：災害復興における在来知一無形
文化の再生と記憶の継承 国立民族学博
物館

佐治 靖：課題研究懇談会－災害人類学
日本文化人類学会

佐藤洋一：「八重の桜」特別展企画委員
NHKプロモーション

佐藤洋一：福島県文学賞審査委員会委員
福島県文化スポーツ局

杉崎佐保恵：文化財保存修復学会第35回大
会実行委員

杉崎佐保恵：人間文化研究機構 国立歴史
民俗博物館共同研究員

高橋 充：塩川町史編纂委員 喜多方市教
育委員会

高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員
二本松市教育委員会

高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委
員 会津美里町教育委員会

高橋 充：原町市史編さん専門研究委員
南相馬市教育委員会

高橋 充：相馬市史編さん調査執筆員 相
馬市教育委員会

高橋 充：会津藩主松平家墓所及び松平氏
庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委
員会

高橋 充：会津藩主松平家墓所保存整備委
員会委員 猪苗代町教育委員会

高橋 充：阿津賀志山防塁発掘調査指導及
び整備計画策定委員会委員 国見町教育
委員会

高橋 充：宮脇遺跡調査指導委員会委員
伊達市教育委員会

高橋 充：会津坂下町史編さん委員会委員
会津坂下町

高橋 充：福島県指定史跡保存対策検討委
員会委員 南会津町教育委員会

高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活
用検討委員会委員 北塩原村教育委員会

高橋 充：福島県における歴史資料の保全
と地域総合学構築に関する研究 日本学
術振興会

高橋 充：サポートセンター員 福島大学
うつくしまふくしま未来支援センター

高橋 満：会津坂下町史編纂委員 会津坂
下町教育委員会

竹谷陽二郎：相馬市史編さん調査執筆員
相馬市教育委員会

竹谷陽二郎：南相馬市博物館協議会委員
南相馬市博物館

竹谷陽二郎：ジオパーク協議会運営部長
磐梯山ジオパーク協議会

竹谷陽二郎：ふくしまサイエンスぷらっと
フォーム連携コーディネーター

竹谷陽二郎：サポートセンター員 福島大
学うつくしまふくしま未来支援センター

田中 敏：会津坂下町史編纂委員 会津坂
下町教育委員会

藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員
会津若松市教育委員会

藤原妃敏：郷土研究奨励賞選考委員 会津
若松市教育委員会

藤原妃敏：塩川町史編纂委員 喜多方市教
育委員会

藤原妃敏：原町市史編さん専門研究委員
南相馬市教育委員会

藤原妃敏：鹿島町史編纂委員 南相馬市教
育委員会

藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津

美里町教育委員会
 藤原妃敏：喜多方市立美術館運営協議会委員 喜多方市教育委員会
 藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員 郡山女子短期大学
 藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考古学会
 藤原妃敏：南相馬市博物館協議会委員 南相馬市博物館
 藤原妃敏：会津坂下町史編纂委員 会津坂下町教育委員会
 藤原妃敏：サポートセンター員 福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター
 古山智行：「八重の桜」特別展企画委員 NHKプロモーション
 松田隆嗣：会津藩主松平家墓所保存整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
 松田隆嗣：会津藩主松平家墓所保存修理検

討委員会委員 猪苗代町教育委員会
 松田隆嗣：北海道・東北保存科学研究会代表 同会
 松田隆嗣：八洲学園大学 非常勤講師
 松田隆嗣：サポートセンター員 福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター
 森 幸彦：原町市史編さん専門研究委員 南相馬市教育委員会
 森 幸彦：鹿島町史編纂委員 南相馬市教育委員会
 森 幸彦：三島町歴史文化基本構想策定委員会文化財調査部会委員 三島町

ウ. 研究助成金等
 高橋 充：福武学術文化振興財団 平成23年度歴史学・地理学助成
 研究テーマ「中世後期東国における地域信仰の拠点的な寺院に関する調査研究—『堯雅僧正関東下向印可授与記』を手がかりに—」

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。

平成24年度講座講演会等行事一覧

(1) 木曜の広場

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
『老嫗茶話』	を	読む	1	赤坂憲雄	館長	4月	19日(木)	111
『老嫗茶話』	を	読む	2	赤坂憲雄	館長	5月	17日(木)	77
『老嫗茶話』	を	読む	3	赤坂憲雄	館長	6月	21日(木)	62
『老嫗茶話』	を	読む	4	赤坂憲雄	館長	7月	19日(木)	70
『老嫗茶話』	を	読む	5	赤坂憲雄	館長	8月	16日(木)	48
『老嫗茶話』	を	読む	6	赤坂憲雄	館長	9月	20日(木)	53
『老嫗茶話』	を	読む	7	赤坂憲雄	館長	10月	18日(木)	50
『老嫗茶話』	を	読む	8	赤坂憲雄	館長	11月	15日(木)	46
『老嫗茶話』	を	読む	9	赤坂憲雄	館長	12月	13日(木)	53
『老嫗茶話』	を	読む	10	赤坂憲雄	館長	1月	17日(木)	55
『老嫗茶話』	を	読む	11	赤坂憲雄	館長	2月	21日(木)	57
『老嫗茶話』	を	読む	12	赤坂憲雄	館長	3月	14日(木)	50

(2) 考古学講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
実技講座「土器作り1」				森 幸彦	学芸員	8月	4日(土)	19
実技講座「土器作り2」				森 幸彦	学芸員	8月	5日(日)	19
考古学講座「土器の野焼き」				森 幸彦	学芸員	9月	23日(日)	35
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」				田中 敏	学芸員	3月	2日(土)	14

(3) 民俗講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
収蔵庫から1		「衣のコレクション」	榎	陽介	学芸員	6月30日	(土)	9
収蔵庫から2		「わら人形」	佐々木	長生	専門員	7月14日	(土)	7
収蔵庫から3		「根子町人形」	内山	大介	学芸員	9月22日	(土)	4
収蔵庫から4		「玩具」	二瓶	浩伸	学芸員	11月10日	(土)	9

(4) 歴史講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
会津の寺宝・名僧1		「徳一と慧日寺」	佐藤洋一・高橋	充	学芸員	5月12日	(土)	148
会津の寺宝・名僧2		「武家の信仰」	古山智行・高橋	充	学芸員	5月26日	(土)	138
会津の寺宝・名僧3		「若松城下の寺院」	阿部綾子・高橋	充	学芸員	6月2日	(土)	138
会津の寺宝・名僧4		「若松市内の寺院を訪ねる」	高橋	充ほか	学芸員	6月23日	(土)	42

(5) 自然史講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
野外講座		「化石をさがそう」	竹谷陽二郎		学芸員	9月8日	(土)	28
実技講座		「化石標本をつくろう」	相田	優	学芸員	9月9日	(日)	27
実技講座		「チリメンモンスターをさがせ！」	藤田吉広	ほか2名	学芸員	11月3日	(土)	39
野外講座		「鶴ヶ城の野鳥」	古川裕司		野鳥研究家	11月11日	(日)	11

(6) 指導者向け研修

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
博物館利用指導者研修会			古山智行	ほか	学芸員	8月17日	(金)	8

(7) 実技講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
小旗をつくろう			大野青峯・大野久子		伝統技術保持者	5月5日	(土・祝)	9
マタタビ蔓の四ツ目ざる作り1			菅家藤一	ほか	伝統技術保持者	7月7日	(土)	14
マタタビ蔓の四ツ目ざる作り2			菅家藤一	ほか	伝統技術保持者	7月8日	(日)	14

(8) 実演

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
昔語り1			横山幸子		語り部	4月22日	(日)	25
昔語り2			山田登志美		語り部	9月2日	(日)	28
からむし織り			酒井モト子		伝統技術保持者	10月14日	(日)	30
檜枝岐に伝わるガバぞうり作り			平野チサエ		伝統技術保持者	11月4日	(日)	10

(9) 企画展

テ	ー	マ	分	野	期	日
小さなもの集まれ!			民俗		～5月13日	(日)
恐竜時代のふくしま			自然		7月14日(土)～9月17日(月・祝)	
会津の寺宝			歴史・美術		10月6日(土)～11月25日(日)	

(10) 企画展関連行事(記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)

テ	ー	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
「小さなもの集まれ!」展示解説会			川内由美子		雛道具研究家	4月8日	(日)	75
「小さなもの集まれ!」展示解説会			榎	陽介	学芸員	4月15日	(日)	25

テ　　マ	講　　師	講師所属等	期　　日	参加人数
「恐竜時代のふくしま」展示解説会	竹谷陽二郎	学芸員	7月22日(日)	40
企画展記念シンポジウム 「ジュラシックふくしまー1億5000万年前のふくしまの古環境ー」	佐藤 正 大花民子 滝本秀夫 高橋紀信 竹谷陽二郎	深田地質研究所会長 自然史科学研究 所主任研究員 ミュージアム パーク茨城県自 然博物館資料課 長 いわき自然史研 究会顧問 学芸員	7月28日(土)	55
企画展記念講演会「フタバスズキリュウ物語」	佐藤たまき	東京学芸大学准 教授	8月25日(土)	75
「恐竜時代のふくしま」展示解説会	竹谷陽二郎	学芸員	8月25日(土)	46
アクアマリン移動水族館「アクアラバン」			8月25日(土)	200
企画展関連イベント「大般若経転読の実演」		会津仏教会	10月5日(金)	85
「会津の寺宝」展示解説会	高橋 充	学芸員	10月6日(土)	43
企画展記念講演会「会津の仏像と仏画 鑑賞の極意」	若林 繁 有賀祥隆	東京家政大学教授 東北大学名誉教授	10月7日(日)	137
「会津の寺宝」展示解説会	高橋 充	学芸員	10月8日 (月・祝)	73
企画展関連イベント「写経で～す①」		会津仏教会	10月12日(金)	9
企画展関連イベント「坐禅体験とDVD解説」		会津仏教会	10月13日(土)	13
企画展関連イベント「写経で～す②」		会津仏教会	10月19日(金)	9
企画展記念講演会「再びの『仏道』」	玄侑宗久	福聚寺住職	10月21日(日)	150
企画展関連イベント「写経で～す③」		会津仏教会	10月26日(金)	6
企画展関連イベント「読経の実演」		会津仏教会	10月26日(金)	71
企画展関連イベント「腕輪念珠づくり①」		会津仏教会	10月30日(火)	130
企画展関連イベント「琵琶の弾き語り」	和田至紘 博多美保子	会津仏教会	11月1日(木)	158
企画展関連イベント「腕輪念珠づくり②」		会津仏教会	11月1日(木)	35
企画展関連イベント「写経で～す④」		会津仏教会	11月2日(金)	11
企画展関連イベント「来て！見て！聴いて！すてき仏教 ～天台宗・曹洞宗共催 御詠歌奉詠交流発表会と天海大僧正を知る講演会」		会津仏教会	11月7日(木)	166
企画展関連イベント「写経で～す⑤」		会津仏教会	11月9日(金)	14
企画展関連イベント「坐禅体験と実演」		会津仏教会	11月11日(日)	13
企画展関連イベント「腕輪念珠づくり③」		会津仏教会	11月11日(日)	22
企画展関連イベント「写経で～す⑥」		会津仏教会	11月16日(金)	18
企画展関連イベント「腕輪念珠づくり④」		会津仏教会	11月17日(土)	23
企画展関連イベント「腕輪念珠づくり⑤」		会津仏教会	11月18日(日)	22
「会津の寺宝」展示解説会「解説対決！学芸員VS僧侶」	高橋 充・会津 仏教会会員	学芸員・会津仏 教会	11月25日(日)	83
企画展クロージングセレモニー「常照護 みまもられて」		会津仏教会	11月25日(火)	88
2013年大河ドラマ特別展「八重の桜」プレイベント 歴史講演会1「時代を駆ける新島八重の生涯」	野口信一	会津歴史考房主 宰	1月27日(日)	66
2013年大河ドラマ特別展「八重の桜」プレイベント 歴史講演会2「資料にみる八重と裏の夫婦像」	小枝弘和	同志社大学同志社 社史資料センター 社史資料調査員	2月9日(土)	150

(11) 特集展

テ ー マ	分 野	期 日
朝日稲荷神社の絵馬―救出された須賀川の文化財―	民俗	5月24日(木)～6月17日(日)

(12) テーマ展

テ ー マ	分 野	期 日
旧家の美術	美術	～4月15日(日)
ふくしまの画人たち 佐竹永海	美術	4月28日(土)～6月3日(日)
ふるさとの考古資料2【会津美里町】遺跡探訪	考古	～5月13日(日)
ふるさとの考古資料3 館蔵「9人のコレクション展」	考古	6月5日(火)～平成25年5月12日(日)
会津絵	美術	6月9日(土)～7月16日(月・祝)
けんぱくの宝2012	美術	7月21日(土)～8月26日(日)
吉祥	美術	12月22日(土)～平成25年1月27日(日)
常磐炭田の歴史	自然	平成25年1月22日(火)～3月31日(日)
東神指の彼岸獅子	民俗	平成25年3月6日(水)～5月6日(月・祝)

(13) テーマ展関連行事

テ ー マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
「ふくしまの画人 佐竹永海」展示解説会	川延安直	学芸員	4月28日(土)	20
「会津絵」展示解説会	小林めぐみ	学芸員	6月16日(土)	15
「ふるさとの考古学3」講演会「福島と日本の考古学」	中村五郎	福島県考古学会 顧問	6月24日(日)	42
「けんぱくの宝2012」展示解説会	川延安直	学芸員	7月29日(日)	6

(14) ポイント展

テ ー マ	分 野	期 日
小さな雛祭り	民俗	～4月3日(火)
近世に書かれた中世の城絵図	歴史	4月21日(土)～6月15日(金)
会津城補修絵図	歴史	4月21日(土)～6月15日(日)
山姥のかもじ	美術	4月25日(水)～6月6日(水)
風船爆弾の気球	歴史	7月14日(土)～8月31日(金)
郡山市熱海遺跡の縄文土器	考古	7月24日(火)～平成25年3月3日(日)
神官が記した幕末～『明石家記録』を読む～	歴史	7月28日(土)～9月28日(金)
吊い	民俗	8月22日(水)～9月26日(水)
そうだ、会津を知ろう！～絵葉書セレクション～		8月26日(日)～9月23日(日)
相双地方の旧石器	考古	9月11日(火)～平成25年3月3日(日)
新島八重と襄	歴史	9月14日(金)～11月4日(日)
縄文うるしの世界	考古	10月6日(土)～11月30日(金)
会津年中行事屏風	民俗	10月11日(木)～11月21日(水)
新発見！弥生時代の木の道具	考古	10月16日(火)～平成25年3月3日(日)
ふくしまの教育資料	歴史	10月20日(土)～11月25日(日)
ウニ化石の世界	自然	10月27日(土)～12月24日(月・祝)
古墳時代の象嵌技術	考古	11月13日(火)～平成25年3月3日(日)
こたつがけ	民俗	12月5日(水)～平成25年1月23日(水)
二本松市木幡山経塚群出土の遺物	考古	12月19日(水)～平成25年3月3日(日)
小さな雛祭り	民俗	平成25年2月20日(水)～4月3日(水)

(15) ポイント展関連行事

テ ー マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
古墳時代の象嵌技術報告会&講演会	松田隆嗣 高橋 満 杉崎佐保恵 菊地芳朗	専門員 学芸員 学芸員 福島大学教授	11月24日(土)	35

(16) 移動展

テ ー マ	期 日	会 場
ジュラシック相馬	10月13日(土)~12月24日(月・祝)	南相馬市博物館

(17) 移動展関連行事

テ ー マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
講座・展示解説会「ジュラシック相馬」	竹谷陽二郎	学芸員	11月17日(土)	13

(18) ミュージアムイベント

テ ー マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
わくわくワークショップフェス			5月19日(土)	200
会津の民謡/東北の民謡		玄如節顕彰会	6月9日(土)	73
大熊町の民話「布芝居」			7月21日(土)	172
映画会 シネマエール東北「名探偵コナン 漆黒の追跡者」			8月11日(土)	80
ナイトミュージアム for Kids	各分野学芸員	学芸員	9月15日(土)	60
ひとり人形芝居	安藤聖一		10月28日(日)	175
法衣ファッションショー インドから会津へ 真言宗の場合	会津仏教会		11月17日(土)	88
クリスマスコンサート「祈りの夕べ」			12月15日(土)	244
館長赤坂憲雄プレゼン「真冬の学習」[特集 被災地の文化財レスキュー 福島県の被災状況と民俗芸能の再興~再興を支えたもの~]	懸田弘訓 赤坂憲雄	民俗芸能学会 福島調査団長 館長	2月16日(土)	45
館長赤坂憲雄プレゼン「真冬の学習」[特集 被災地の文化財レスキュー 福島・警戒区域内の博物館と文化財~現状と課題~]	丹野隆明 岡田 健 三瓶秀文 吉野高光 赤坂憲雄	県教育庁文化財課 東京文化財研究所 富岡町教育委員会 双葉町教育委員会 館長	3月7日(木) ・8日(金)	105

(19) 共催事業

タ イ ト ル	期 日
会津・漆の芸術祭	10月6日(土)~11月23日(金)
Summer Cchallenge 読書&サイエンス2012	8月7日(火)
日本博物館協会研修会	3月7日(木)・8日(金)

(20) 共催事業関連行事

テ ー マ	講 師	講師所属等	期 日	参加人数
会津漆の芸術祭 プレイメントしでかす!つながるプロジェクト 「しでかす!つながるワクワク撮影会」	しでかすおともだち (きぐるみアイドルユニット)		5月19日(土)	68
会津漆の芸術祭 トークイベント「漆液がはぐくんだ詩人・相田謙三」	若松丈太郎 赤坂憲雄	詩人 県立博物館長	10月17日(木)	30

テ	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
会津漆の芸術祭 シンポジウム「会津・漆・アートⅢ 地の記憶未来へ」		北川フラム 樋田豊次郎 山下裕二 赤坂憲雄		越後妻有大地の芸術祭総合ディレクター 秋田公立美術大学学長 明治学院大学教授 館長	11月23日(金)		77
会津漆の芸術祭 フォローアップイベント 市民フォーラム1 「会津・漆の芸術祭が残したもの」		赤坂憲雄		館長	1月17日(木)		70
会津漆の芸術祭 フォローアップイベント 「続・漆のお手紙プロジェクトワークショップ」1		山中早苗		漆芸家	1月20日(日)		4
会津漆の芸術祭 フォローアップイベント 「続・漆のお手紙プロジェクトワークショップ」2		山中早苗		漆芸家	2月10日(日)		16
会津漆の芸術祭 フォローアップイベント 市民フォーラム2 「会津・漆の芸術祭が残したもの」		赤坂憲雄		館長	1月17日(木)		70
会津漆の芸術祭 フォローアップイベント 「続・漆のお手紙プロジェクトワークショップ」3		山中早苗		漆芸家	3月3日(日)		16
会津漆の芸術祭 フォローアップイベント ワークショップ「うるしとあなたとあいつのワクワクワーク」		貝沼 航		ファシリテーター	3月23日(土)		56

(21) 共催事業関連行事

テ	マ	講	師	講師所属等	期	日	参加人数
福島現代美術ビエンナーレイベント「対談 館形比呂一×渡邊晃一 地の記憶未来へ」		館形比呂一 渡邊晃一		舞踏家 福島大学准教授	4月29日(日)		18
はるなか講演会		西尾孝佳		宇都宮大学雑草科学研究センター准教授	6月3日(日)		60
福島県公民館連絡協議会研修会講演会		大石邦子		エッセイスト	7月18日(水)		117
会津若松郷土文化教室（双葉町教育委員会主催）		藤原妃敏		学芸員	7月31日(火)		3
会津史学会歴史文化講演会		穴沢啄光		福島県考古学会顧問	11月18日(日)		102
放送大学公開講演会		垣花真一郎		放送大学客員准教授	12月2日(日)		45
青木山を守る会講演会		結城登美雄		東北大学大学院非常勤講師	12月5日(水)		67
会津史談会講演会		佐々木長生		専門員	12月6日(木)		64
福島こどものみらい映画祭 移動映画祭「ONE PIECE THE MOVIE エピソードオブチョッパー 冬に咲く、奇跡の桜」					1月26日(土)		7
福島こどものみらい映画祭 移動映画祭「どらえもん のび太の恐竜」「釣りバカ日誌20ファイナル」					2月23日(土)		30
会津商工会議所女性会主催レディース教養講座「会津の女性新島八重から学ぶハンサムウーマン」		野口信一		会津歴史考房主宰	2月26日(火)		99
日本映像民俗学の会					3月9日(土) ・10日(日)		73

(22) 復興応援パートナー事業

テ　　マ	講　　師	講師所属等	期　　日	参加人数
東日本大震災復興支援プロジェクト 「Koi 鯉アートのぼり」		福島大学芸術による地域創造研究所	4月21日(土)～ 5月27日(日)	
身近なしぜん発見隊 by ひとはく		兵庫県立人と自然の博物館	平成24年4月 22日(日)	
『Riflection～9人の視点～』 「大熊町亀公園仮設住宅ワークショップ参加者写真 作品お披露目展」		福島写真プロジェクト	平成24年4月 28日(土)～5月 27日(日)	
「福島ひまわり里親プロジェクト芽ッセージ展」		NPO法人チーム ふくしま 福島ひ まわり里親プロ ジェクト	平成24年6月 12日(火)～7月 11日(水)	
キッズキャラバン in 会津美里		福島県立博物 館・兵庫県立人 と自然の博物館	平成24年7月 27日(金)	
「民家の甲子園写真パネル展」		一般社団法人 福 島県古民家再生 協会	平成24年8月 26日(日)～9月 20日(木)	
写真展「チェルノブイリ」と「フクシマ」		真宗大谷派会津組 チェルノブイリ子 ども基金あいづ	平成24年10月 30日(火)～11月 4日(日)	
講演会「私たちは震災とどう向きあうのか?～東 日本大震災復旧・復興をとおして～」	藤井学昭氏	真宗大谷派会津 組	平成24年10月 30日(火)	12
あいづしぜんかわらばん		こども☆ひかり プロジェクト・ 兵庫県立人と自 然の博物館	平成24年11月 10日(土)～12月 7日(金)	

平成24年度講座・講演回数と参加者数

テ　　マ	回　　数	参加者数
(1) 木曜の広場	12	732
(2) 考古学講座	4	87
(3) 民俗講座	4	29
(4) 歴史講座	4	466
(5) 自然史講座	4	105
(6) 指導者向け研修	1	8
(7) 実技講座	3	37
(8) 実演	4	93
(10) 企画展関連行事 (記念講演・シンポジウム・ 講座・展示解説会等)	17	2,111
(13) テーマ展関連行事	4	83
(15) ポイント展関連行事	1	35
(17) 移動展関連行事	1	13
(18) ミュージアムイベント	10	1,242
(20) 共催事業関連行事 (会津・漆の芸術祭)	9	339
(20) 後援事業	12	685
(21) 復興応援パートナー事業	1	12
計	91	6,077



木曜の広場『老媪茶話』を読む 1』



考古学講座「土器作り」



木曜の広場『老媪茶話』を読む 2』



民俗学講座「衣のコレクション」



考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」



民俗学講座「わら人形」



歴史講座「若松城下の寺院」



歴史講座「若松市内の寺院を訪ねる」



自然史講座「化石をさがそう」



自然史講座「チリメンモンスターをさがせ！」



実技講座「小旗をつくろう」



実技講座「マタタビ蔓の四ツ目ざる作り」



実演「昔語り」



実演「からむし織り」



博物館見学のしおり

(イ) ワークシート

小学校高学年から中学生向けに作成されていて、常設展示を構成する6つの大テーマに沿うかたちで、展示室内の主要な資料を題材に取り上げている。当館ホームページからダウンロードすることによって、学習の目的に応じて選択し利用できる。

(2) 学校・文化施設との連携

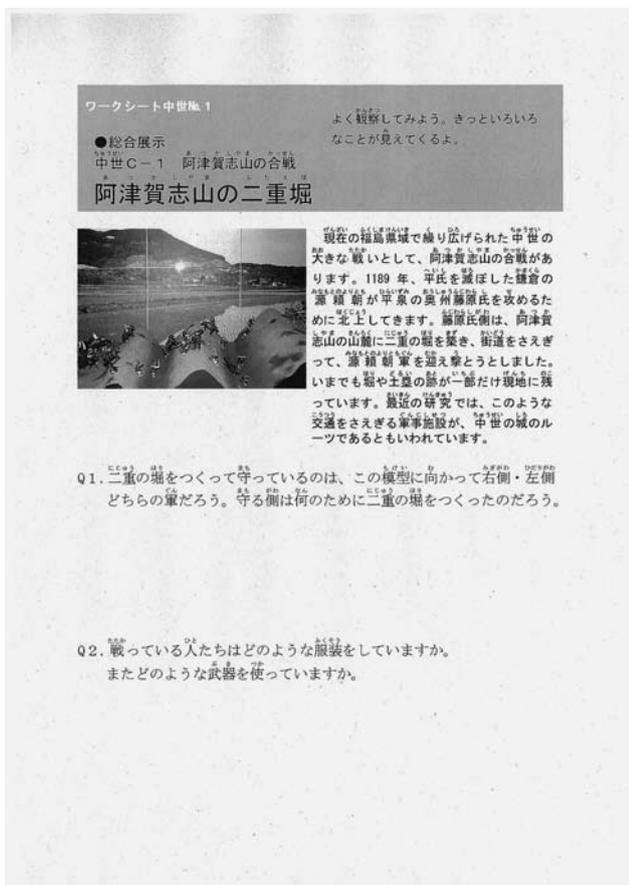
各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

ア. 展示室での自主学習

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や見学の目的などに応じた2種類のワークシートを準備している。

(ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)

常設展示室の展示資料を見る際のポイントを与えるように設問形式で構成されており、書き込みながら学べるようになっている。児童・生徒は自分のペースで見学し、自由な考察ができる。個人および団体来館する小・中学生全員に受付で配布している。



ワークシート

イ. 団体体験学習プログラム

児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。当館では入館団体の多様なニーズに対応すべく、事前申込制による「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」「化石にふれてみよう（自然分野）」「糸紡ぎ（民俗分野）」「特別授業！昔の道具（民俗分野）」「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史分野）」の5つの団体体験学習プログラムを準備している。実施回数・人数ともに前年度（32回、769名）より減少した。「特別授業！昔の道具」は、小学3年生の授業と連動した内容となっており、前年度同様に増加傾向を示している。

○体験学習プログラム実施状況

「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」	15回	342名
・勾玉づくり	8回	143名
・火おこし	6回	164名
・石器で切ってみよう	1回	35名
「化石にふれてみよう（自然分野）」	3回	82名

「糸紡ぎ（民俗分野）」

2回 75名

「特別授業！昔の道具（民俗分野）」

7回 190名

「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史分野）」

2回 34名

合計 29回 723名



体験学習「火おこし」



体験学習「化石にふれてみよう」

ウ. 指導者向け研修

学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施している。団体体験学習プログラムを実際に体験してもらうことにより、当館の学習支援活動への理解を深め、学校や公民館の諸活動における活用の推進を図っている。

平成24年8月19日(金) 参加者8名

(小学校教員3名 中学校教員1名 特別支援学校教員1名 公民館職員3名)



指導者向け研修「勾玉づくり体験」

エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

○学習用具・教材等の貸出実績

・火縄銃2丁

東白河郡中島村立中島中学校

・舞いぎり式発火具セット10点

会津若松市南公民館

オ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実 施 先	科 目
4月25日	小林めぐみ	美術	会津・漆の芸術祭の取り組みについて	福島県立会津工業高等学校	美術
4月27日	小林めぐみ	美術	会津・漆の芸術祭の取り組みについて	福島県立会津工業高等学校	美術
5月10日	佐々木長生	民俗	地域の宝物紹介～奥会津金山の自然とくらし～	福島県立川口高等学校	総合的な学習の時間
5月25日	古山智行	歴史	新島八重の生き方に学ぶ	家庭クラブ県北地区連盟	家庭クラブ県北地区連盟研修会
7月10日	相田 優	自然	会津の自然	学校法人慈光学園	行事
7月11日	相田 優	自然	会津の自然	学校法人慈光学園	行事
8月30日	阿部綾子	歴史	会津の歴代領主	会津若松市立第二中学校	総合的な学習の時間
9月28日	古山智行	歴史	山本八重について	福島県高等学校文化連盟 文芸専門部	福島県高校文芸研修会
1月17日	榎陽介	民俗	古い道具とそれを使っていたころの暮らしについて	会津若松市立一箕小学校	総合的な学習の時間
3月6日	佐藤洋一	歴史	新島八重について	福島県立会津第二高等学校	総合的な学習の時間
3月18日	古山智行	歴史	会津の歴史と偉人～新島八重が生きた時代～	会津若松市立第四中学校	総合的な学習の時間



ゲストティーチャー「新島八重の生き方に学ぶ」

カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成24年度は3校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。また、福島県教育委員会経験者研修Ⅱ社会体験研修として、県立学校教諭1名を受け入れた。

○職場体験受け入れ実績（児童・生徒のみ）

・福島県立若松商業高等学校

（2年生：5名） 2日間

- ・会津若松市立第四中学校
(2年生：3名) 2日間
- ・金山町立金山中学校
(3年生：1名) 2日間



職場体験「民俗資料の整理作業」

キ. 博物館実習

大学からの要請に応え、学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。平成24年度は県内出身の学生7名を受け入れた。

実習期間 8月21日(火)～8月26日(日)

実習生所属大学一覧

No.	大 学 名	人 数
1	弘前大学	1
2	宮城学院女子大学	1
3	東北生活文化大学	1
4	米沢女子短期大学	1
5	高崎経済大学	1
6	茨城大学	1
7	川村学園女子大学	1
	合 計	7

平成24年度博物館実習プログラム

月 日	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 21日 (火)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
	9:00～9:10	実習生紹介	学習支援班 (田中)	事務室
	9:10～9:40	オリエンテーション	学習支援班 (田中)	第2会議室
	9:50～10:50	福島県立博物館の概要	学芸課長	第2会議室
	11:00～12:00	博物館の企画運営・展示	企画運営班 (竹谷)・展示班 (榎)	第2会議室
	— 昼 食 —			
	13:00～14:00	博物館の広報普及・学習支援活動	広報班 (佐藤)・学習支援班 (二瓶)	第2会議室
14:00～16:00	新しい展示の立案について (趣旨説明など)	博物館新情報収集・展示室改善班 (高橋満)	第2会議室	
16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室	
22日 (水)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
	9:10～12:00	考古資料の取り扱い	考古分野 (田中・森・高橋・藤原)	実習室ほか
	— 昼 食 —			
	13:00～16:00	民俗資料の取り扱い	民俗分野 (榎・佐治・二瓶・内山)	第1収蔵庫ほか
16:10～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室	
23日 (木)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
	9:10～12:00	資料の保存	保存科学分野 (松田・杉崎)	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00～16:00	美術資料の取り扱い	美術分野 (川延・小林・金澤)	第2会議室
16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室	
24日 (金)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
	9:10～9:40	博物館の資料と調査研究	資料整理班 (相田)	第2会議室
	9:40～12:00	図書資料の整理・登録・管理	資料整理班 (相田・山中)	第2会議室
	— 昼 食 —			
	13:00～16:00	自然資料の取り扱い	自然分野 (竹谷・相田・船尾)	第2収蔵庫
16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室	

月 日	時 間	内 容	担 当	場 所
25日 (土)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
	9:10~12:00	歴史資料の取り扱い — 昼 食 —	歴史分野 (佐藤・高橋・阿部・古山)	第2会議室
	13:00~16:00	新しい展示の立案 (作業)	博物館新情報収集・展示室改善班	第2会議室・ 実習室
	16:10~17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
26日 (日)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
	9:10~12:00	新しい展示の立案 (作業)	博物館新情報収集・展示室改善班	第2会議室・ 実習室
	— 昼 食 — 13:00~15:40	新しい展示の立案 (作業・発表・討議)	博物館新情報収集・展示室改善班	エントランス ホール
	15:40~16:00	実習を終えて (感想・意見交換)	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
	16:10~17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室



博物館実習「考古資料の取り扱い」



博物館実習「新しい展示の立案」

者が自由に閲覧できる。平成24年度は53冊増加した。

また相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場でもある。



相談コーナー

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、特別観覧として博物館資料の閲覧や撮影を許可し実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：5件70点 歴史：18件133点

ウ. 講師派遣

博物館や公民館等の文化機関および各種団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座の講師として派遣している。

(3) 生涯学習・研究支援

ア. 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物の他、博物館資料に関連した一般図書や図鑑・辞書など2,722冊を配架。入館

平成24年度講師派遣一覧

月 日	講 師	分野	演題・内容等	主 催
5月25日	榎 陽介	民俗	会津の年中行事	会津若松市北公民館
6月10日	小林めぐみ	美術	ハートマークビューイングふくしま	こどもひかりプロジェクト事務局
6月14日	古山智行	歴史	輝ける会津の女性 新島(山本)八重	会津若松市一箕公民館
6月16日	内山大介	民俗	朝日稲荷神社と須賀川の歴史～絵馬にみる暮らしと祈り～	須賀川知る古会
7月31日	森 幸彦	考古	会津地方(喜多方市)の遺跡	福島県中教研耶麻支部社会部
7月31日	内山大介	民俗	映像で学ぶ民俗 ー奥会津の木地師ー	会津美里町公民館
8月15日	竹谷陽二郎	自然	猪苗代湖の成り立ち(ジオキャンプ)	国立磐梯青少年交流の家
8月22日	竹谷陽二郎	自然	西会津町の地史	西会津町公民館
8月30日	古山智行	歴史	山本(新島)八重について	会津美里町公民館
9月1日	竹谷陽二郎	自然	世界ジオパークを目指して(磐梯山ジオパークフォーラムin磐梯町)	磐梯山ジオパーク協議会
9月8日	田中 敏	考古	福島県立博物館の楽しみ方	杉妻学習センター
10月21日	竹谷陽二郎	自然	伊豆半島ジオパーク研修講師	磐梯山ジオパーク協議会
10月21日	古山智行	歴史	新島八重の生涯	瀬上町第三町内会
10月25日	古山智行	歴史	新島八重の生き方	長沼文化団体連絡協議会
11月7日	竹谷陽二郎	自然	ジオパークガイド研修(北塩原村エリア)	磐梯山ジオパーク協議会
11月8日	田中 敏	考古	高校にもっと博物館を!	会津方部高等学校地歴・公民科研究会
11月14日	竹谷陽二郎	自然	ジオパークガイド研修(磐梯町エリア)	磐梯山ジオパーク協議会
11月17日	竹谷陽二郎	自然	講座・展示解説会「ジュラシック相馬」	南相馬市博物館
11月19日	古山智行	歴史	新島八重の生涯～先人の生き方に学ぶ	桃見台地域公民館
11月20日	古山智行	歴史	福島県立博物館の事業概要と展示	埼玉県行田市郷土博物館
11月21日	竹谷陽二郎	自然	ジオパークガイド研修(猪苗代町エリア)	磐梯山ジオパーク協議会
11月30日	竹谷陽二郎	自然	サイエンスカフェ「ジュラシック相馬」	ふくしまサイエンスぷらっとフォーム
12月1日	竹谷陽二郎・相田優・船尾武彦	自然	サイエンス屋台村 in 南相馬	ふくしまサイエンスぷらっとフォーム
12月6日	佐々木長生	美術	会津風俗帳の世界	会津史談会
2月28日	竹谷陽二郎	自然	福島県の文化財レスキュー ー原発事故による影響と博物館の役割ー	千葉県立中央博物館
3月3日	竹谷陽二郎	自然	研修会「ジュラシック相馬」	福島県立博物館友の会化石・鉱物探検隊
3月24日	阿部綾子	歴史	会津藩の女性と子ども	国際ソプロチミスト会津



講師派遣「朝日稲荷神社と須賀川の歴史」

(4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等研究活動の支援などを行っている。

ア. 友の会の概要

- ①発 足 平成元年3月10日
- ②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が福島県の歴史と文化・自然についての

研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③平成24年度会員数

個人会員：264 家族会員：103
高校生会員：0 賛助会員：4
合計：371

イ. 平成24年度事業概要

(ア) 春の研修旅行（両毛と越後の旅）

①期 日 平成24年5月15日～16日
（1泊2日）

②内 容 栃木県足利市、群馬県富岡市・安中市を訪ね、世界遺産登録を目指す「富岡製糸場」や西福寺などを見学した。

③参加者 45名

(イ) 秋の研修旅行（日光を訪ねる旅）

①期 日 平成24年10月19日

②内 容 日光東照宮で特別祈禱を受けた。栃木県立博物館などを見学した。

③参加者 45名

(ウ) 会報の発行

年4回（季刊）、会報を発行し会員に配布した。会員の文化活動を紹介する記事を充実させ、会員の顔が見える紙面作りに努めた。

(エ) 博物館事業への協力

①博物館展示観覧

平成24年度友の会会員入館者数
常設展532件 企画展444件

②博物館講座への協力

博物館講座へ多くの会員が参加した。

(オ) 総会の開催

①期 日 平成25年3月14日

②内 容 平成24年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成25年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。



春の研修旅行（富岡製紙場にて）



秋の研修旅行（栃木県立博物館にて）



平成24年度友の会総会

ウ. サークル活動

古文書愛好会、化石・鉱物探検隊、道ばた文化財研究会の3サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークル

で、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数30名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成24年度は次の活動を行った。

- ①平成24年4月22日 塙町藤田砒業採石場での貝化石採集
- ②5月20日 郡山市鬼ヶ城での鉱物採集
- ③6月10日 喜多方市加納・与内畑鉱山での鉱物採集
- ④7月8日 南会津町八総鉱山での鉱物採集
- ⑤9月2日 柳津町軽井沢鉱山での鉱物採集
- ⑥9月8日 西会津町束松で開催された博物館主催自然史講座「化石をさがそう」での協力
- ⑦10月7日 西会津町藤峠での化石採集
- ⑧10月21日 山都町一ノ木鉱山での鉱

物採集

- ⑨平成25年2月17日 博物館での化石学習会
- ⑩3月3日 総会ならびに講演会「ジュラシック相馬」(講師：当館学芸員 竹谷陽二郎)

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は、随時20～30名が参加し、活動が続けてきた。メンバーはそれぞれ5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。平成24年度は前年度に引き続き月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に全員で文字・内容の検討を行った。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書(福島県立博物館寄託)を用いている。築田家は江戸時代には一貫して若松城下の検断(町役人)をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な資料であるため、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

平成24年度広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「恐竜時代のふくしま」2,500枚 企画展「会津の寺宝」3,000枚 平成25年度特別展「八重の桜」3,000枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4	企画展「恐竜時代のふくしま」50,000枚 企画展「会津の寺宝」35,000枚 平成25年度特別展「八重の桜」50,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所

種 類	サイズ	印 刷 数	主 な 送 付 先
博物館だより (博物館の広報誌)	A4 8頁	3,500冊×4回=14,000冊	県内タウン情報誌 県内公立小・中・ 高校 県内私立小・中・高校 県 内博物館・美術館・図書館・公民館・ 文化施設・教育施設 県外主要博物 館 東北・関東地方の国立・県立図 書館・大学図書館 県内市町村教育 委員会 会津方部県出先機関 県 教育事務所
年間催し物案内	20×39.4cm 四つ折り	45000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・ 中・高校 県内博物館・美術館・図 書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県 立図書館・大学図書館 会津地域の 銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・ 保養施設・その他店頭 南東北・関東・ 新潟旅行代理店 県内市町村教育委 員会 会津方部県出先機関 県教 育事務所
はくぶつかん ニュース	A4 両面 (館内印刷)	12,600枚×12回=151,200枚	県内公立小・中・高校 県内私立小・ 中学校 県内図書館・公民館・教育施 設 県内市町村教育委員会 県教育 事務所
月行事予定表	A4 (館内印刷)	1,400枚×12回=16,800枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者 クラブ 会津若松市・周辺市町村の 観光・広報係 県内主要文化施設
投げ込み(企画 展の記者発表な どマスコミ向け イベント情報の 提供)	A4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者ク ラブ



博物館だより第106号

イ. 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

平成24年度広告掲載一覧

展 示 会	看板 (駅前・博物館周り)	新 聞
夏の企画展「恐竜時代のふくしま」	○	—
秋の企画展「会津の寺宝」	○	—
年頭広告	—	福島民報社・福島民友新聞社

ウ. ホームページ

当館ではホームページを開設し、館の紹介およびイベントなどの各種情報を発信している。

平成24年度ホームページアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
福島県立博物館	27,433	30,006	25,084	26,906	31,374	26,550	26,936	26,687	28,443	36,003	25,104	30,274	340,800
会津・漆の芸術祭	5,966	6,898	8,216	8,099	8,444	14,698	24,366	18,107	9,898	9,268	6,075	6,245	126,280
総 計	33,399	36,904	33,300	35,005	39,818	41,248	51,302	44,794	38,341	45,271	31,179	36,519	467,080

エ. ニュースメール

当館ではニュースメールを作成し、企画展、テーマ展示、講座、講演会などの催し物の情報などを、マスコミ向けに発信している。

平成24年度：Vol 123～Vol 131

オ. 記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる各種行事の取材に基づいた記事・放映は次の通りである。

(ア) 夏の企画展「恐竜時代のふくしま」

- ・福島民報「7月14日から恐竜展 県立博物館 骨格標本など披露」(5月29日記事)
- ・福島民報「恐竜時代のふくしまに行こう！ きょう県立博物館で企画展開幕」(7月14日記事)
- ・福島民友「恐竜時代 資料で紹介 県立博物館できょう開幕 化石や骨格500点展示」(7月14日記事)
- ・福島民友「恐竜時代に思いはせ アマルガサウルスの全身骨格 若松県立博物館」(7月26日記事)
- ・FCT「5時テレシャトル」(7月16日放映)
- ・NHK「NHKニュース」(8月6日放映)
- ・エフエム福島「ふくしま EVENING BREAK」(8月20日放送)

(イ) 秋の企画展「会津の寺宝」

- ・福島民報「きょう「会津の寺宝」開幕 県立博物館秋の企画展 国宝、重文など展示」(10月6日記事)
- ・福島民友「国宝など70点を展示 貴重な会津の寺宝並ぶ 県立博物館で企画展開幕」(10月7日記事)

- ・エフエム福島「ふくしまEVENING BREAK」(10月25日放送)

(ウ) 平成25年度特別展「八重の桜」

- ・福島民友「生い立ちや活躍紹介 県立博物館で企画展」(1月7日記事)
- ・福島民報「『八重を知ろう』開幕 若松県立博物館でパネル展」(1月7日記事)
- ・福島民報「5月開幕『八重の桜』特別展 小中高生ら観覧無料 県方針」(3月6日記事)
- ・福島民友「八重展、児童・生徒を無料 県立博物館 教育旅行回復の起爆剤 5月開幕、資料200点展示」(3月6日記事)

(エ) 移動展「ジュラシック相馬」

- ・福島民報 相双版「きょうから『ジュラシック相馬』 郷土の中生代化石 特別公開 南相馬」(10月13日記事)
- ・福島民報 相双版「南相馬で県立博物館移動展 恐竜時代の相馬地方 豊かな化石紹介」(10月14日記事)
- ・福島民報 浜通り版「『ジュラシック相馬』開幕 南相馬市博物館12月24日まで県移動展 化石など260点展示」(10月16日記事)
- ・福島民報 相双版「中村層群の化石など紹介 南相馬市博物館『ジュラシック相馬』解説会」(11月19日記事)

(オ) テーマ展

- ・福島民報「佐竹永海の絵画展示 県立博物館」(5月6日記事)
- ・福島民報「めでたい美術品並ぶ 新春に七福神お招き 若松の県立博物館 27日まで『吉祥』展」(1月12日記事)

(カ) ポイント展

- ・福島民報「福島古墳で出土、大刀の柄頭「変形亀甲繫文」の模様 県内初」(11月1日記事)
- ・福島民友「県立博物館発表 福島・高森古墳群から出土の刀 柄に高度な象嵌装飾」(11月8日記事)
- ・福島民報「13日公開を前に説明会 県立博物館全国5例目の模様入り太古の大刀装飾金具」(11月8日記事)

(キ) 「会津・漆の芸術祭2012」

- ・福島民友「アートの世界楽しむ 県立博物館でフェス」(5月26日記事)
- ・福島民友「漆テーマ芸術祭 きょう若松、喜多方で開幕」(10月6日記事)
- ・福島民友「『ウオールアート』完成 金環日食テーマ壁に蒔絵 若松で「会津・漆の芸術祭」開幕」(10月8日記事)
- ・福島民報「『漆の芸術祭』振り返る 若松でフォーラム 県立博物館赤坂館長意図や効果語る」(1月23日記事)
- ・福島民友「漆の芸術祭の成果検証 県立博物館でフォーラム」(2月20日記事)

(ク) 催し物

- ・福島民報「あす「木曜の広場」 県立博物館の赤坂館長講師 月1回、来年3月まで」(4月18日記事)

- ・福島民友「大熊町民が布芝居披露 古里の昔話絵で表現 若松の県立博物館イベント(ふたばネット)」(7月23日記事)

(ケ) 復興支援

- ・福島民報「全国から応援の声 続々 福島ひまわり里親プロジェクト 県立博物館『芽っセージ展』始まる」(6月13日記事)

(コ) その他

- ・福島民友 暮らしにエコを地球生活「自然に逆らわず、自然を生かす 会津農書にみる暮らし 県立博物館専門員 佐々木長生さん」(1月29日記事)
- ・福島民報「県博の藤原課長会津の遺跡紹介 新鶴で講演会」(1月30日記事)
- ・福島民友 名品さんぽ この一点「戦後の庶民の知恵伝える パラシュートで作った襦袢 県立博物館」(2月27日記事)
- ・福島民友「地域文化の歴史学ぶ 喜多方文化協が講演会」(川延学芸員講演 3月5日記事)

(2) 公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を中期目標の平成24年度達成度評価の資料とすると同時に、データを分析し、館の事業の改善に努めた。

平成24年度アンケート実施行事

No.	分類	行 事	開 催 日
1	常設展	常設展ほか博物館全般	通年
2	常設展	無料開放日「子どもの日」	平成24年5月5日
3	常設展	無料開放日「県民の日」	平成24年8月21日
4	常設展	無料開放日「敬老の日」	平成24年9月17日
5	常設展	無料開放日「文化の日」	平成24年11月03日
6	企画展	小さなもの集まれ!	平成24年2月18日～5月13日
7	企画展	恐竜時代のふくしま	平成24年7月14日～9月17日
8	企画展	会津の寺宝	平成24年10月6日～11月25日
9	特集展	朝日稲荷神社の絵馬	平成24年5月24日～6月17日
10	企画展関連行事	「恐竜時代のふくしま」記念シンポジウム「ジュラシックふくしま」	平成24年7月28日
11	企画展関連行事	「恐竜時代のふくしま」記念講演会「フタバズキリュウ物語」	平成24年8月25日
12	企画展関連行事	「会津の寺宝」記念講演会「会津の仏像と仏画 鑑賞の極意」	平成24年10月7日
13	企画展関連行事	「会津の寺宝」記念講演会「再びの『仏道』」	平成24年10月21日
14	ミュージアムイベント	会津の民謡/東北の民謡	平成24年6月9日
15	ミュージアムイベント	映画会 名探偵コナン	平成24年8月18日
16	ミュージアムイベント	ひとり人形芝居	平成24年10月28日
17	ミュージアムイベント	法衣ファッションショー	平成24年11月17日

No.	分 類	行 事	開 催 日
18	ミュージアムイベント	クリスマスコンサート	平成24年12月15日
19	館長サタデープロジェクト	被災地の民俗芸能と復興	平成25年2月16日
20	館長サタデープロジェクト	福島警戒区域内的の博物館と文化財	平成25年3月7日
21	歴史講座	会津の寺宝・名僧シリーズ1 徳一と慧日寺	平成24年5月12日
22	歴史講座	会津の寺宝・名僧シリーズ2 武家の信仰	平成24年5月26日
23	歴史講座	会津の寺宝・名僧シリーズ3 会津藩と寺院	平成24年6月2日

(3) 出版事業

平成24年度は次の出版物を刊行した。

ア. 企画展図録

福島県立博物館平成24年度企画展図録
「恐竜時代のふくしま」 1,500冊

「会津の寺宝」 2,500冊

イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第27号 600冊

ウ. 年報

福島県立博物館年報 第26号 400冊

7. 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループ

と連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。平成24年度は次の事業を実施した。

(1) 文化財レスキュー

ア. 文化財・資料の受け入れ対応

(ア) 平成23年度受け入れ分への対応

平成23年度に一時保管という扱いで受け入れた資料について、所有者の意向などを確認したうえで、当館の通常の受け入れ手続き（受託など）に変更した。

受け入れ後の資料の整理・修復など作業については、前年度から継続して、臨時労務員2名が作業に当たった。

(イ) 平成24年度受け入れ分

平成24年度に入って、震災関連で新規に受け入れた資料は《表》の通り4件。表中のNo.は平成23年度からの通し番号。

(ウ) 展示公開

当館主催で開催した下記の展示で、被災資料の一部を展示公開した。合わせてレスキュー活動のようすをパネルなどで紹介した。

①当館特集展「朝日稲荷神社の絵馬一救出された須賀川の文化財」（5月24日～6月17日）

東日本大震災で被災した神社の社殿から救出された奉納絵馬を展示。

- ②当館企画展「恐竜時代のふくしま」(7月14日～9月17日)

標本レスキューのコーナーを設け、被災した鹿島歴史民俗資料館に収蔵・展示していた化石標本を展示。

- ③当館移動展「ジュラシック相馬」(会場:南相馬市博物館 10月13日～12月24日)

被災した鹿島歴史民俗資料館に収蔵・展示していた化石標本を展示。

イ. 警戒区域の資料への対応

(ア) レスキュー作業の体制

平成24年度になって、福島第一原発事故による警戒区域内の資料館が所蔵する資料のレスキュー作業が本格的に開始された。5月15日、県内各機関、被災市町村教育委員会による「福島県被災文化財等救援本部」(以下、「救援本部」)が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画した。「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」(事務局:東京文化財研究所 以下「救援委員会」)の指導協力のもとに作業を行うことになった。

(イ) 一時保管場所の環境調査

警戒区域から搬出した資料の一時保管場所となる旧相馬女子高校の環境調査を保存担当職員が中心となって実施(のべ13日)。調査項目は温湿度、ガス濃度(酢酸、ホルムアルデヒド、アンモニア、窒素酸化物、硫化水素)、文化財害虫、カビの付着状況の確認など。

(ウ) 警戒区域内資料館資料の梱包・搬出・搬入作業

「救援委員会」の指導協力を得て、「救援本部」が主体となって、双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊

町民俗伝承館の資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。

8月～11月にかけて実施、従事日数はのべ19日、従事人数はのべ50人。警戒区域への立ち入りについては福島県の基準を用い、とくに博物館独自のものは策定しなかった。また県の基準をもとに積算線量を管理することとした。

(エ) その他

- ①浪江町の資料保管予定場所の保管環境に関する相談対応(9月)
- ②一時保管場所での資料整理への協力(12月)
- ③楢葉町(避難解除準備区域)の寺院資料のレスキュー要請への対応(25年1月)
- ④仮収蔵庫(白河市)の環境調査(25年3月)

ウ. その他

- ①只見町収蔵庫の調査(6月)
- ②南相馬市博物館特別展「ふるさとの小高」展示協力(25年1～3月)
- ③関係するシンポジウム・研究会などへの参加・報告

エ. 今後の見通しと課題

(ア) すでに受け入れた文化財・資料への対応(継続)

(イ) 旧警戒区域からの文化財・資料の搬出・保全(継続)

- ①富岡町歴史民俗資料館・双葉町歴史民俗資料館からの資料搬出
- ②個人所有資料の保全
- ③収蔵・公開施設についての検討

(ウ) 救出された文化財・資料の展示公開(継続)

(エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備

平成24年度レスキュー資料受入状況

No.	所有者	資料概要	数量	要因	現状(平成24年度末)
18	浪江町の個人	書跡	2点	原発事故避難により管理不能	受託
19	富岡町	16ミリフィルム	1点	原発事故避難により管理不能	受託
20	南相馬市の個人(大部分は鹿島歴史民俗資料館に寄託していたもの)	化石標本	約400点	地震による収蔵施設の損壊	受託
21	大熊町教育委員会(震災時にいわき市内にあったもの)	考古資料・和鏡	34箱・1面	原発事故避難により管理不能	受託

※No.は平成23年度からの通し番号



資料の放射線量計測（富岡町歴史民俗資料館 8月29日）



一時保管場所への搬入（旧相馬女子高校11月21日）



搬出資料の梱包（双葉町歴史民俗資料館 9月14日）



搬入資料の開梱・点検（旧相馬女子高校 9月6日）



搬出資料の梱包（大熊町民俗伝承館 9月20日）



一時保管場所の環境調査（旧相馬女子高校12月20日）

（2）市町村埋蔵文化財技術協力

本事業は、県内市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査事業等について県教育委員会が調査等に必要な技術を協力・支援する県文化財課の事業である。東日本大震災の復旧事業等の増加のため市町村に派遣する職員が不足するため、文化財課の依頼により博物館から人員の派遣を行った。

平成24年度は5月に下郷町の小沼崎遺跡と寄上遺跡、12月に下郷町の湯野上遺跡と和田遺跡の4遺跡の試掘調査のため職員を派遣した。

（3）ふくしま応援ミュージアムイベント 従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」

と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

ア. わくわくワークショップフェス

(ア) 日 時 平成24年 5月19日(土) 13時30分～16時30分

(イ) 会 場 福島県立博物館エントランスホール・体験学習室・実習室・視聴覚室

(ウ) 参加者数 450人

(エ) 講 師 会津ジャパン・今井紀彰・しでかすおともだち・デイリリーアートサーカス・半沢政人・日比野克彦H M V・渡邊晃一

(オ) 内 容

福島県の子供たちへ県内外のアーティストが集結しアートワークショップをプレゼント。会津ジャパン「ビームでアート」、今井紀彰氏「アート大サーカス」、しでかすおともだち「ワクワク撮影会」、デイリリーアートサーカス(若松第二中学校美術部の協力)「デイリリーアートボックス」、半沢政人「アートスクール」、日比野克彦氏「ハートマークビューイング」、渡邊晃一氏と福島大学生による「鯉K O I アートのぼり」。いずれも参加者の子供たちの熱心な取り組みがみられた。



アート大サーカス



ワクワク撮影会



デイリリーアートボックス2



ビームでアート



アートスクール



ハートマークビューイング



鯉KOIのぼり

イ. 会津の民謡／東北の民謡

(ア) 日 時 平成24年 6月 9日(土) 13時
30分～15時

(イ) 会 場 福島県立博物館 エントラ
ンスホール

(ウ) 参加者数 73人

(エ) 出 演 玄如節顕彰会の皆さん

(オ) 内 容

玄如節は、即興の掛合で歌うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、玄如節を中心とした会

津の民謡と、東日本大震災の被災地である東北各県（岩手・宮城・福島）の民謡を、唄と踊りをまじえて披露した。

(カ) 成果と課題

- ①玄如節の紹介を通じ、民謡を鑑賞するだけでなくその歴史を伝えることができた。
- ②大人だけでなく、小学生の歌い手による民謡も好評であった。
- ③広報不足もあり、前年に比べ参加者数がやや減少してしまった。

ウ. 大熊町の民謡「布芝居」

(ア) 日 時 平成24年 7月21日(土) 13時
30分～14時「布芝居」 14時～15時「木の
実のマスコット作り」

(イ) 会 場 福島県立博物館講堂・実習
室

(ウ) 参加者数 96人

(エ) 講 師 大熊町ふるさと塾（民謡伝承
部会・木の实部会）

(オ) 内 容

大熊町の「ふるさと塾」の“民謡・伝承部会”による大熊の昔話・民謡を大熊の方言で、紙芝居ならぬ「布芝居」で実演。また“木の实部会”によるドングリを使ったマスコット製作を実施。



布芝居



ドングリを使ったマスコット製作

エ. 映画会 シネマエール東北「名探偵コナン 漆黒の追跡者」

(ア) 日 時 平成24年 8月11日(土) 13時30分～

(イ) 会 場 福島県立博物館講堂

(ウ) 参加者数 80人

(エ) 内 容

東北に映画を届けよう！プロジェクト「映画応援団 シネマエール東北」の一環として、山形県映画センターの全面的な協力のもと開催した映画会である。上映作品は『劇場版 名探偵コナン 漆黒の追跡者』。上映時間は111分。今回は、原発事故で避難されている方々へも、仮設住宅を回ってチラシを配布して広報に努めた。参加者のアンケートをみると、「市内唯一の映画館が無くなった今、このようなイベントはとてもありがたい。」など、概ね好評だった。



映画会受付

オ. ナイトミュージアム for Kids

(ア) 日 時 平成24年 9月15日(土) 17時～19時

(イ) 会 場 福島県立博物館常設展示室・企画展示室

(ウ) 参加者数 参加人数 62人

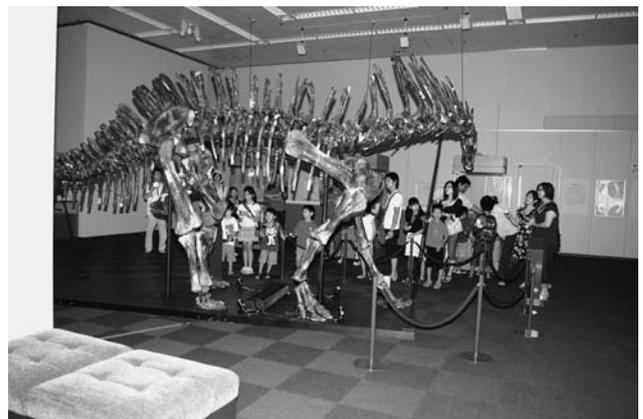
(エ) 講 師 当館学芸員

(オ) 内 容

いつもと違う雰囲気の博物館の展示室では、真っ暗闇な館内を懐中電灯の光を頼りに参加者が常設展示室と企画展「恐竜時代のふくしま」を見学した。小さなライトで学芸員の恐竜化石の解説に子ども達は耳を傾けていた。例年人気の高いイベントで、定員制で実施しているが、より多くの方たちに参加していただける内容を検討したい。



ナイトミュージアム1



ナイトミュージアム2

カ. ひとり人形芝居

(ア) 日 時 平成24年10月28日(日) 11時～12時 13時30分～14時30分

(イ) 会 場 福島県立博物館講堂

(ウ) 参加者数 175人

(エ) 講師 会津仏教会会員 安藤聖一
氏 (新潟教区三条組勝福寺衆徒)

(オ) 内容

安藤聖一さんによる「ひとり人形芝居」。午前の部では「こぶしの里のゑしんさま」、午後の部では「弁円のなみだ」を操演した。開催中の企画展「会津の寺宝」に合わせて、会津仏教会が企画したイベント。

(カ) 成果と課題

アンケートによると、初めて御覧になった方が多かったようだが、講師の方の熱演に感動したという感想が多く寄せられた。会津仏教会が広報などを積極的に進めていただき、通常のイベントよりも女性の参加者が多く、また猪苗代町から参加していただいた団体もあった。



ひとり人形芝居

キ. 法衣ファッション・ショー インドから
会津へ 真言宗の場合

(ア) 日時 平成24年11月17日(土) 14時～
15時30分

(イ) 会場 福島県立博物館講堂

(ウ) 参加者数 88人

(エ) 出演 会津仏教会会員 石井祐聖
氏 (大正大学)

(オ) 内容

僧侶のまとう袈裟や衣の由来や変遷について、会津仏教会会員の方が実際に着用したところを、講師が解説しながら紹介。開催中の企画展「会津の寺宝」に合わせて、会津仏教会が企画したイベント。

(カ) 成果と課題

アンケートによると、とてもわかりやすく興味深い内容であったという感想が多かった。講師の先生の解説が、とてもテンポよく明快であった。企画が充実していた分、来場者がやや少なかったことは残念で、広報不足などが課題となった。



法衣ファッションショー1



法衣ファッションショー2

ク. クリスマスコンサート 「祈りの夕べ」

(ア) 日時 平成24年12月15日(土) 13時30
分～15時

(イ) 会場 福島県立博物館エントラン
スホール

(ウ) 参加者数 244人

(エ) 出演 板橋 亮氏 (サクソ)、高
木満理子氏 (口笛)、細川佳那枝氏 (シ
ンセサイザー)

(オ) 内容

毎年おなじみのクリスマスコンサ
ート。今回は、福島県を拠点に活動してい
るアーティスト3人による、サクソ・

口笛・シンセサイザーというユニークな組み合わせの演奏会であった。曲目は、アメージンググレイス、チャルダッシュ、Believe（オリジナル曲）、夜霧よ今夜もありがとう、あわてんぼうのサンタクロース、ジングルベルほか。特に後半はクリスマスにふさわしい曲を並べた。

(カ) 成果と課題

ミュージアムイベントの中でもクリスマスコンサートを目的として参加した人がほとんど。この行事は定着してきたと言える。ほとんどの参加者が満足。成功だったと言える。3人の息の合ったかつ芸術性の高いアンサンブルが好評。特に口笛の演奏は聴いた人が少なく感動を呼んだ。トークも好評だった。このようなイベントでは演奏だけでなく話術も、楽しませるための重要な要素である。ただ、復興支援ミュージアムイベントと謳っていながら被災者の参加が少なかった。会津に避難している被災者への広報が足りなかった。



クリスマスコンサート3



クリスマスコンサート4



クリスマスコンサート1



クリスマスコンサート2

(4) 館長サタデープロジェクト

館長サタデープロジェクトは、平成20年度から実施しているが、震災後は被災地の復興状況をテーマに、ゲストからの報告とゲストと館長のトークを主に構成している。本年度は「被災地の文化財レスキュー」をテーマに、2回開催した。

ア. 福島県の被災状況と民俗芸能の再興～再興を支えたもの～

(ア) 日 時 平成25年2月16日(土) 13時30分～15時30分

(イ) 会 場 福島県立博物館講堂

(ウ) 参加人数 65人

(エ) 講 師 民俗芸能学会被災調査団長 懸田弘訓氏

(オ) 内 容

午後1時30分から1時間、懸田弘訓氏に震災後の福島県内被災地（新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、いわき市）における民俗芸能被災状況調査結果と復興状況の報告をいただいた。

・相馬地方（旧相馬中村藩領）には神楽

が極めて多く、県内全部で250箇所のうち150箇所に伝承されてきた。春は豊作祈願、秋は感謝の気持ちを込め、7郷それぞれに神楽を奉納をするようにと藩主が奨励したという。相馬地方の特徴といえる。

- ・新地町釣師浜漁港の事例：中断していたが神楽が残っている。震災をきっかけに復活したいという意向が盛り上がってきている。
- ・相馬市原釜津神社の事例：悲惨な状況乗り越えて神楽が1年後に復活。
- ・相馬市磯部稲荷寄木神社の事例：409戸が壊滅状況。1,218名中243名（約2割）死亡。1年後の4月15日、祭が復活。全員、仮設住宅住まい。神楽も財団などの寄付をもらって、頭を修理、太鼓も購入。
- ・南相馬市小高区小高神社の事例：警戒区域であるため、野馬追祭に伴う野馬懸行事を震災年の7月、南相馬市原町区の多珂神社で実施。
- ・南相馬市小高区貴布根神社の事例：90戸中74戸が壊滅。田植え踊り保存会のメンバー39名中12名死亡。文化庁の補助で衣装を整え、2012年10月、郡山市で祭を復活。
- ・浪江町請戸苕野神社の事例：482戸が壊滅、流出した家屋はほとんど全ての630棟。182名死亡。宮司夫妻、息子夫婦も死亡。震災の4か月後、田植え踊りを復活。踊り手の子ども達の半分は県外に避難。7月3日に二本松市に集まり練習開始。中学生から20歳過ぎの若者も参加。練習のための旅費は自費。子ども達のコミュニケーションをとりたいという力がこれを復活させた。8月20日にいわき市アクアマリンふくしまで公開。翌年2月、例祭日に福島県の仮設4か所、二本松1か所、計5か所周って田植え踊りを披露。
- ・双葉町前沢地区の事例：女の人だけが踊る宝財踊り。2012年10月に郡山市「ふるさとの祭」で披露。会長は「これが最後で、もうできないと思います。」と言っていたが、公演後は「かつての集落の人達と会えることが、継承して

いくエネルギーになると思った。今までは小さい芸能だと思っていたが、みんな喜んでくれた。やめるわけにはいかない。」と言っていた。今では何とか継承していこうと気持ちを固めている。

- ・いわき市豊間の事例：約600戸がほぼ壊滅。94人死亡。大国魂神社の「浜下り神事」は豊間の浜に御輿渡御。震災年5月には御輿渡御の祭礼復活できず、海友会3人神事参加。青年団団長が塩水を汲んで供えた。1年後の2012年5月祭礼復活。瓦礫があって海に入れないため、特別許可で道路で神事を斎行。

まとめ：

1. 復興・再興の支えとなったものは何なのか。原動力は何なのか。
 - ・一つは根強い信仰に基づいていること
 - ・指導者の使命感と実行力、周囲の協力が必要
 - ・生きる支えと生きがい…生きる場を支えるのが祭
2. 祭芸能は「ふるさと」そのもの
 - ・国などの早期の補助が必要…限度は3年
 - 道具を揃えるための補助・援助
 - 練習場所の確保と道具類の保管場所
 - 練習に行くための交通費
 - 練習するだけではなく、公開する場所の確保
3. 課題
 - ・祭芸能を継承する人の分散・不足
 - 浪江町民アンケートの場合、帰還をあきらめたという家族が42%
 - 避難先で住民登録をした、家を買ったという人が60数軒中10軒
 - ・悲しみは消えない
 - 悲しみは深いということをお忘れないうでいてほしい。その上で、何ができるか、何をすべきかということを考えてもらいたい。
 - 会津の人は放射線についてあまり実感がないかも知れないが、被災地の現場を見た上で、何らかの形で力添えをいただきたい。

対談：午後2時30分～3時 懸田弘訓
氏 赤坂憲雄館長 藤原妃敏学芸課
長

[館長]

- ・福島は岩手や宮城の状況とは全く違う。

東京ではもうほとんど終わったことにされている。

- ・双葉地方合同の博物館、芸能関係でいえば、それを継承していくようなセンターとか、公開の場所設立を総合的に議論して提案をしていく必要があるのではないか。
- ・警戒区域の避難住民、行政は状況の把握が全くできていない。例えば、避難するとか、仮の町とか言っているが、ダムができる時に緊急調査報告ということ必ずしているのだから、同じことをすべきだと思う。10年、20年、30年戻れないのであれば、そこの地域の文化をどういうふうに守っていくかという、そのビジョンを立てるためにも、きちんとした調査が入らないといけない。
- ・双葉の8町村が自分達の文化をどうするのかということ提案できるかという、できる状況ではない。何とか我々が動いて案、議論を起しながらかやっていくしかない。
- ・双葉地方を網羅するような博物館。もっと機能的にそこにはデジタルのアーカイブもあるし、離れた人達もそこに来れば自分達の町や村のことが色々な形で分かるというものを創らねばならない。

町村史も中途のものもあるが、色々なものを揃える。トータルに8町村が合同して、復興というものを動かしていくような場とか施設を要求する権利はあると思っている。それを国の金で全部やれというふうに言うべきだと思う。

しかし一切、そんな声が上がってこないから、国は知らん顔して忘れていく。10年経ったら、誰も何も言わなくなると考えているのかも。

- ・国交省が震災に関わるメモリアル

パークを造るということと呼ばれたことがあった宮城や岩手はすぐ手を挙げる。でも福島は手を挙げない。原発の被災状況の先行きが見えないから、今どこに造ると言えない。その地域に住んでいる人は文化財を守りたいのではなくて、文化財は一つの拠り所、手掛かりであって、そこに生きた自分達のアイデンティティを繋いでいける、その縁が欲しいのだろう。色々な省庁を巻き込む形で、そういう提案を是非勉強会でも作り声明のようなものを出してもいいかもしれない。

[懸田]

- ・放射線の影響について信頼できる情報がいまだかつてない。将来、原発の近くの3町村が維持できるのかどうか。下手すると町がなくなるのではないか、という重大な状況。海岸だけでなく阿武隈山地も被害を受けている。
- ・被災調査は宮城県・岩手県は震災の年から始まった。福島県は放射線の問題と態勢不備で民間に任せた。ところが民間団体には個人情報の問題などで色々な困難がある。文化庁の事業だからと言っても教えてもらえない。基本的には公共機関がやるのが大前提だろう。1年早く始まっていたら、もう少し救えたものがあったと思う。
- ・南相馬市博物館は映像資料を積極的に集めている。ただし、自分達で作った映像資料は残しているが、その他不特定多数のものを集めて保管する、貸し出すということをしていない。無形文化財の映像資料がなかったら、3年、5年たつと復活できないと思う。なんとかお膳立てしておかないと、肝心なものが、少なくとも百数十はなくなると思う。
- ・当事者、ごく一部の方々の力ではどうにもならない。県を挙げて、国を挙げて援助を差し上げないと、子孫にとんでもない後悔を残すと思う。まず大切なのは忘れないこと。そし

て自分から、やってもらえることを
お願いすることが大切と思う。

[藤原]

有形文化財レスキューとして、福
島歴史資料保存ネットワークとい
う、国、県自体の行政とは関わり
ない組織が動き、40件近くのレス
キュー活動を実施した。

その後、警戒区域の資料が問題に
なり、大熊町民俗伝承館、富岡町歴
史民俗資料館、双葉町歴史民俗資料
館を主たる対象に、国の救援委員会
が中心となってレスキュー活動を行
い、計9回運び出しをしたものの、
現時点で50%ぐらいの量しか運び出
せていない。国の救援委員会は本年
度で解散する。残りの50%をどうし
ていくのが課題で、なんとか来年
度以降も活動を続けていきたいと考
えている。

- ・レスキュー資料の運び出し後は、白
河市の「まほろん」（県文化財セン
ター白河館）の敷地内に収蔵庫を
作って収蔵する予定になっている。
- ・警戒区域内の個人所有資料をどうす
るかも大きな問題である。

(カ) 成果と課題

聴講者からの感想

- ・岩手・宮城との相違点を浮き彫りにし、
地味な分野での、しかし地域の人々に
とって極めて重要なものをいかに復興
していくかを明らかにした良い企画で
あったし、意義のあるものであった。
専門機関として引き続き大きく声を挙
げて欲しい。(66才男性)
- ・懸田先生のお話、胸がつまるような思
いがしました。もっと勉強して、私も
やれることのすべてをしたいです。こ
のようなレスキューの現状をもっと多
くの人知ることができるような機会
が多くあればよいのに、と思いました。
(32才女性)
- ・各地の実情を通し、民俗芸能の重要性
をあらためて感じました。今後民俗芸
能を少しでも守り、被災者を含め東北
の皆さんがコミュニティを復興するた
めに、文化財の修復、修理を含め会津

から何が出来るかをしっかり考えて行
きたいと思います。(53才男性)

- ・興味のない方々にとって“文化財”に
予算をかけるのは憤りを持つ人もい
るのだと思います。しかし、保護しな
いと次世代につながらないのも事実で
す。(40才女性)
- ・大変参考になりました。わたしもいろ
いろ復興に協力してきましたが、日本
の政治がだめ、福島の知事もだめで、
どうしたらいいのか？又、文化財を守
らなければ福島がだめになる。
- ・福島県の復興は遅れているのがわかり
ましたが、これからどうなるのかなど
心配です。(女性)
- ・民俗芸能を中心にした講演は非常に興
味深かった。現地をたずね、話を聞き
とり、写真をとってきたお話は、心を
打ちました。このような民俗芸能が、
被災された方々の生きる原動力になっ
ているとは知りませんでした。座談会
も、内容がたいへん面白かった。現場
の状況と政府の対応と放射線の問題が
大変だなと思いました。(70才女性)
- ・私たちの地区にも子どもたちによる年
中行事が残っていますが、人数が少な
くなり、なくなってしまうのではない
かと思われま。が、先生の話聞いて、
続けていかななくてはならないと思
いかえました。『文化が人々のより
どころ』とてもいいことばでした。文
化財についての問題も山積みです。一
般の私たちはどのようにかかわるか、
語っていくのか、どうしたらいい
かわからない。(53才女性)



懸田弘訓氏による講演



対談

イ. 福島・警戒区域内の博物館と文化財～現状と課題～

(平成24年度(財)日本博物館協会研究協議会を兼ねる)

(ア) 日 時 平成24年 3月7日(木)13時～17時30分、3月8日(金)9時30分～12時30分

(イ) 会 場 福島県立博物館講堂

(ウ) 参加人数 105人

(エ) 主 催 福島県立博物館 (財)日本博物館協会

(オ) 協 力 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会・福島県教育委員会・大熊町教育委員会・富岡町教育委員会・双葉町教育委員会

(カ) 内 容

3月7日(木)

①基調講演(13時～14時)

「警戒区域内の博物館の復興・再生」

講師 当館館長 赤坂憲雄

②報告(14時15分～17時30分)

1 「福島県としての取り組み」

丹野隆明氏(福島県教育庁文化財課専門文化財主査)

2 「警戒区域内での文化財レスキューについて」

岡田 健氏(東京文化財研究所保存修復科学センター センター長・被災文化財等救援委員会事務局長)

3 「警戒区域内の文化財」

3-1 大熊町の文化財と博物館
大熊町教育委員会

3-2 富岡町の文化財と博物館
三瓶秀文氏(富岡町教育委員会)

3-3 双葉町の文化財と博物館
吉野高光氏(双葉町教育委員会)

3-4 「警戒区域の博物館と文化財ー福島県立博物館の活動ー
藤原妃敏(当館学芸課長)

3月8日(金)9時30分～12時30分

③総合討論「警戒区域内の博物館の復興に向けて～課題と展望～」

岡田 健氏(東京文化財研究所保存修復科学センター センター長)

丹野隆明氏(福島県教育庁文化財課専門文化財主査)

三瓶秀文氏(富岡町教育委員会)

吉野高光氏(双葉町教育委員会)

藤原妃敏(当館学芸課長)

[司会] 半田 昌之

(財)日本博物館協会 専務理事)

終了後、オプションとして、白河市にある「まほろん」(福島県文化財センター白河館)に建設中のレスキュー資料仮収蔵庫および大熊、双葉、富岡3町のレスキュー資料展示を見学。

[基調講演]では、当館館長赤坂憲雄より、警戒区域からの文化財レスキュー資料の保管・収蔵・展示公開、同区域内被災文化財の悉皆調査及び民俗調査、同区域の民俗芸能の練習・発表の場、また震災資料の収集・収蔵・展示、関連映像資料のアーカイブ化と公開などを目的とした、仮に「そうま・ふたば博物館」などといった総合的調査、収集、収蔵、公開機能を備えた半恒久的施設の設立が早速

に必要である旨の提言がなされた。
[報告] では、丹野氏から福島県での文化財被災の状況と平成24年度の文化財レスキュー対応の実績報告がなされ、岡田氏からは文化財が放射能に汚染された事実の理解と認識を国としてどう捉えているのか、実際に警戒区域内での作業をどのように段取りどのように実施してきたかの報告がなされた。また、救援委員会が3月末にて解散するため、今後活動を継続するにはどのような体制が必要か県に考えてもらわねばならないこと、救出された文化財資料の今後の取り扱いが議論されていない現状では、県の考え方を明示していくことで国の対応が左右されるだろうとの見解が出された。

大熊、富岡、双葉3町の文化財担当者から報告の予定であったが、大熊町の中野幸大氏は2月末に退職したため、富岡町の三瓶氏が大熊町の報告も行った。富岡、双葉両町の担当者からは、それぞれの施設からの文化財レスキュー活動が救援委員会を中心として本年度順調に進んだものの、まだ資料は残されており、次年度の継続活動が是非とも必要な旨の訴えがあった。

当館藤原学芸課長は当館としての取り組みを具体的に説明するとともに、今後警戒区域の個人所有資料への対応を検討していかねばならないこと、仮収蔵庫はあくまで一時保管施設であるため、最終的行き先が不透明であり、是非活用を前提とした施設の設立が不可欠であるとの課題が示された。

[総合討論] では、次年度文化財レスキュー事業について県を中心に継続・実施していかねばならないことが確認された。

また、警戒区域の文化財を調査・研究・収蔵・公開・活用していく施設設立の重要性が特に議論され、その必要性は(財)博物館協会でも今後強調していくことが提言された。しかし

一方で帰還を進める自治体としては整合性がとれず、さらに相馬・双葉郡が文化財という対象だけでまとめることが可能かという点もネックになるだろうとの意見も聞かれた。

(キ) 成果と課題

聴講者からの感想

- ・体験を実際にされた方々にしか語り得ない内容でした。自館に状況を置き換えて考えるにつけ、何ができ、何をすべきか改めて考えさせられました。ありがとうございました。(愛知県女性)
- ・東文研はじめ国立の研究所・博物館等を財団化する際もたいへん苦々しく思っていました。今回のご報告を伺ってますます憤りを感じます(市町村合併に起因する旧町村部の復興の著しい遅れにも同様に)。お話にありましたように、一般の住宅から持ち出せる文化財に関して、どのように処置すべきか、研究を進め、その成果を一般市民にも知らせていただきたいと思います(各町の広報等を通して)。予算的にも人的にも困難の多いことと思いますが、黙っては国にも他地域にも忘れられてしまいますので、どうか声をあげ続けて下さい。(栃木県37才女性)
- ・福島県内の文化財レスキュー活動の課題について、深く知ることが出来る良いシンポジウムでした。今後、こういった形で警戒区域内における文化財レスキュー活動に関する情報発信が行われるのかという点が重要になってくるのではないかと感じました。(千葉県29才男性)
- ・震災から2年、まだまだこれから考え、行動しなければならぬことがたくさんあることを実感しました。県立博物館が核となって情報発信をしていただければと思います。(東京都37才男性)
- ・震災により想像を絶するご苦労の事にびっくりしました。今後の課題も大きく、たいへんと思いますが、出来る限りの範囲で資料館を建立し、存続に努めて下さい。貴重な学習をさせていただきありがとうございました。(会津坂下町67才女性)



岡田 健氏による講演



総合討論

(5) 復興応援パートナー事業

平成24年度に立ち上げた「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」の3つの目標のうち、下記を実現するものとして「福島県立博物館復興応援パートナー事業」を実施した。

◎ふくしまの再生と活性化

博物館などの文化施設、地域の文化団体や市民グループが連携し、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

3. 被災者支援のための文化的事業の開催

- (1) 被災者を応援し元気づける文化的な事業の開催
- (2) 各種団体が企画する支援文化事業の受け入れおよび支援

この目標に該当し、福島県の文化や歴史、自然の豊かさを伝える事業、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故に向き合い、福島の復興や再生を考え、将来像を共有することを目的とした事業の開催をパートナーとしてサポートすることと定めた。

これにより、文化による復興支援事業の効果的でスムーズな開催運営を促し、県民がそれらを楽しむ機会をより多く創出する。また、県立の文化施設として福島県立博物館が福島県の文化的復興支援における役割・責務を果たすことも目的とする。

平成24年度復興応援パートナー事業

No.	事業名	主催者・代表	期間	会場
1	東日本大震災復興支援プロジェクト「Koi 鯉アートのはり」	福島大学芸術による地域創造研究所 所長 渡邊晃一	平成24年4月21日(土)～5月27日(日)	エントランスホール
2	身近なしぜん発見隊 by ひととはく	兵庫県立人と自然の博物館・福島県立博物館	平成24年4月22日(日)	実習室
3	Riflection～9人の視点～	福島写真プロジェクト 代表 瀬戸正人	平成24年4月28日(土)～5月27日(日)	エントランスホール
4	福島ひまわり里親プロジェクト芽ッセージ展	NPO法人チームふくしま 福島ひまわり里親プロジェクト 理事長 半田真仁	平成24年6月12日(火)～7月11日(水)	エントランスホール
5	キッズキャラバン in 会津美里	福島県立博物館・兵庫県立人と自然の博物館	平成24年7月27日(金)	楢葉町応急仮設住宅内 会津美里町宮里ふれあい館
6	民家の甲子園写真パネル展	一般社団法人福島県古民家再生協会 代表理事 内川紀雄	平成24年8月26日(日)～9月20日(木)	エントランスホール
7	写真展「チェルノブイリ」と「フクシマ」	主催：真宗大谷派会津組 後援：福島県立博物館・チェルノブイリ子ども基金 あいづ	平成24年10月30日(火)～11月4日(日)	エントランスホール
8	講演会「私たちは震災とどう向きあうのか？～東日本大震災復興・復興をとおして～」	茨城県願船寺住職 藤井学昭氏 主催：真宗大谷派会津組 後援：福島県立博物館	平成24年10月30日(火)	講堂
9	あいづしぜんかわらばん	こども☆ひかりプロジェクト・兵庫県立人と自然の博物館・福島県立博物館	平成24年11月10日(土)～12月7日(金)	エントランスホール



福島ひまわり里親プロジェクト芽ッセージ展テープカット



キッズキャラバン in 会津美里1



福島ひまわり里親プロジェクト芽ッセージ展展示状況



キッズキャラバン in 会津美里2

(6) 会津・漆の芸術祭

ア. 会 期 平成24年10月6日(土)～ 11月23日(金・祝)

イ. 主 催 福島県教育庁／福島県立博物館／会津・漆の芸術祭2012プロジェクト委員会

プロジェクト委員会構成団体：福島県立博物館、福島県観光交流局、福島県会津地方振興局、福島県会津教育事務所、福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター、福島県観光物産交流協会、会津若松市、会津若松市教育委員会、喜多方市、喜多方市教育委員会、喜多方市美術館、会津大学、会津大学短期大学部、会津若松商工会議所、会津喜多方商工会議所、会津漆器協同組合、会津喜多方漆器商工協同組合、会津塗伝統工芸士会、会津工芸新生会、東日本旅客鉄道株式会社、財団法人会津若松市観光公社、会津若松観光物産協会、喜多方観光協会、福島県教育庁

ウ. 後 援 文化庁、国土交通省観光庁、福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社福島総局、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、産経新聞福島支局、時事通信社福島支局、共同通信社福島支局、日本放送協会、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、福島コミュニティ放送FMポコ、エフエム会津、喜多方シティエフエム

エ. 展示箇所 会津若松市内(25箇所)／喜多方市内(14箇所)

オ. 参加作家 約82組

【招待】(13組)

会津塗伝統工芸士会＋原忠信 吾子可苗 岩田俊彦 逢坂卓郎 立岩朝子 田中信行 千葉奈穂子 堀浩哉 宮原克人 宮本佳明 吉田重信 吉増剛三 渡邊希

【大学研究室等】(12組)

会津大学大津山研究室「うるらぼ」プロジェクト 会津短大プロジェクト 会津漆器技術後継者訓練校 秋田公立美術工芸短期大学熊谷研究室 秋田公立美術工芸短期大学復興支援プロジェクトチーム 金沢美術工芸大学喜多方三十八間蔵プロジェクトチーム 金沢美術工芸大学大和川酒蔵良志久庵プロジェクトチーム 上越教育大学伊藤研

究室 筑波大学宮原研究室「東北画は可能か？」妖怪チーム 富山大学芸術文化学部うふふ研究室 福島大学渡邊研究室

【公募】(16組)

赤木春菜 泉洋之 ウルシオール 小川恵 小野良昌 檜村歩 城戸みゆき 佐藤香 塩谷良太 篠原誠司 杉原信幸 高澤俊郎 高橋理加 7980++ 常田一彦 港千尋

【会津】(37組)

相田雄一郎 会津工業高校チーム 浅見晃司 荒井勝佑 飯塚佐喜子 五十嵐健太 石原晋 岩渕浩之 梅野史代＋会津学鳳中高美術部 ウルたまProject 大澤周一 大竹信一 大塚隆 大森茂光 加藤悦朗 金澤文利 (株)天元棋院 儀同哲夫 木村義雄 小松茂夫 齊藤姉妹 坂本理恵 佐藤達夫 曾根英昭 谷口吏 角田純一 角田弘司 照井克彦 照井克弘 照井邦彦 沼田英恵 半沢政人 三浦圭一 室井春雄 山内泰次 山口朋子 山中早苗

【2010年作品・2011年作品】(4組)

会津短大プロジェクト2010 井波純＋吾子可苗 土屋多加史 広島市立大学大塚研究室

カ. 展示作品 約82件

キ. イベント 主催23件／協賛23件

ク. ディレクター 赤坂憲雄(福島県立博物館長)

ケ. 選考委員 北川フラム(越後妻有大地の芸術祭総合ディレクター)、樋田豊次郎(秋田公立美術工芸短期大学学長)、山下裕二(明治学院大学教授)、赤坂憲雄(福島県立博物館長)

コ. 来場者数 100,905人

サ. ボランティアスタッフ カキコ隊登録人数19

シ. 内 容

会津の文化資源である漆をテーマに、主催者である福島県立博物館の調査研究成果を活用し、会津の歴史の深さ、文化の豊かさそしてまちの魅力を伝えることを目的にスタートした会津・漆の芸術祭の第3回目。平成22年度から3年間連続開催の3年目にあたる。

サブテーマに「地の記憶 未来へ」を掲げ、会津・福島、そして東北・日本が培った生きる力と可能性を掘り下げる機会に漆

の芸術祭になり、未来への可能性を示すことができれば、との願いを込めた。

この大きなテーマに切り込む素材が「漆」であり、人は自然から多くのものを得て命長らえてきたこと、自然と共に生きていることを「漆」を通して再認識する機会とした。

ス. 成果と課題

1. 東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故発生から2年目となり、会津という福島県内の地域で、「漆」をテーマに掲げる芸術祭だからこそできる震災と原発事故への向き合い方を実現することができた。
2. 作品とイベントを通して、多くの方にメッセージを伝えることができた。
3. 福島県立博物館と協力団体との連携を図りながら事業実施を行うことができた。それにより、福島県立博物館と地域の各団体との協働体制を強固にすることができた。
4. ボランティアの募集と活動を行い共に事業を実施することで、地域の方をはじめ県内外の方が文化事業に関わる土壌を生み出した。
5. 事業規模に比して携われる人員が少なく、準備不足・広報不足の面があった。



エクスカージョン1：漆職人工房見学



エクスカージョン2：漆掻き見学体験



カキコ隊会場整備作業1



カキコ隊会場整備作業2



展示状況 1：末廣 嘉永蔵 会津塗伝統工芸士会十原忠信
くいぞめ椀プロジェクト



展示状況 4：三十八間蔵 金沢美術工芸大学喜多方
三十八間蔵プロジェクトチーム the realm of mind



展示状況 2：中町フジランドホテル 会津工業高校
いのちのとりにたち



主催イベントの様子 1：上越教育大学伊藤研究室の
ワークショップ：仮設住宅集会場



展示状況 3：大和川酒蔵北方風土館 吾子可苗 born一
石榴一



主催イベントの様子 2：トークイベント「原発を鎮める」



協賛イベントの様子：会津漆器協同組合青年部「漆のウォールアート」

(7) はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトー文化芸術活動支援を中心とした福島県立博物館と県内諸団体による連携強化事業ー

ア. 主 催 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

構成団体（福島県立博物館、南相馬市博物館、福島大学芸術による地域創造研究所、南相馬市国際交流協会、南相馬市市民活動サポートセンター、NPOいいたてまでの会、特定非営利活動法人NPO西会津ローカルフレンズ、特定非営利活動法人まちづくり喜多方）

イ. 助 成 文化庁平成24年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）

ウ. 事業内容

福島県内には津波・地震による被害と原発事故による放射線汚染被害、そして原発事故に由来するさまざまな風評被害がある。これを改善するため、福島県立博物館と福島県下の諸団体が連携し、文化活動の支援を行った。福島県立博物館は各主催者と地域の団体・NPOをつなぐべく調査・調整を担当し福島県内で均衡を保ちながら文化的事業の推進を支援した。事業の展開にあたっては、地域への愛着を象徴するような文化財の活用配慮し復興につながる文化的事業を継続的に展開することに留意した。

(ア) 福島写真プロジェクト

①調査撮影

実施日：平成24年7月22日～25日

場 所：南相馬市内

②調査撮影

実施日：平成24年7月26日～7月31日

場 所：南相馬市内

③ポートレート撮影ワークショップ

開催日：平成24年12月9日(日)

会 場：道の駅南相馬観光交流館ホール

参加者数：約90名

④写真展「Reflection 9人の視点」

会 期：平成25年2月17日～3月2日

会 場：南相馬市銘醸館

観覧者数：約600名

出品者：瀬戸正人、小野良昌、小松透、UMA KINOSHITA、越間有紀子、杉野真理、須藤明子

(イ) Distance/Continuity 隔たり/連なりプロジェクト

①展覧会「Distance/Continuity 隔たり/つらなり」

会 期：平成24年5月8日～28日

会 場：南相馬市銘醸館

観覧者数：約260名

出品者：マリ・デュルエ／港千尋

②講演会「隔たり/連なり」

開催日時：平成24年5月20日(日)

会 場：南相馬市銘醸館

参加者数：約15名

講 師：港千尋（写真家・美術評論家）／森幸彦（福島県立博物館専門学芸員）

③フォーラム「隔たり／連なり フクシマ～福島～FUKUSHIMA

開催日時：平成24年11月26日(月)

会 場：福島駅前キッチンガーデンビル2階ゆいの庭

参加者数約：30名

講 師：港千尋、吉増剛造（詩人）／関口涼子（詩人・翻訳家）

(ウ) ふくしまダンスプロジェクト「安達ヶ原」

①プロジェクトミーティング「安達ヶ原・黒塚」

開催日：平成24年7月24日(火)

会 場：福島大学

参加者数：約70名

講 師：平山素子（ダンサー・筑波大学准教授）／館形比呂一（ダンサー）／谷川渥（國學院大学教授）／落合敏行（作曲家）／渡邊晃一（福島大学准

教授・当該プロジェクト実行委員会委員)

- ②プロジェクトミーティング2
開催日：平成24年7月25日(水)
会場：会津風雅堂
参加者：平山素子（ダンサー・筑波大学准教授）／館形比呂一（ダンサー）／谷川渥（國學院大学教授）／落合敏行（作曲家）／渡邊晃一（福島大学准教授・当該プロジェクト実行委員会委員）／山宮勇（会津風雅堂職員）／川延安直・小林めぐみ（福島県立博物館学芸員)
- ③プロジェクトミーティング3
開催日：平成24年8月31日(金)
会場：福島空港・福島空港公園
参加者：大野慶人（ダンサー）／渡邊晃一（福島大学准教授・当該プロジェクト実行委員会委員)
- ④「ダンスパフォーマンス」
開催日：平成24年9月16日(日) vol1:11時30分～、vol2:15時～
会場：福島空港公園
観覧者数：第1部約110名、第2部約140名
出演者：館形比呂一（ダンサー）／大野慶人（ダンサー）／浅井信好（ダンサー）／谷川渥（國學院大学教授）／渡邊晃一（福島大学准教授・当該プロジェクト実行委員会委員)
- ⑤プロジェクトミーティング4
開催日：平成24年9月17日(月)
会場：南相馬市民文化会館ゆめはっと
参加者：館形比呂一（ダンサー）／谷川渥（國學院大学教授）／落合敏行（作曲家）／別府美絵子（ダンサーマネージメント）／渡邊晃一（福島大学准教授・当該プロジェクト実行委員会委員)
- ⑥プロジェクトミーティング5
開催日：平成25年2月7日(木)
会場：福島市アクティブシニアセンターAOZ
参加者：渡邊晃一（福島大学准教授・当該プロジェクト実行委員会委員）／山宮勇（会津風雅堂職員)

(エ) 岡部昌生 フロッタージュプロジェクトin南相馬

- ①調査・作品制作・聞き取り調査
実施日：平成24年8月7日～8月12日、11月26日～12月1日、平成25年2月21日～2月25日、3月20日～23日
場所：南相馬市内
実施者：岡部昌生
- ②アーティストトーク・第1回公開ミーティング
開催日：平成24年8月12日(日)
会場：南相馬市博物館
参加者数：約35名
パネリスト：岡部昌生（アーティスト）／九富美香（前橋市政策部文化国際課芸術文化推進室学芸員）／石丸勝三（造形作家）／川口慎一郎（アーティスト)
- ③第2回公開ミーティング
開催日：平成24年11月30日(金)
会場：南相馬市市民活動サポートセンター
参加者数：10名
講師：岡部昌生
- ④第3回公開ミーティング
開催日：平成25年2月23日(土)・24日(日)
会場：南相馬市民文化会館多目的ホール
参加者数：約20名
講師：岡部昌生
ゲスト：若松丈太郎（詩人）、宮岡秀行（映像作家)
- ⑤第4回公開ミーティング
開催日：平成25年3月21日(木)
会場：南相馬市博物館
参加者数：10名
講師：岡部昌生、港千尋（写真家・美術評論家)
- ⑥成果報告展「おらほの碑 南相馬の記憶と記録」
会期：平成25年3月23日～3月30日
会場：南相馬市博物館エントランスホール
観覧者数：約100名
出品者：岡部昌生

(オ) 精神の<北>へプロジェクト

①事前調査

実施日：平成24年6月30日、7月2日～3日、8月30日～9月1日、11月9日～10日、平成25年1月10日～13日、1月18日～2月11日、2月17日～2月28日

場 所：喜多方市

調査者：丸山芳子（アーティスト）

②成果報告展「アートになる北国 アートになる三十八間蔵」

会 期：平成25年3月3日～3月11日

会 場：三十八間蔵（登録有形文化財）

観覧者数：約350名

③映像上映「母の秘密 私はサミなのね！」＋ディスカッション

日 時：平成25年3月9日

会 場：会場：三十八間蔵（登録有形文化財）

来場者数：15名

講 師：丸山芳子

④映像上映「捨てられた縞 セント・ギルダ島の人々」＋ディスカッション

日 時：平成25年3月10日

会 場：三十八間蔵（登録有形文化財）

来場者数：20名

講 師：丸山芳子

(カ) 北屋形神楽プロジェクト

①調査

実施日：平成24年4月14日～15日、6月15日～18日、8月14日～16日、11月16日～18日、平成25年1月1日～1月4日、3月15日～17日

調査撮影者：開発好明（アーティスト）

②第1回協議会

実施日：平成24年8月15日(水)

参加者数：約20名

進行・記録撮影：開発好明

③神楽稽古

実施日：平成24年11月17日(土)

参加者数：約20名

記録撮影：開発好明

④神楽奉納と公開ミーティング

開催日：平成25年1月3日(木)

会 場：南相馬市鹿島区富士神社・北屋形公民館

参加者数：約40名

講 師：開発好明

(キ) 復興ダルマプロジェクト

①福島県内の主要ダルマ産地調査

実施日：平成24年8月5日、8月16日、11月8日、11月17日、12月11日、12月17日、12月23日、12月30日、平成25年1月3日、1月14～15日、2月14日

場 所：白河佐川だるま製作所・白河だるま総本舗・三春だるま橋本広司工房・三春だるま本家大黒屋・いわきだるま高橋工房・福島矢野目だるま

調査者：山本伸樹

②調査収集報告展「復興ダルマ展」

会 期：平成25年1月12(土)～13日(日)

会 場：いわき市南台仮設住宅（双葉町）

観覧者：約300名

③復興ダルマ絵付けワークショップ

開催日：平成25年1月12(土)～13日(日)

会 場：いわき市南台仮設住宅（双葉町）

参加者：約20名

講 師：山本伸樹

④調査収集報告展「復興ダルマ展」

会 期：平成25年1月20日(日)～2月3日(日)

会 場：太郎焼総本舗

観覧者：約300名

⑤復興ダルマ絵付けワークショップ

開催日：平成25年1月20日(日)、2月3日(日)

会 場：太郎焼総本舗

観覧者：約20名（各回とも）

講 師：山本伸樹

⑥ワークショップ「A O Z アート講座 アートだるまを作ろう」

開催日：平成25年2月7日(木)

会 場：福島市アクティブシニアセンター A O Z

参加者数：10名

講 師：山本伸樹

⑦復興だるま絵付けワークショップ

開催日：平成25年2月11日(月)

会 場：白河市職業訓練センター

参加者数：30名

講 師：山本伸樹

エ. 成果と課題：

(ア) 福島写真プロジェクト

複数の視点から現在の福島の状況を記録することができた。これまでの報道・記録写真とは一線を画し、南相馬地域の文化と被災からの復興を捉えた作品約130点を地域で公開でき、600名以上の入場者があったことが最大の成果であった。これまで知られていた約10件の有形・無形文化財も写真家の眼を通してその魅力が再発見された。国指定重要無形文化財「相馬野馬追」の復興を担う人々を撮影した作品は海外でも紹介され、福島県の被災と復興の現状を伝える一助となった。40組90名以上が参加したワークショップ開催を通しては地元写真クラブ会員らとの交流も生まれた。

(イ) Distance/Continuity 隔たり/連なりプロジェクト

「Distance/Continuity 隔たり/連なり」プロジェクト展覧会には約260名が入場。講演会には約15名が参加。フォーラムには30名以上の入場があった。南相馬市銘醸館は市民向けにギャラリーとしても開放されているが、市外のアーティストの作品展示会場としても魅力的な空間であることが示された。港氏の作品は東日本大震災直後から福島県内の飯舘村や南相馬市に取材したものであり、マリ氏の作品は震災を挟んで2年にわたって描き続けられたものである。このように震災後多くの作品が震災をテーマに制作されたことと思われるが、被災地でそうした作品を鑑賞できる機会は実は多くない。失われた文化財や風景を再認識することは辛い体験である場合もあるが、文化芸術は感情を刺激するだけではなく震災の現実を記録することができることを地域の方に理解していただく機会となった。企画の実施にあたって南相馬市観光公社、南相馬市市民活動サポートセンター、南相馬市市民活動サポートセンター、南相馬市市民活動サポートセンター、南相馬市市民活動サポートセンター、南相馬市市民活動サポートセンター等の機関、団体と協働した。被災地見学ツアーの試みが始まる中で、南相馬市中心部の銘醸館が震災から生まれたアートを体感できる場所として認知されるきっかけとなった。

(ウ) 福島ダンスプロジェクト「安達ヶ原」

ミーティングには約70名が参加、ダンスパフォーマンスには第1部に約110名、第2部に約140名の観覧者があった。福島県発の創造的文化発信プロジェクトの第一歩となった。また、近年利用者数が減少し、東電原発事故後は国際線が撤退してしまった福島空港の利活用に貢献した。全国的に第一線で活躍するダンサー等5名が福島の現状と歴史を知り、県内でダンスパフォーマンスを実現したことは初の試みであった。その際に大学・博物館・文化会館等4施設の連携が立ち上がったことも重要で、本プロジェクトがこの連携を生んだ。その後、文化芸術による復興推進コンソーシアムからの提言も受け福島県内外の文化会館・劇場スタッフとの連携も始まっている。

(エ) 岡部昌生 フロッタージュプロジェクト in南相馬

南相馬市の歴史・文化財をアートの視点で記録する作業を南相馬市博物館中心に進めることを方針とした。南相馬市には多くの石碑が存在することに注目、地形と開発がいくつかの記念碑でたどれるという仮説を提案し、岡部氏がフロッタージュ35ヶ所の作品を制作した。これまで顧みられることのなかった石碑を南相馬の歴史をたどる指標として活用できる可能性が示された。市民参加のミーティングには主に市民団体（南相馬国際交流協会・南相馬市民活動サポートセンター・つながろう南相馬）関係者の積極的な参加があり、今後の広がりが期待される。公開で行った第1回ミーティングには約35名、第3回には約20名が参加した。何度か行なった被災地を含む市内視察は被災地を知るエクスカージョンコースのモデルともなり得る。成果報告展は1週間で約100名が観覧した。南相馬市博物館と地域の市民団体、福島県立博物館の三者の連携が本プロジェクトによって密接なものとなったことも付記したい。

(オ) 精神の<北>へプロジェクト

夏からの現地調査に加え、1月～3月まで自主的にレジデンスを実施（レジデ

ンス場所：喜多方市グリーンツーリズムサポートセンター・農泊若草物語・農泊花菜・農泊田園ランプ)。約二ヶ月半喜多方市に滞在。冬の喜多方地方の風土や文化への時間をかけた調査が行われた。それらの還元として企画した作品展示は登録有形文化財の三十八間蔵を会場とすることで、北国の生活文化がストレートに伝わる内容となった。数ヶ月という時間と場所をアーティストと地域住民が共有することで、互いの思考・ライフスタイルの再考を促した。展覧会「アートになる北国 アートになる三十八間蔵」は、地域の10名以上のボランティア（NPO まちづくり喜多方・会津漆の芸術祭ボランティア・喜多方グリーンツーリズム協議会・その他個人）によるサポートを受けて開催され、喜多方の地にアーティストが根付くきっかけにもなった。今後はさらなる地域との協働が期待できる素地を生み出した。また、ヨーロッパにおける「北」のイメージと日本における「北」のイメージの比較という作家の発案による視点は、地域の人々があらためて福島のおかれた歴史的背景や文化を認識する機会となった。また、滞在中に借上住宅に避難中の被災者の方々との深い交流があったことも付記しておく。

(カ) 北屋形神楽プロジェクト

協議会には約10名が、1月3日の祭礼には約40名が参集。残念ながら祭礼の一時中断を止めることはできなかったが、記録映像の制作と保存会との交流を持てたことは今後の復活・再生に期待をつなぐ材料となる。全国的に知られ観光化した祭礼、文化財に指定された祭礼のかげで数多くの祭礼が衰亡の瀬戸際にあることを今回あらためて認識させられたが、継続への問題点が明らかになったと同時にアーティストら外部の眼が関係者の意識を高める一助になったことは幸いであった。

(キ) 復興ダルマプロジェクト

福島県内で現在も生産されている伝統的なダルマを一堂に展示することで、各地のダルマの特色を観覧者が容易に理解できた。高崎系ダルマが多くを占める現

在も地方色豊かなダルマが健在であることを知り福島県の地域文化の多様さを知る機会となった。ダルマ絵付けワークショップでは、伝統ダルマを参考にしながらも自由な絵付けを楽しむ事で多彩なアートダルマが制作され、その蓄積を活かしてアーティストが創作ダルマの原型を作り上げた。双葉町で親しまれているだるま市での認知も高まっており、今後の継続に手応えを得た。双葉だるま市の「復興だるま展」には約300名が訪れ、うち20名がワークショップに参加。会津若松の展示にも約300名が訪れた。その他ワークショップには約70名が参加した。



福島写真プロジェクト：ポートレート撮影ワークショップ



Distance/Continuity 隔たり/連なりプロジェクト：フォーラム「隔たり/連なり フクシマ～福島～FUKUSHIMA



ふくしまダンスプロジェクト「安達ヶ原」：史蹟リサーチ



岡部昌生 フロッタージュプロジェクトin南相馬：第1回公開ミーティング



精神の<北>へプロジェクト：北国の手仕事リサーチ



北屋形神楽プロジェクト：神楽稽古



復興ダルマプロジェクト：仮設住宅での絵付けワークショップ

8. 連携事業

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 磐梯山ジオパーク推進事業

ア. 事業の趣旨

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、2004年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立。2013年9月現在、ヨーロッパと中国を中心に29ヶ国100地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標にしている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では2013年9月現在、32地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち6地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。当館も協議会に加入し、この運動に積極的に取り組んでいる。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。

イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、及び民間団体として文化施設およびツーリズム協会が加わっている。事務局は3町村の観光関係の課が中心となり、北塩原村生活改善センターに置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区 分	機関・団体名
学 識 経 験 者	福島県立博物館
	福島県野生動植物保護アドバイザー
	猪苗代町体験交流協会
行 政 団 体	会津森林管理署
	福島県企画調整部企画調整課
	福島県会津地方振興局
	猪苗代町
	磐梯町
	北塩原村
商 工 団 体	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
	北塩原村商工会
観 光 協 会	社団法人猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
	裏磐梯観光協会
民 間 団 体	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
オ ブ ザ ー バ	裏磐梯自然保護官事務所
	福島県喜多方建設事務所
	猪苗代町商工観光課
事 務 局	磐梯町産業課
	北塩原村観光政策課

ウ. 活 動

平成24年度、磐梯山ジオパーク協議会は次の事業を実施あるいは参加した。

(ア) ジオパーク大会参加

- (1) 日本ジオパークネットワーク総会（南島原市）5月11日
- (2) 第5回ジオパーク国際ユネスコ会議（島原市）5月12日～15日
- (3) 日本地球惑星科学連合2011年度大会 ジオパーク関係セッション（千葉市）5月20日～21日
- (4) 第1回東北ジオパークフォーラム（男鹿市）9月27日～28日
- (5) 第3回日本ジオパーク全国大会（室戸市）11月2日～5日
- (6) 第2回日本ジオパークネットワーク全国研修会 in 磐梯山 2月13日～16日

(イ) 普及活動

①フォーラム・シンポジウム

- (1) 第3回磐梯山ジオパークフォーラムin磐梯町 9月1日

②ジオツアー

- (1) 地質の日ジオツアー「裏磐梯エリアと会津若松市内と鶴ヶ城」5月10日
- (2) 五色沼ガイド 5月20日、6月20日、9月2日、10月13日
- (3) 日本山岳会科学委員会 磐梯山ジオパーク探索山行 6月23日～24日
- (4) 磐梯町エリアJRの小さな旅 7月8日
- (5) 北塩原村と猪苗代町のジオツアー 11月19日

③出前講座

- (1) 「磐梯山ジオパーク出前講座」猪苗代町立吾妻中学校 5月11日、5月18日、5月31日、6月28日
- (2) 猪苗代町立翁島小学校 5月30日
- (3) 猪苗代町立猪苗代中学校 6月1日
- (4) 福島県立猪苗代高校国際観光課 6月20日、11月13日、11月20日
- (5) 猪苗代町立緑小学校 6月25日
- (6) 猪苗代町立吾妻小学校 6月26日、9月21日
- (7) きたしおばら芸能交流会 6月29日
- (8) 猪苗代町立翁島小学校PTA 7月15日
- (9) 猪苗代町ホテルみなと屋 8月10日、10月12日
- (10) 猪苗代町立東中学校 10月9日
- (11) 北塩原村立第一中学校 10月11日
- (12) 猪苗代町長坂地区 12月9日
- (13) 山草会 1月16日
- (14) 北塩原村大塩地区 1月21日
- (15) 猪苗代町立長瀬小学校 2月19日
- (16) 磐梯青少年交流の家 2月23日
- (17) 磐梯町立第一小学校 3月1日
- (18) 磐梯町立第二小学校 3月5日

④講師派遣

- (1) 国家公務員初任者研修 6月6日
- (2) 全会津芸術文化振興大会 10月3日

- (3) 磐梯青少年交流の家主催「体験の風をおこそう」10月21日

- (4) 会津磐梯青年の会 10月23日

- (5) 磐梯朝日国立公園パークボランティア合同研修会 11月11日

- (6) 猪苗代町国際交流協会 11月23日

- (7) 名峰景観ツーリズムシンポジウム磐梯 11月23日

⑤イベント参画

- (1) 科学コラボ・ミュージアムin磐梯 9月8日～9日

- (2) ジオキャンプ 国立磐梯青少年交流の家 8月14日～18日

- (3) 国際研修交流会in裏磐梯ロイヤルホテル 9月22日

- (4) 北塩原村交流フェスタ 9月23日

- (5) 裏磐梯エコツアーフェスタ 10月14日

⑥ジオサイト解説看板設置

- 猪苗代町2ヶ所、磐梯町1ヶ所、北塩原村2ヶ所

⑦ジオパークガイドブック

- 詳細版「磐梯火山南西麓エリア」「天鏡台エリア」制作

(ウ) ガイド養成

①ガイド研修

- (1) 第1回 北塩原村エリア 11月7日

- (2) 第2回 磐梯町エリア 11月14日

- (3) 第3回 猪苗代町エリア 11月21日

②ガイド養成事業

- (1) 茨城県北ジオパークにてガイド交流 7月6日

- (2) 英語でつながろう！ジオパーク講座 2月20日、2月27日

- (3) ジオガイド認定証交付式・特別講演 3月16日

(エ) 新土産・新メニュー開発

①ジオグルメ開発

- (1) 現地調査 8月10日～12日

- (2) ジオグルメ試食会 2月26日



北塩原村でのガイド研修（座学）



猪苗代町でのガイド研修（野外）

（２） ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、2008年に福島大学共生システム理工学類が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム (spff) では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、2011.3.11の震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに2010年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧 (平成25年5月現在)

所 属 機 関
福島大学
福島県（商工労働部）
ふくしま森の科学体験センター（ムシテックワールド）
郡山市ふれあい科学館 スペースパーク
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島県環境センター
福島県林業研究センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ
(株)福島製作所
日東紡績(株) 福島工場
日東紡績(株) 富久山事業センター
NECネットワークプロダクツ株式会社
福島県商工会連合会
福島県鉄工機械工業共同組合
(有)西坂製作所
福島県立博物館
いわき明星大学 エネルギー教育研究会
福島県商工会議所連合会
(株)坂本乙造商店
福島県立図書館
科学館支援チーム
福島県男女共生センター
(有)アビスタ
福島県立テクノアカデミー郡山
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
相馬市教育委員会
一般社団法人産業サポート白河

平成24年度にspffが中心となり実施した活動は表のとおりである。このうち、「Summer Challenge 読書&サイエンス 2012」、「ちりめんモンスターをさがせ!」および「spffサイエンス屋台村in 南相馬」には福島県立博物館が参加した。このほか、spffを窓口とした県外からの支援活動やspffによる県外への支援活動等を計15回実施した。これらの事業は、福島県緊急雇用創出基金事業および福島県学術研究振興財団研究助成事業からの支援を受け実施した。

平成24年度ふくしまサイエンスぷらっとフォーム実施主要事業

No.	名称	期 日	会 場	参加者数
1	サイエンスフェスティバル 2012	4月28日～5月6日、7月21日～22日、8月11日～16日	郡山市ふれあい科学館	9819
2	ご当地サイエンス	7月23日、8月26日、12月26日	福島市子どもの夢を育む施設こむこむ	273
3	アグリ科学教室	7月26日、8月2日、8月9日、8月22日	福島県農業総合センター	84
4	福島大学わくわくJrカレッジ「サイエンス屋台村」	8月4日	福島市子どもの夢を育む施設こむこむ	1000
5	Summer Challenge 読書&サイエンス 2012	8月7日	福島県立博物館	250
6	体験教室「様々な形の火山をつくろう」	9月9日	猪苗代町体験交流館 学びいな	20
7	集まれっ！ハイテクプラザ 2012	10月14日	福島県ハイテクプラザ	439
8	農業総合センター祭り	10月20日～21日	福島県農業総合センター	2000
9	おもしろ科学びっくり箱	10月20日	郡山市ふれあい科学館	19
10	ムシテックワールド誕生祭	10月27日～28日	ムシテックワールド	2213
11	チリメンモンスターをさがせ！	11月3日	福島県立博物館	107
12	しらかわサイエンス屋台村	11月3日	白河市立図書館	106
13	spff サイエンス屋台村 in 南相馬	12月1日	南相馬市博物館	150
14	ふくしま産業交流フェア 2013	2月15日～16日	コラッセふくしま	30



サイエンス屋台村 in 南相馬「化石のクリーニング」



サイエンス屋台村 in 南相馬「風車づくり」

(3) 福島藝術計画 × Art Support Tohoku - Tokyo

ア. 主 催 福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）、NPO西会津ローカルフレンズ

イ. 協 力 NPOまちづくり喜多方、NPO喜多方グリーンツーリズム・サポートセンター、西会津振興公社、西会津元気グリーンツーリズム協議会、NPOわくわく奥会津.com、南相馬市市民活動サポートセンター、南相馬市国際交流協会、いいたてまでの会、大原美術館、喜多方蔵の会、NPOWunder ground、いわき市立草野心平記念文学館

ウ. 事業内容

福島藝術計画 × Art Support Tohoku - Tokyo（東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業）は、福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施する事業。文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から福島県の復旧・復興を支援した。

福島県立博物館は、運営協議会に参加し、事業の企画運営に協力した。

エ. 実施プログラム

- ①キックオフフォーラム「福島をつなぐ、つたえる」
- ②マッチフラッグプロジェクト
- ③週末アートスクール
- ④柿の木プロジェクト

⑤までいの心による地域づくりプロジェクト

⑥マイタウンマーケットキャラバン

⑦プロジェクトFUKUSHIMA

⑧南相馬アートのあそびばプロジェクト

⑨フォーラム「福島をつなぐ・つたえる
二年目の春に考えるアートと福島」



柿の木プロジェクト



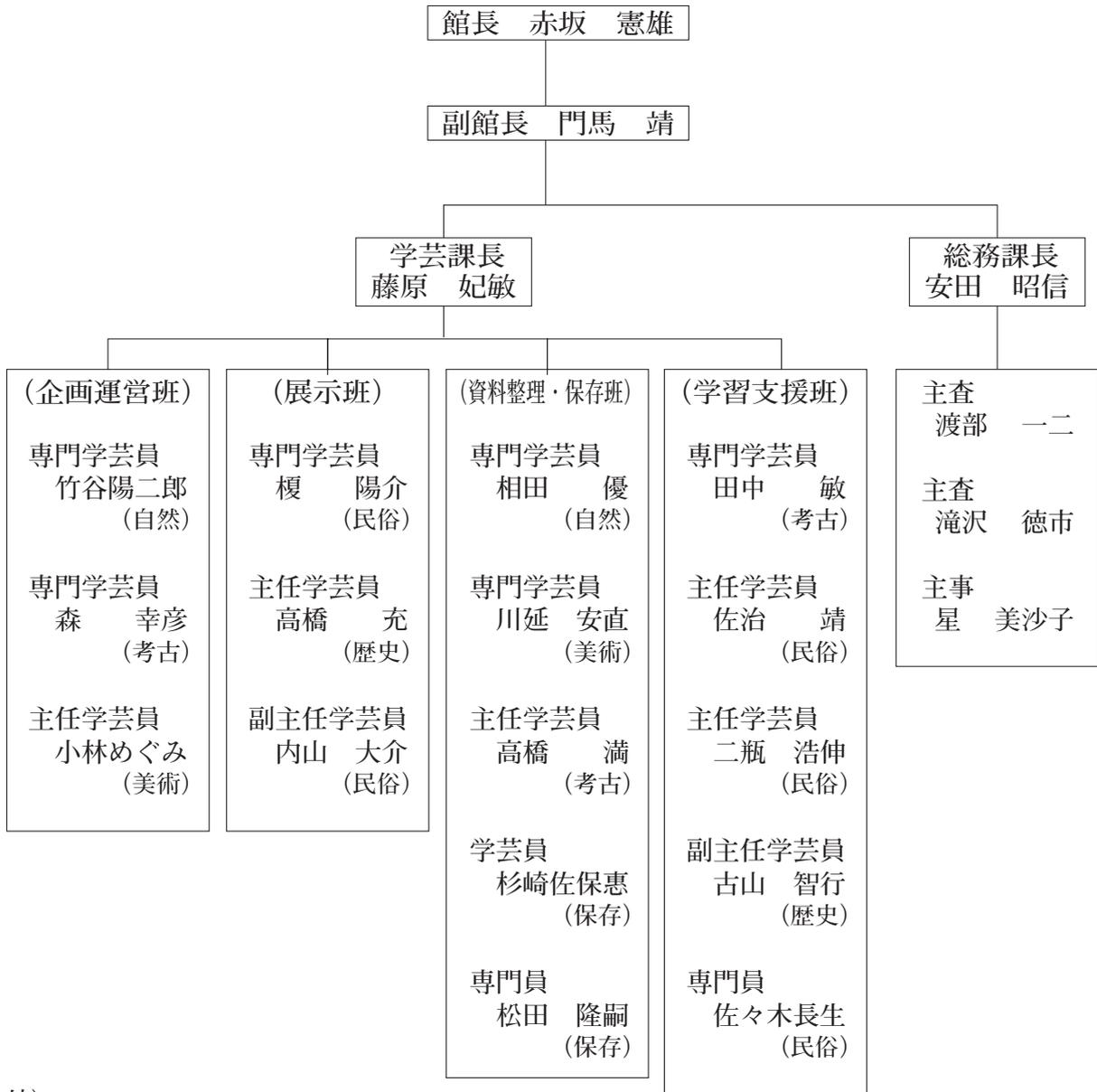
週末アートスクール

III 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(平成24年4月1日現在)



(定数外)

- ・ 展示解説員 (嘱託) 13名
- ・ 資料整理員 (嘱託) 2名

嘱託員等名簿

職名	氏名	職名	氏名
展示解説員	五十嵐 早苗	展示解説員	五十嵐 汐里
	伊 関 めぐみ		長谷川 亜樹
	佐 藤 彩美		加 藤 倫子
	篠 原 詩子		前 田 知香
	増 井 文夏		佐々木 杏純
	一 条 稚子	資料整理員	竹 内 咲
	後 藤 詩織	山 中 綾子	
工 藤 日花里			

2. 予 算

平成24年度は、下表のとおり予算を執行した。

平成24年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				14,366
	使 用 料			14,366
		行政財産使用料		426
			建 物 使 用 料	426
		教育使用料		13,940
			博 物 館 使 用 料	13,940
財 産 収 入				3,131
	財 産 売 払 収 入			3,131
		物品売払収入		3,131
			そ の 他 物 品 売 払 代 金	3,131
諸 収 入				466
	雑 入			466
		雑 入		466
			雑 入	466
	合 計			17,963

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
労 働 費				3,649
	雇 用 対 策 費			3,649
		緊急雇用対策費		3,649
			共 済 費	474
			賃 金	2,860
			需 用 費	315
教 育 費				170,375
	教 育 総 務 費			3,107
		事 務 局 費		3,093
			報 酬	2,400
			職 員 手 当	680
			共 済 費	13
		財 務 管 理 費		14
			交 際 費	14
	社 会 教 育 費			167,268
		社会教育総務費		24,088
			報 償 費	8,727
			旅 費	1,494
			需 用 費	5,649
			需 用 費 (食糧費)	10
			役 務 費	3,434
			委 託 料	3,694
			使用料及び賃借料	634
			備 品 購 入 費	446
		博 物 館 費		143,180
			報 酬	25,649
			共 済 費	3,819
			報 償 費	726
			旅 費	2,273
			需 用 費	46,393
			需 用 費 (食糧費)	10
			役 務 費	5,317
			委 託 料	57,437

科 目 (款・項・目・節)			金 額
		使用料及び賃借料	808
		備 品 購 入 費	638
		負担金、補助及び交付金	61
		公 課 費	49
合 計			174,024

3. 委員会の開催

(1) 運営協議会

ア. 運営協議会委員

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関であり、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから10名に委嘱している。また、平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

イ. 会 議

第1回 平成24年6月22日(金)

議題

- ①平成24年度事業計画等について
- ②中間目標の達成状況について
- ③入館状況について
- ④震災後の博物館の取り組みについて

第2回 平成25年2月15日(金)

議題

- ①平成24年度事業の実施状況について
- ②平成25年度事業計画について
- ③福島県立博物館の使命について
- ④文化財レスキューについて

運営協議会委員名簿

区 分	氏 名	役 職 名
学 校 教 育	丹 美 枝	いわき市立泉北小学校長
	滝 沢 玲 子	会津坂下町立坂下小学校長
	荒 井 光 廣	県立葵高等学校長
社 会 教 育	会 長 孝 志	前(財)福島県文化振興事業 団理事長
	五十嵐 純 子	会津若松市南公民館長
学 識 経 験 者	副会長 井 上 禮 子	会津若松市教育委員会 委員長
	佐藤 彌右衛門	合資会社大和川酒造店 代表社員
	長 尾 修	公立大学法人会津大学短期 大学部社会福祉学科 非常勤講師
	千 葉 喜久子	公募委員
	半 田 真 仁	公募委員

IV 利用状況

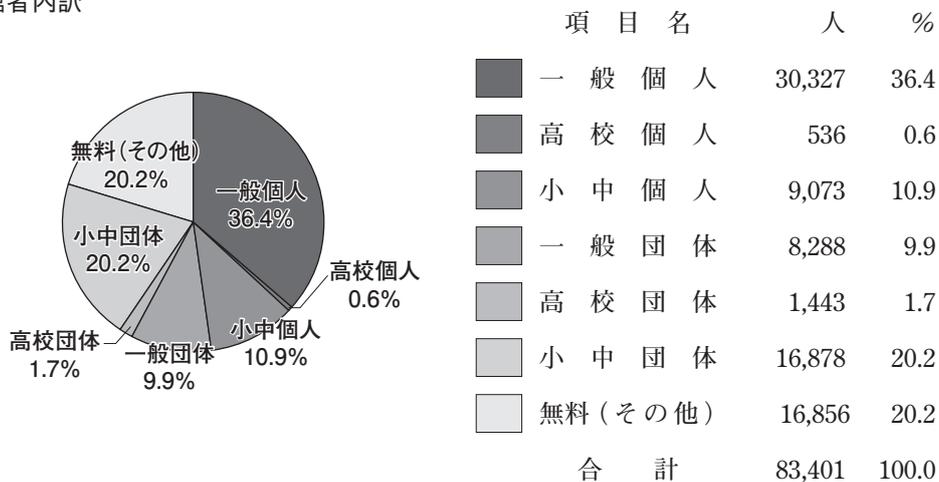
1. 入館者統計

(1) 平成24年度入館者統計

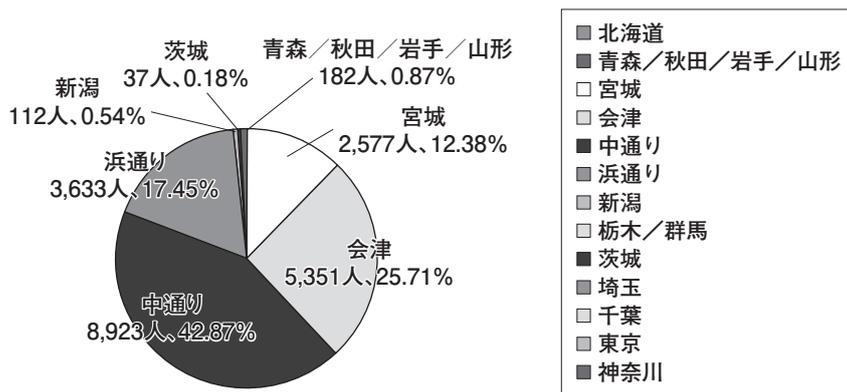
月別区分別入館者数

月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料	無料		日数	有料	無料	日数	人数	
		人数	小中高生 人数	その他 人数		人数	人数			
4	26	1,499	3,296	817	26	2,816	512	26	8,940	10.7%
5	27	1,798	3,214	1,952	12	2,023	363	27	9,350	11.2%
6	25	1,282	4,529	1,101				25	6,912	8.3%
7	27	1,456	1,603	1,001	12	2,678	794	27	7,532	9.0%
8	28	2,459	1,269	1,513	28	6,116	1,407	28	12,764	15.3%
9	26	1,549	5,157	1,173	14	2,374	447	26	10,700	12.8%
10	26	1,848	1,957	1,469	22	4,982	429	26	10,685	12.8%
11	26	1,399	788	2,034	22	1,774	443	26	6,438	7.7%
12	22	517	194	1,605				22	2,316	2.8%
1	23	747	423	381				23	1,551	1.9%
2	24	946	362	1,865				24	3,173	3.8%
3	26	1,633	292	1,115				26	3,040	3.6%
合計	306	17,133	23,084	16,026	136	22,763	4,395	306	83,401	100.0%

平成24年度入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

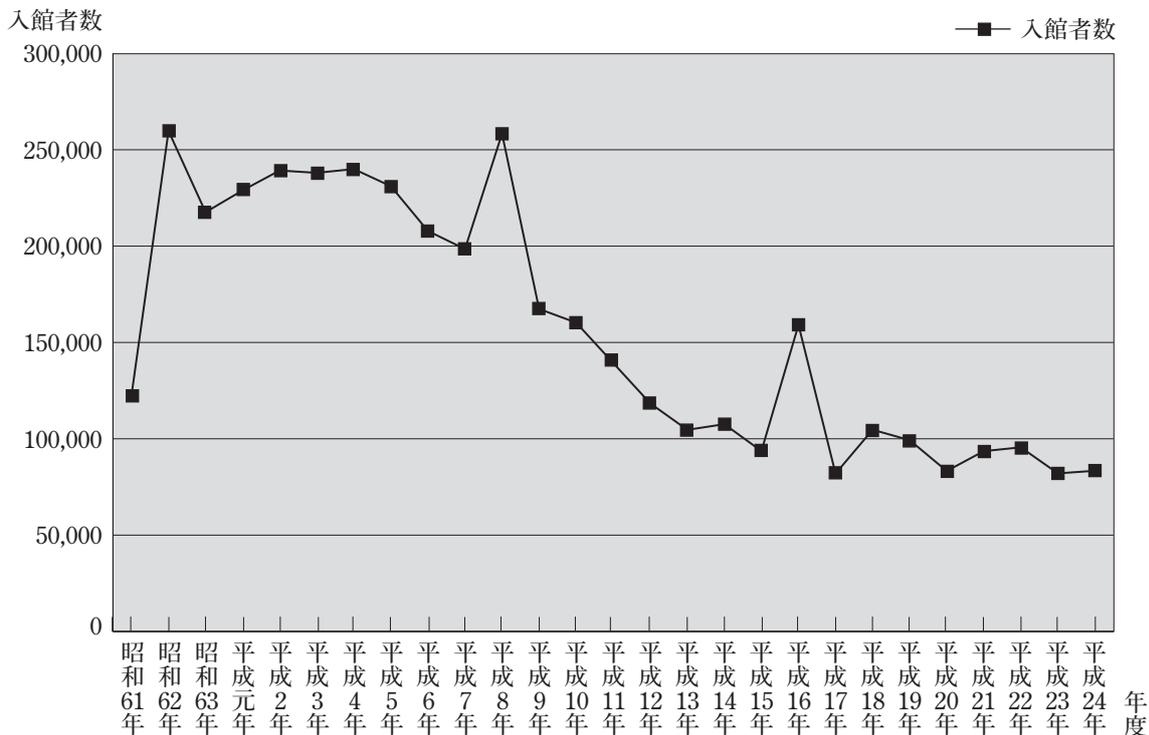
(単位：人)

入館者の推移 (年度別・月別)

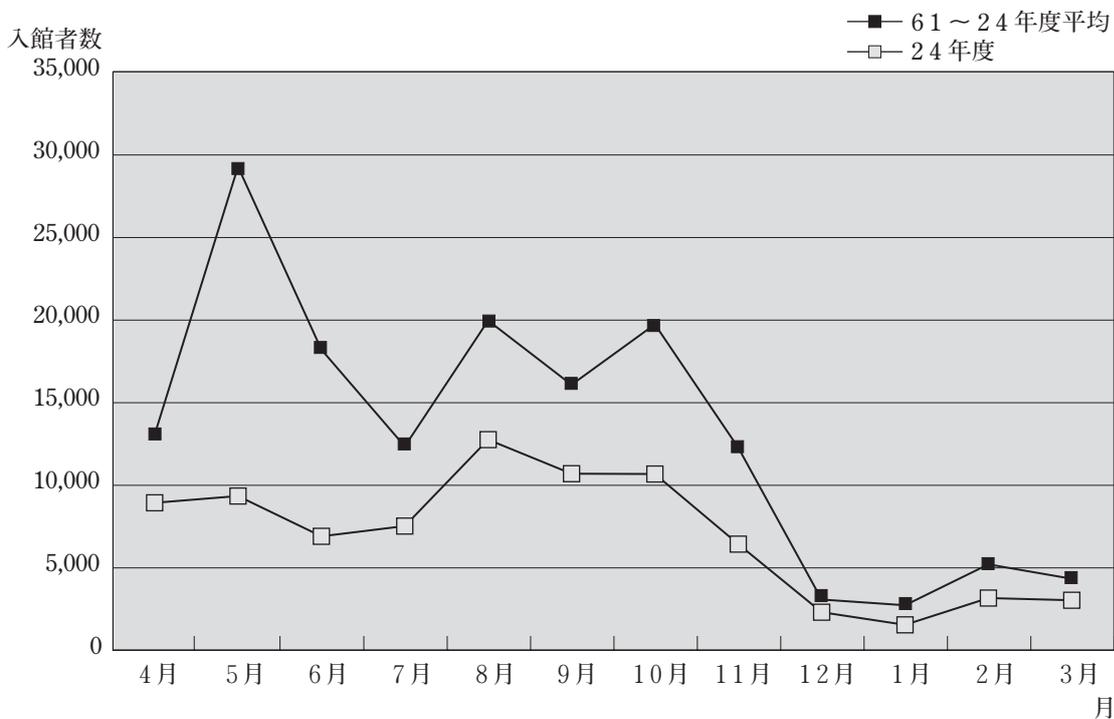
区分	61年	62年	63年	元	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
4月	25,919	20,561	25,699	22,750	22,851	16,637	17,975	15,320	16,571	12,433	13,521	14,922	13,456	
5月	48,367	35,853	52,872	50,265	52,723	56,983	50,452	38,693	42,832	40,138	39,844	34,430	30,999	
6月	17,831	14,823	20,356	19,043	23,592	23,841	29,319	20,737	28,622	18,185	22,279	24,933	23,659	
7月	23,356	22,651	18,456	24,050	20,340	22,800	21,138	12,328	15,340	9,725	8,036	9,541	9,051	
8月	40,749	32,396	31,127	34,218	33,257	37,431	28,490	25,837	23,785	21,495	15,803	16,208	13,607	
9月	24,259	20,198	18,248	17,008	21,882	20,334	18,285	16,551	16,428	15,879	13,082	13,794	12,175	
10月	31,758	27,099	26,832	34,201	21,851	18,565	20,022	28,034	20,252	64,772	26,015	18,431	15,696	
11月	49,868	27,082	16,058	18,482	15,682	17,592	15,629	19,857	15,096	50,811	10,290	9,061	7,937	
12月	8,860	5,548	3,369	2,303	3,618	4,028	6,989	7,839	2,048	9,473	2,125	2,395	1,582	
1月	6,531	4,010	4,048	3,813	8,675	5,073	4,993	4,732	2,701	3,141	2,111	3,218	2,714	
2月	13,614	7,653	6,350	6,986	5,982	7,006	9,096	9,137	7,631	6,700	7,578	9,770	4,795	
3月	11,850	7,878	4,405	4,873	7,115	6,530	7,606	8,640	8,742	7,160	5,616	6,686	3,575	
合計	122,481	259,751	217,590	228,924	239,230	238,007	239,986	231,069	207,867	198,466	258,368	167,370	160,278	139,347
日数	133	297	296	299	299	298	297	293	296	298	294	295	295	294
日平均	921	875	735	766	800	799	808	789	702	666	879	567	474	393
月平均	20,414	21,646	18,133	19,077	19,936	19,834	19,999	19,256	17,322	16,539	21,531	13,948	13,357	11,612
累計	122,481	382,232	599,822	828,746	1,067,976	1,305,983	1,545,969	1,777,038	1,984,905	2,183,371	2,441,739	2,609,109	2,769,387	2,908,734
区分	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	平均
4月	10,539	8,473	8,028	4,899	8,770	8,440	7,019	7,419	6,521	7,977	11,669	2,292	8,940	13,062
5月	21,341	20,267	19,242	13,884	19,287	14,548	11,381	12,271	10,730	13,060	15,085	6,582	9,350	29,288
6月	18,775	16,475	17,211	12,884	16,768	12,008	14,151	25,016	13,011	11,912	16,283	4,990	6,912	18,216
7月	7,127	5,682	4,706	8,732	20,318	7,507	5,246	6,808	7,401	7,356	10,472	5,557	7,532	12,356
8月	13,184	8,451	14,702	10,630	34,732	7,157	10,548	7,148	8,582	14,280	11,658	11,047	12,764	19,973
9月	12,794	13,423	19,901	12,525	35,813	8,787	13,405	10,084	10,326	16,864	9,513	15,972	10,702	16,086
10月	15,609	12,192	10,688	13,000	11,227	11,972	25,464	12,495	11,388	9,211	8,522	9,465	10,683	19,744
11月	8,120	5,825	5,265	7,693	5,440	4,374	9,029	8,261	6,798	6,761	6,280	6,399	6,438	12,278
12月	1,801	5,797	1,078	1,665	2,192	926	1,989	1,938	1,558	1,383	1,637	3,159	2,316	3,084
1月	829	1,412	1,196	1,235	855	1,159	1,468	1,627	1,037	1,127	1,947	4,280	1,551	2,737
2月	5,353	3,836	3,183	3,733	2,019	2,815	2,928	2,943	2,193	1,815	1,796	7,087	3,173	5,213
3月	2,897	2,818	2,386	2,734	1,690	2,262	2,058	3,290	3,730	1,850	694	5,218	3,040	4,340
合計	118,369	104,651	107,586	93,614	159,111	81,955	104,686	99,300	83,275	93,596	95,556	82,048	83,401	156,375
日数	301	303	306	302	302	305	310	306	306	306	293	305	306	
日平均	393	345	352	310	527	269	338	325	272	306	326	269	273	
月平均	9,864	8,721	8,966	7,801	13,259	6,830	8,724	8,275	6,940	7,800	7,963	6,837	6,950	
累計	3,027,103	3,131,754	3,239,340	3,332,954	3,492,065	3,574,020	3,678,706	3,778,006	3,861,281	3,954,877	4,050,433	4,132,481	4,215,882	

入館者数の推移グラフ（年度別月別）

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	垂欧堂田善とその系譜	2. 4.21～2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鉱山のあゆみ	4. 1.18～4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘 ふくしま	5. 1.16～5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検 貝化石ワールド	7. 4.22～7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木の匠	8. 1.20～8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
8	福島 の 山 岳 信 仰	8. 4.20～8. 6. 9	44日	8,931人	976人	12,432人	22,339人
	地 震・火 山・津 波	8. 7.20～7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀 吉 と 桃 山 文 化	8.10. 5～8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近 代 子 だ も の 世 界	9. 1.18～9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄 文 た ん け ん	9. 4.19～9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日 本 の 魚 学・水 産 学 事 始 め	9. 7.19～9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染 め る	9.10.10～9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠 澤 と 探 幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦 国 の 城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発 掘 ふ く し ま 2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天 の 絹 絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日 本 の 美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷 河 時 代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新 弥 生 紀 行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生 の 中 の 死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊 かな る 世 界 へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集 古 十 種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海 獣 パレオ パラド キ シ ア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英 雄 た ち の 系 譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安 積 良 斎 と 門 人 た ち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食 と 考 古 学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武 者 た ち が 通 る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化 石 芸 術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪 村 展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発 掘 ふ く し ま 3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《 笑 い 》 の 想 像 力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊 辰 戦 争 と い ま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	ア ー ト オ ブ ス タ ー ・ ウ ォ ー ズ 展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふ く し ま の 工 芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老 い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚 礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬 と 人 と の 年 代 記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布 の 声 を き く	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
19	樹と竹	19. 7.21~19. 9.17	52日	1,987人	44人	429人	619人	3,079人
	わくわく！化石大集合	19.10. 6~19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19~20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香山	20.10.11~20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10~21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17~22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26~22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9~22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8~23.11.27	43	4,908	28	188	5,124	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18~24. 3.31	36	2,523	21	271	2,815	2,815
	計		79	7,431	49	459	7,939	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1~24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14~24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6~24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

平成24年度出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
常設展示図録	1,100	8	6	2	6	16	7	8	7	2	1	1	1	65	71,500
武家の文化	600	1	1		1	1		1	2					7	4,200
ふくしまの顔	500		2					1						3	1,500
陸奥の古瓦	400		3		2	2		1	3				1	12	4,800
江戸時代の流通路	500	1	5	3	4		1	6	17	2		4	3	46	23,000
鉱物の世界	400	2	3	1		2		1	5		1			15	6,000
縄文の四季	500	3	1	1	1	1		2	1	2				12	6,000
まちの成立とにぎわい	500	1	1			1			1					4	2,000
亜欧堂田善とその系譜	1,000		1					3		1	1			6	6,000
太古の生きものたち	500			2	7	11	7							27	13,500
日本の音色	800		2					1	1					4	3,200
シルクロード紀行	1,000								1	1				0	0
縄文絵巻	800	2			2	2		1	2	2	1			12	9,600
浜通りの仏像	500		1					4	6	1				12	6,000
ふくしま鉱山のあゆみ	800	1	1	1	3	2	1	2	1			1	1	14	11,200
マンガ文化の源流	1,000					1		2				1	1	5	5,000
恐竜のあるいた道	500				1	9	1					1		12	6,000
定信と文晁	1,000		2		1		1	5	2		2		2	15	15,000
明治はじめて物語	500							2	3	2	1	1		9	4,500
稲とくらし	800	1	5			2							1	9	7,200
東北からの弥生文化	800	2	2	1		1			3	1	1			11	8,800
会津の自然史	800					3	1		3	1		2		10	8,000
玉堂と春琴・秋琴	1,100	1						1	2			1	1	6	6,600
げんき・病・元気	800	5			1			1	1	1		1	2	12	9,600
村芝居の世界	900					1	1	1		1			1	5	4,500
探検員化石ワールド	800				4	4	2						1	11	8,800
海のまくあけ	800				1		1	1						3	2,400
福島1000年時のかたち	900					1		1	1					3	2,700

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
いにしえの木の匠	600			1		1		1	1			1		5	3,000
福島山岳信仰	800	1	4	1	1	4	1	2	1		1			16	12,800
地震・火山・津波	500	1	1	1	1	3	2		1	1		2		13	6,500
近代子どもの世界	900									1		1	1	3	2,700
縄文たんけん	900	4	2			2		1	1			1	1	12	10,800
日本の魚学・水産学事始め	500					3								3	1,500
染める	600	3	1						1		2	2	2	11	6,600
遠澤と探幽	1,300				2			2					1	5	6,500
戦国の城	800	2	5			1	6							14	11,200
天の絹糸	1,300	3	2		1	1		4	1			1	2	15	19,500
日本の美	800													0	0
氷河時代	700				2	3		1				1		7	4,900
新弥生紀行	1,100		1			1							1	3	3,300
生の中の死	900		1	2		1		3	4	3	1	1	6	22	19,800
豊かなる世界へ	600	2	1		1	1		1		2		1	2	11	6,600
集古十種	1,100	2	2	1	1	3		7	2		2	1	4	25	27,500
海獣パレオパラドキシア	600		1		4	3	3							11	6,600
英雄たちの系譜	500		2							1		1		4	2,000
食と考古学	500	2	2	2				1	3		2		1	13	6,500
肖像に見る福島を築いた人々	900						2		1				2	5	4,500
武者たちが通る	400	1	4	1	4	1	1	4	5		2	2	3	28	11,200
発掘ふくしま3	1,100			1			3	1	1				1	7	7,700
笑いの想像力	2,000		2						2	1			1	6	12,000
老い	2,000													0	0
婚礼	1,500	2	2	5		1			1				1	12	18,000
馬と人との年代記	1,600	2	1	1	1	1	1	1	1			1	1	11	17,600
布の声をきく	1,300	3	1			2		2	2	2			4	16	20,800
徳川将軍家と会津松平家	1,200	2	4	4	1	2	10	11	9		1	1	3	48	57,600
樹と竹	1,200	2	3			1	1	1	1				2	11	13,200
わくわく!化石大集合	800		1		4	6	3		1					15	12,000
会津磐梯山	1,000	4			1		2	5	5	2	2	2	1	24	24,000
遠藤香村	1,500	1	3					3	1				2	10	15,000
岡本太郎の博物館	1,000						1	1			1			3	3,000
千少庵と蒲生氏郷	500			1	4			2	2		3	2		14	7,000
漆のチカラ	800			1					3				1	5	4,000
福島の土偶	500	1	2	6	1	1	4	2	3			1	1	22	11,000
保科正之の時代	1,000	7	21	7	4	8	13	17	18	5	5	5	1	111	111,000
小さなもの集まれ	500	267	180	40	7	5	2	2	22	50	3	5	3	586	293,000
恐竜時代のふくしま	500				104	143	74	8	6	39	1	1	4	380	190,000
会津の寺宝	1,000							1,057	318	10	6	9	7	1,407	1,407,000
紀要(数量)		13	2	18	8	7	4	4	6	2	1	6	4	75	
紀要(金額)		13,400	3,100	15,600	7,700	8,200	5,700	5,100	6,200	3,600	1,400	6,100	4,900	81,000	81,000
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	4		2	3	2	1	19	15		1			47	61,100
福島の古墳	1,200	1	3	3	5	3	7		8	1		1	1	33	39,600
福島の化石	1,500			1	3	1	1		1					7	10,500
戦時下の福島	800	1		1	2	1			1					6	4,800
福島の年中行事	1,100				1	2								3	3,300
ガイドブック	300	5	7	7	5	11	1	3			4		1	44	13,200
手引き(小)	700	1							1		1			3	2,100
常世原田遺跡	600	2	1											3	1,800
ふくしまの農具	1,000	1												1	1,000
報告書(数量)		3	13	18	10	5	2	22	24	3	2	11	3	116	0
報告書(金額)		2,600	21,300	23,600	11,500	4,800	4,700	29,400	25,700	5,400	2,000	12,000	4,300	147,300	147,300
絵葉書	50	53	23	8	6	9	40	6	57	8	3	3	3	219	10,950
クリアホルダー	200	16	1	12	1	9	3	8	10	2	7	7	3	79	15,800
勾玉セット	200	19	54	53	26	8		12	6			15	14	207	41,400
合計		440	335	156	222	308	211	1,245	603	149	59	83	89	3,900	3,047,950

V 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日条例第52号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年12月24日条例第93号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年3月24日条例第53号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額(一人当たり)		特 別 観 覧 料 の 額
	個 人	団 体	
一般(大学生を含む。)	260円	210円	その都度知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	無料	無料	その都度知事が定める額
中学生及び小学生	無料	無料	その都度知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

(昭和61年3月25日 条例第31号)

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館(以下「博物館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第5号)

(休館日)

第1条 福島県立博物館(以下「博物館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。

2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日当たるときを除く。

3 1月1日から同月4日まで

4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額(引率者にあつては全額)

3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあっては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあっては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。
（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額

2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年3月25日教育委員会規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年7月28日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年3月29日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年8月20日教育委員会規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月26日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年3月24日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立博物館	観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立博物館
--	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及び代表者の氏名

申請者

年 月 日

印

観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
第 年 月 日				
上記のとおり承認してほしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号

年 月 日

様

福島県立博物館長

印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
注 意 事 項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及び代表者の氏名

申請者

年 月 日

印

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年	月	日	
既納観覧料の 区分及び金額	区 分	人 数	金 額	
		人	円	
	合 計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してほしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	
受 付 月 日	・	・	決 裁 月 日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目 的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
 - 2 公印の管理に関すること。
 - 3 人事に関すること。
 - 4 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。
 - 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
 - 6 物品の調達及び処分に関すること。
 - 7 財産の管理に関すること。
 - 8 観覧料の徴収に関すること。
 - 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
 - 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。
- 2 学芸課においては、次の事務を行う。
- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
 - 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
 - 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
 - 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
 - 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
 - 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
 - 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館 長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課 長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副 主 査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専 門 員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則 (平成6年3月15日教育委員会規則第4号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年3月27日教育委員会規則第6号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。
附 則（平成14年3月29日教育委員会規則第18号）
この規則は、平成14年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則
この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

2 展示委員は次の任務を遂行する。

- (1) 展示計画原案の作成
- (2) 展示計画作成のための基礎的資料の収集
- (3) 展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

- イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。
- ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
- 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事	若干名
監 事	2名

2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠のため任ぜられた役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

3 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。

4 監事は、本会の会計を監査する。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

2 役員会は、必要のつど会長が招集する。

3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。

4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。

2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)。

3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)。

4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)。

5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)。

6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)。

7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)

VI 施設の概要

1. 建築概要

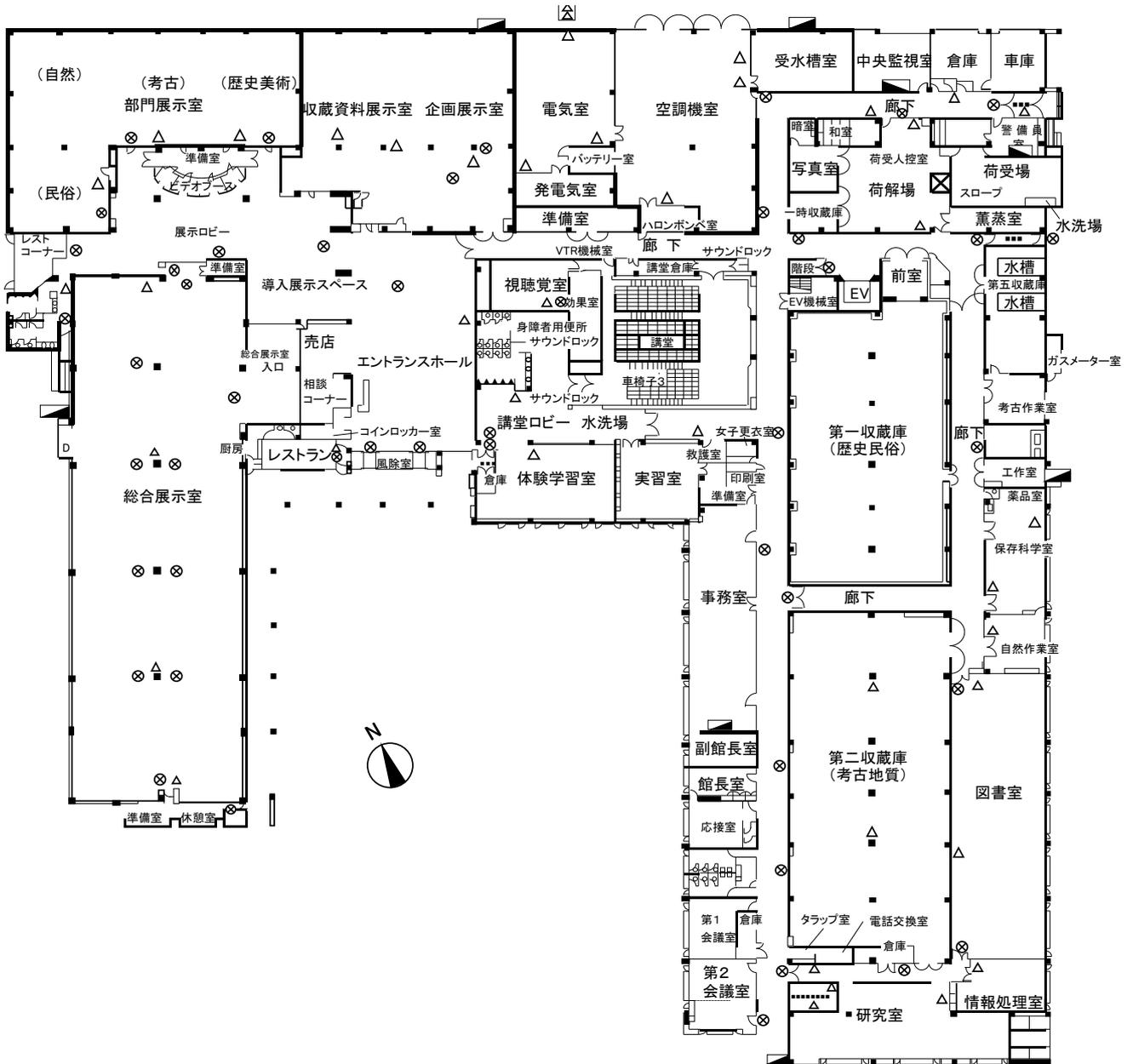
<p>設計者 (株)佐藤武夫設計事務所 工事監理 福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所 施工者 建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株) 共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備)工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)</p> <p>面積 敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡</p> <p>建築事業費 6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739</p> <p>規模 地上2階 最高の高さ 20.6m 最高の軒高 13.6m 地域地区 住居地域 風致地区第1種</p>	<p>構造 主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭</p> <p>外部仕上げ 屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電着着色仕上げ</p> <p>内部仕上げ (エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40^m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ(総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12^m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井(講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ(第1・3・6収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12^m/m 壁 杉板厚12^m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12^m/m 本実張(第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第4収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12^m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板</p> <p>工期 着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日</p>
---	---

2. 設備

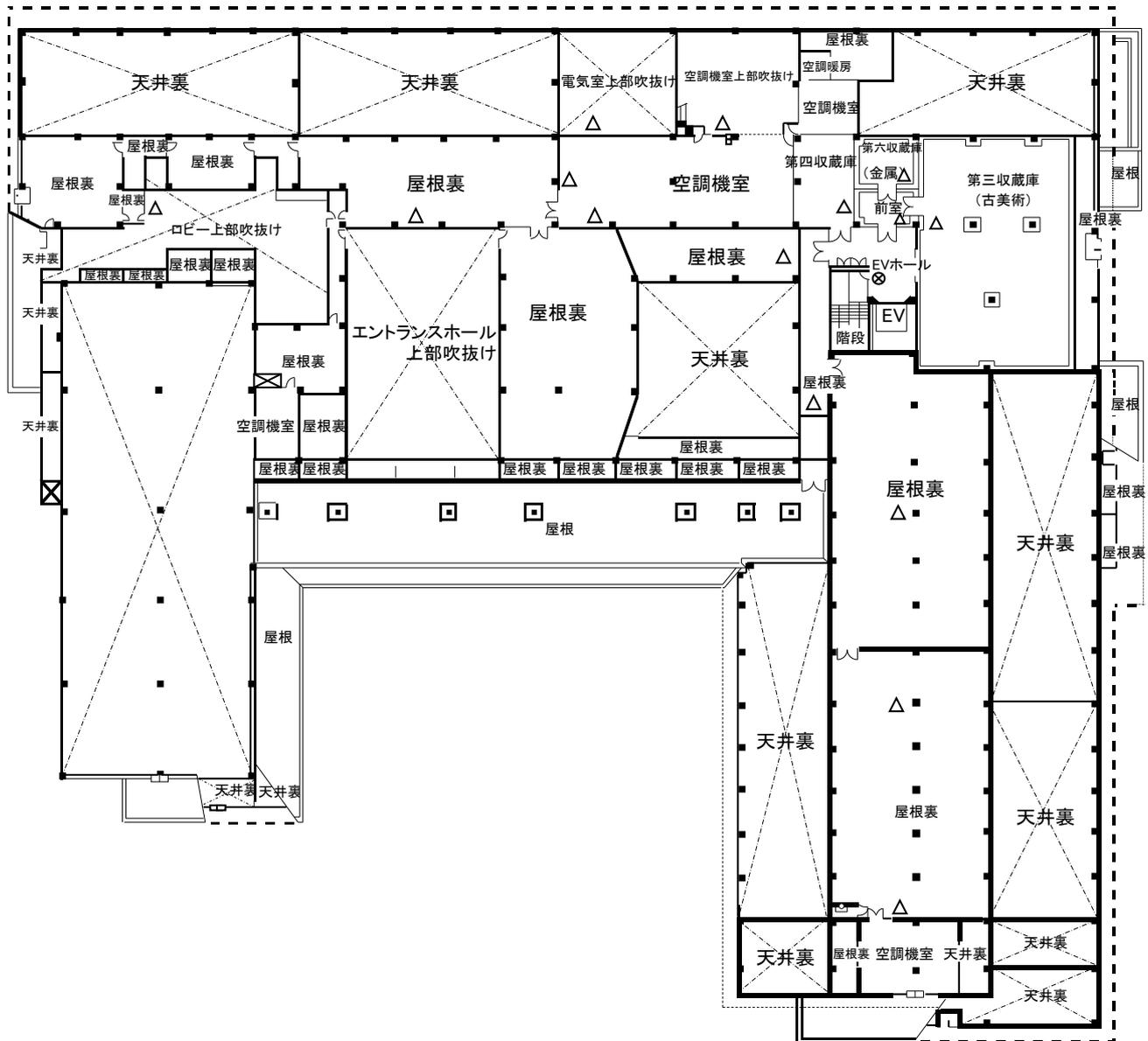
<p>電気設備 1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用) 1575KVA (冬季用) 400KVA 2. 非常用電源 発電機 3相3線式6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ AH-PE200AH86セル 3. その他 電話設備、インターホン設備、TV 共同視聴設備、自動火災報知器設備、 防火戸等制御設備、ガス漏報器設備、 非常用放送設備、ITV監視設備 4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオ デッキ、音響総合ラック</p> <p>空調設備 1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファン コイル ユニット方式 2. 熱源設備 ガス直焚冷水発生器 (150RT)×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー (396.00Kcal/H) 水冷式チーリング ユニット (120RT)</p> <p>衛生設備 1. 給水 市水道 受水槽：50㎡</p>	<p>2. 消火設備 (屋内) スプリンクラーとハロン消 化設備の併用、(屋外) 野外消火栓 昇降機設備 油圧式エレベーター定格荷重：3t1基 油圧式リフト 定格荷重：2t1基 融雪設備 ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋 根ヒーター・ドレンヒーター、外気 温度地面温度・降雪感知器・乾地面 温度・湿地面温度センサーの組み合 わせにより自動運転または手動運転。 監視設備 分散形総合監視制御システムにより、 受電設備・防災設備・熱源設備・空 調設備・融雪設備・庭園設備等を遠 方発停制御及び計測監視を行う。 電子交換外線3回線 内線64回線 電話設備 受信盤P型1級 60回線(自火報) 33 回線(防排煙設備)、煙感知機274箇 所、熱感知機93箇所、排煙区画8系 統、平面地図盤(照光式)により表示 電波センサー・電子サイン・ITV 防犯設備 を必要箇所に設置し、監視制御シ ステムと併用</p>
---	---

3. 平面図・各室一覧

1 階平面図



2階平面図



各室面積表

室名	面積(㎡)	備考	室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース 2,294.8 (㎡)			応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫 A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫 B	43.6	
第4収蔵庫	75.6	植物化石	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・収蔵資料展示室用
研究スペース 788.3 (㎡)			機械スペース 1,253.1 (㎡)		
研究室	238.4		空調機室 1 F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室 2 F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース 2,815.1 (㎡)			ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース 2,507.54 (㎡)		
教育普及スペース 693.1 (㎡)			エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワークショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース 719.5 (㎡)			その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成7年8月9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成8年10月1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場2台分）（～9.3.19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
平成14年9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11.20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
平成16年10月5日	屋根補修工事（～12.17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
平成17年7月22日	屋根補修工事（～10.4）
平成18年1月6日	熱源コントローラー交換工事（～18.3.17） スプリンクラーヘッド交換工事（～18.3.17）
平成19年1月5日	スプリンクラー設備修繕工事（～19.3.23）
平成19年2月1日	1階床張替え補修工事（～19.3.23）
平成19年2月21日	ウォシュレット取付け工事（～19.3.19）
平成21年1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～21.3.24）
平成21年6月3日	冷却塔ヘッダー管交換2回（～21.12.25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.2.26）
平成22年2月17日	企画展示室改修工事（～22.3.29）
平成22年11月16日	中央監視システム更新工事（～23.4.25）
平成22年11月26日	空調熱源機器改修工事（～23.4.22）
平成23年1月20日	空調設備改修工事（～23.4.25）

VII 利用案内

● 開館時間

午前 9 時 30 分～午後 5 時（最終入館は午後 4 時 30 分まで）

● 休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内くん蒸などのために臨時に休館することがあります。

● 観覧料

- ◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生260円（210円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
 - ★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。（常設展のみ）
 - ★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。
 - ★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は無料。（常設展のみ）
 - ★展示室以外の入館は無料。

● 常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／9月第3月曜日（敬老の日）／11月3日（文化の日）／8月21日（県民の日）

● 企画展無料開放日（高校生以下のみ）

11月1日～11月7日（ふくしま教育週間）

● 交通案内



◎会津若松駅より約 3 km

◎市内バス利用の場合

- ①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分
- ②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分
- ③病院循環バス「ひまわり」県立病院前下車徒歩 5 分

● 体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

● 講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第27号

平成25年11月15日 印刷

平成25年11月15日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

印刷 キング印刷株式会社

〒960-1106 福島市下鳥渡字新町西6-1

TEL (024) 544-2121

この年報の本文は再生紙を使用しています。

福島県立博物館